

四街道市障害者基本計画策定のための
アンケート調査

結果報告書

平成28年 3月

四街道市

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査対象.....	1
3 調査時期.....	1
4 調査方法.....	1
5 回収状況.....	1
6 調査項目.....	1
II 調査結果	4
(1) 身体障害者調査	4
1 回答者の基本的な属性等.....	4
2 日常生活における介助の状況.....	8
3 日中の過ごし方.....	9
4 通園・通学の状況.....	9
5 就労について.....	10
6 外出・社会参加の状況.....	13
7 差別や人権侵害等の状況.....	17
8 生活で困っていること.....	19
9 福祉に関する情報入手について.....	21
10 今後、希望する暮らし方.....	23
11 災害時の対応.....	24
12 障害者施策を進める上で充実を図ること.....	27
(2) 知的障害者調査	31
1 回答者の基本的な属性等.....	31
2 日常生活における介助の状況.....	33
3 日中の過ごし方.....	34
4 通園・通学の状況.....	35
5 就労について.....	36
6 外出・社会参加の状況.....	38
7 差別や人権侵害等の状況.....	41
8 生活で困っていること.....	42
9 福祉に関する情報入手について.....	44
10 今後、希望する暮らし方.....	46
11 災害時の対応.....	47
12 障害者施策を進める上で充実を図ること.....	49
(3) 精神障害者調査	52
1 回答者の基本的な属性等.....	52
2 日常生活における介助の状況.....	55
3 日中の過ごし方.....	56
4 就労について.....	57
5 外出・社会参加の状況.....	59
6 差別や人権侵害の状況.....	62
7 生活で困っていること.....	63
8 福祉に関する情報入手について.....	65
9 今後、希望する暮らし方.....	67
10 災害時の対応.....	68
11 障害者施策を進める上で充実を図ること.....	70

(4) 難病療養者調査	73
1 回答者の基本的な属性等.....	73
2 日常生活における介助の状況.....	76
3 日中の過ごし方.....	77
4 通園・通学の状況.....	77
5 就労について.....	77
6 外出・社会参加の状況.....	79
7 差別や人権侵害の状況.....	81
8 生活で困っていること.....	82
9 福祉に関する情報入手について.....	83
10 サービスの利用状況・利用意向.....	84
11 災害時の対応.....	85
12 障害者施策を進める上で充実を図ること.....	86
Ⅲ 資料 調査票	88

I 調査の概要

1 調査の目的

四街道市障害者基本計画を策定するにあたり、四街道市内における障害のある方々の日常生活状況やサービスの利用状況、障害者福祉に関する意識等を把握し、計画策定の基礎資料とするためアンケート調査を実施した。

2 調査対象

市内在住の身体障害者手帳所持者2,459名、療育手帳所持者458名、精神障害者保健福祉手帳所持者500名、難病療養者見舞金を受給している方496名

3 調査時期

平成27年6月

4 調査方法

郵送配布・郵送回収、礼状兼督促状を全対象者へ送付

5 回収状況

区 分	対象者数	有効回収数	有効回収率
身体障害者	2,459名	1,689	68.7%
知的障害者	458名	287	62.7%
精神障害者	500名	284	56.8%
難病療養者	496名	328	66.1%
計	3,913名	2,588	66.1%

6 調査項目

分類	設問項目	身体障害者調査	知的障害者調査	精神障害者調査	難病療養者調査
回答者の基本的な属性等	性別、年齢	問1	問1	問1	問1
	疾病名	—	—	—	問2
	治療の有無	—	—	—	問3
	健康管理や医療について困ったり不便に思うこと	—	—	—	問4
	障害の程度	問2	問2	問2	—
	障害の種類	問3	—	—	—
	障害状態になった時期	問4	—	—	—
	障害の主な原因	問5	—	—	—
	身体障害者手帳の所持状況	—	問3	—	—
	精神障害者保健福祉手帳を初めて所持した年齢	—	—	問3	—
	精神科・神経科の病院への入院経験	—	—	問7(1)	—
	入院期間	—	—	問7(2)	—
	介護保険によるサービスの利用状況	問8	問6	問6	問10
	要介護度	問8-1	問6-1	問6-1	問10-1
	医療ケアの必要性	問9	問7	—	—
	現在の生活場所	問6	問4	問4	問5
	同居家族	問7	問5	問5	問6
調査票の記入者	問38	問38	問38	問31	

分類	設問項目	身体障害者調査	知的障害者調査	精神障害者調査	難病療養者調査
日常生活における介助の状況	日常生活における介助の必要性	問10	問8	問8	問11
	主な介助者	問10-1	問8-1	問8-1	問11-1
	主な介助者が介助できない場合の対応	問10-2	問8-2	問8-2	問11-2
日中の過ごし方	日中の主な過ごし方	問11	問9	問9	問12
通園・通学の状況	通園・通学先	問11-1	問9-1	—	—
	通園・通学していて困っていること	問11-2	問9-2	—	問12-1
就労について	収入を伴う仕事の状況	問12	問10	問10	—
	就労形態	問12-1	問10-1	問10-1	問12-2
	就労日数	問12-2	問10-2	問10-2	問12-3
	仕事をする上での不安や不満	問12-3	問10-3	問10-3	問12-4
	働いていない理由	問12-4	問10-4	問10-4	—
	働くことが無理だといわれた経験	—	—	—	問12-5
外出・社会参加の状況	外出の際に利用する交通手段	問13	問11	問11	—
	外出の際に困っていること	問14	問12	問12	問13
	余暇活動等の状況	問15	問13	問13	問14
	今後の生活の中で充実させたいこと	問16	問14	問14	問15
	スポーツ等の催しへの参加意向	問17	問15	問15	問16
	身体活動やスポーツに対する意識	問18	問16	問16	問17
	身体活動やスポーツの具体的な希望	問18-1	問16-1	問16-1	問17-1
	地域や社会に参加するために必要なこと	問19	問17	問17	—
差別や人権侵害等の状況	差別や人権侵害、虐待を受けていると感じること	問20	問18	問18	問18
	差別や人権侵害、虐待の具体的な内容	問21	問19	問19	問19
	市民の理解	問22	問20	問20	問20
	「障害者差別解消法」の認知状況	問23	問21	問21	—
生活で困っていること	現在の生活で困っていること、不安を感じていること	問24	問22	問22	—
	悩みや困ったことの相談先	問25	問23	問23	問21
	現在、相談したいことの有無	問26	問24	問24	問22
	相談したい内容	問26-1	問24-1	問24-1	問22-1
福祉に関する情報入手について	福祉に関する情報の入手先	問27	問27	問27	問23
	情報を得られないで困ったことの有無	問28	問28	問28	問24
	情報を得られないで困ったことの内容	問28-1	問28-1	問28-1	問24-1
	入手したいと思う情報	問29	問29	問29	問25
	成年後見制度の認知状況	—	問25	問25	—
	成年後見制度の利用意向	—	問26	問26	—
サービスの利用状況・利用意向	障害者総合支援法の認知状況	—	—	—	問7
	サービスの利用経験	—	—	—	問8～ 問9
	サービスの利用意向	—	—	—	
今後、希望する暮らし方	希望する生活形態	問30	問30	問30	—
	自宅での生活を続けるために必要な条件	問30-1	問30-1	問30-1	—

分類	設問項目	身体障害者調査	知的障害者調査	精神障害者調査	難病療養者調査
災害時の対応	一人避難の可否	問31	問31	問31	問26
	周囲へ状況を知らせることの可否	問32	問32	問32	—
	近所に助けてくれる人の有無	問33	問33	問33	問27
	災害発生時に支援してほしいこと	問34	問34	問34	—
	災害時に困ること、不安なこと	問35	問35	問35	問28
	「避難行動要支援者避難支援制度」の認知状況	問36	問36	問36	問29
障害者施策を進める上で充実を図ること	障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこと	問37	問37	問37	問30
	意見・要望	問	問	問	問

【この報告書における調査結果の見方】

- 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はTOTAL及びnで示している。
- 回答率(%)については、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。
- 回答には、単一回答(○は1つ)と複数回答(○はいくつでも)の2種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は100%を超える場合がある。
- 調査結果を示した図表においては、表側から「無回答」等の項目を省略している場合がある。このような場合、「無回答」の人数(割合)はTOTALのみに計上されているため、各項目の合計値は必ずしも100%とならない場合がある。
- 図表の問のタイトル及び、回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な問のタイトル及び、回答の選択肢は、調査票を参照されたい。
- 自由回答を掲載する場合は、性別・年齢・障害の種類(身体障害者調査のみ)も掲載しているが、紙面の都合上、以下のように省略して表記している。(性別・年齢・障害の種類が無回答の場合は表記はなし。)
「視覚障害」／「聴覚障害」／「平衡機能障害」→「平衡」／「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」→「音声」／「肢体不自由(上肢、下肢、体幹)」→「肢体不自由」／「内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓の機能の障害)」→「内部障害」

I
調査の概要

II
調査結果

(1) 身体障害者調査

II
調査結果

(2) 知的障害者調査

II
調査結果

(3) 精神障害者調査

II
調査結果

(4) 難病療養者調査

III
資料
調査票

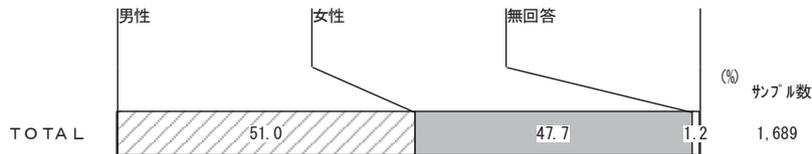
II 調査結果

(1) 身体障害者調査

1 回答者の基本的な属性等

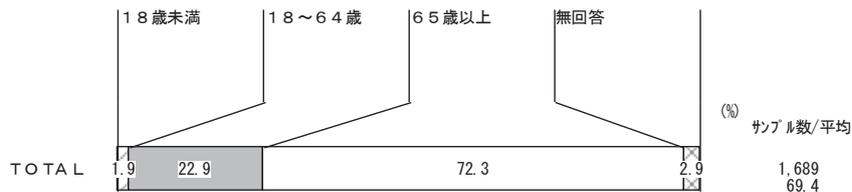
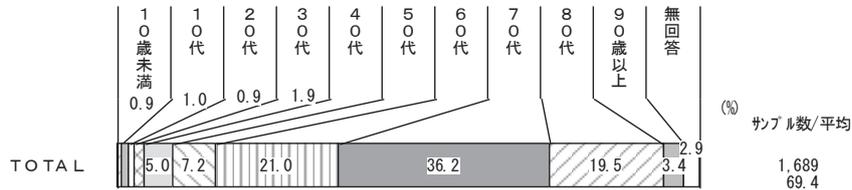
(1) 性別

回答者の性別は、男性が51.0%、女性が47.7%である。



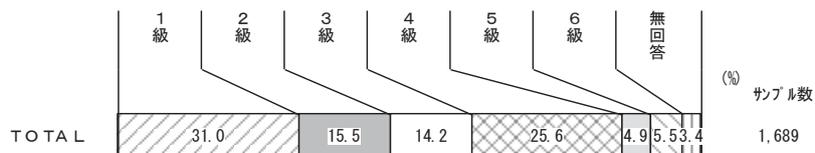
(2) 年齢

年齢は、65歳以上が72.3%を占めており、平均年齢は69.4歳である。



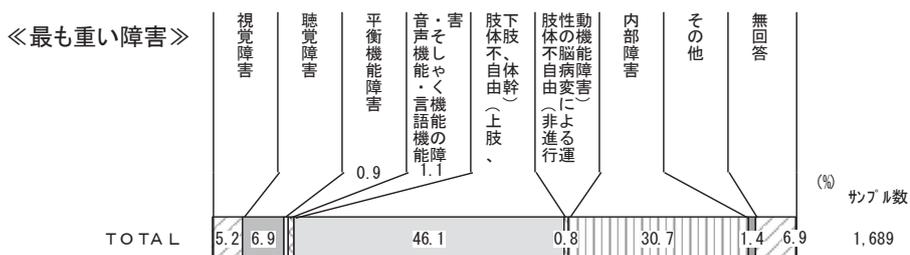
(3) 障害の程度

身体障害者手帳に記載されている障害程度の内訳は、「1級」31.0%、「2級」15.5%、「3級」14.2%、「4級」25.6%、「5級」4.9%、「6級」5.5%である。

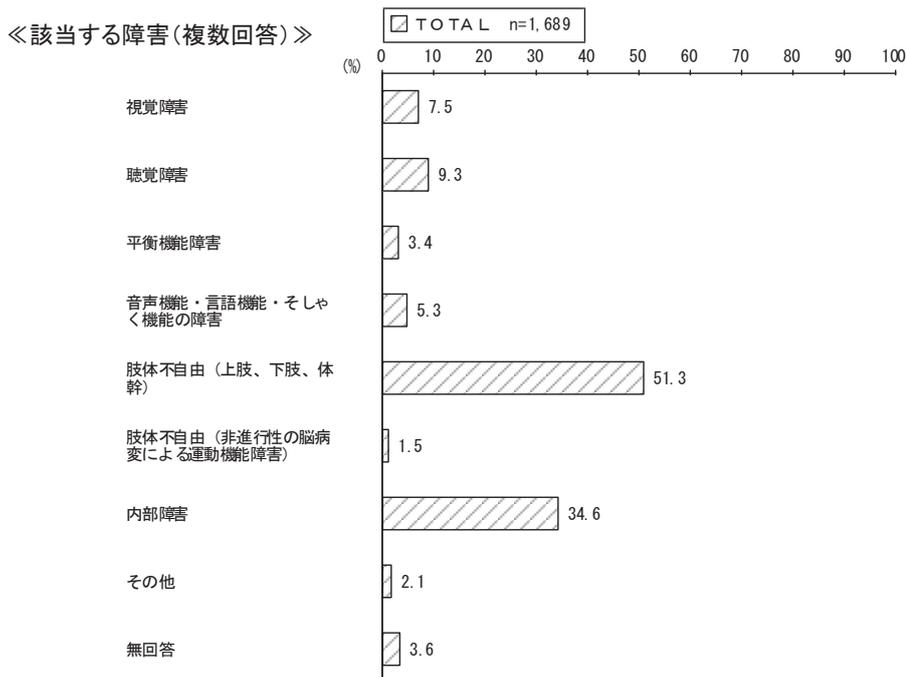


(4) 障害の種類

身体障害者手帳に記載されている障害の種類のうち、最も重い障害の種類の内訳は、「肢体不自由(上肢、下肢、体幹)」46.1%、「内部障害」30.7%、「聴覚障害」6.9%、「視覚障害」5.2%である。



なお、該当する障害をすべてあげてもらった場合の内訳は、「肢体不自由(上肢、下肢、体幹)」が51.3%と最も多く、次いで「内部障害」(34.6%)、「聴覚障害」(9.3%)、「視覚障害」(7.5%)と続いている。



(5) 障害状態になった時期

障害状態になった時期は、「60歳以上」が42.4%を占めている。

最も重い障害の種類別に見ると、視覚障害では「出生時(出生前を含む)」が21.8%と最も多く、内部障害では「60歳以上」が55.3%と最も多くなっている。

	(n)	時期										
		出生時 (出生前 を含む)	乳幼児 期(0~ 5歳)	学齢期 (小学校 入学時 ~中学 校卒業 まで)	中学校 卒業~ 17歳頃	18~ 29歳頃	30~ 39歳頃	40~ 49歳頃	50~ 59歳頃	60歳 以上	わから ない	無回答
TOTAL	1,689	5.2	4.6	1.7	1.0	5.0	6.0	10.7	19.9	42.4	1.2	2.3
視覚障害	87	21.8	6.9	3.4	1.1	6.9	9.2	14.9	13.8	20.7	1.1	0.0
聴覚障害	117	14.5	9.4	5.1	1.7	2.6	6.8	6.8	14.5	33.3	4.3	0.9
平衡機能障害	16	—	—	—	—	6.3	6.3	6.3	43.8	31.3	6.3	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	18	5.6	—	—	—	5.6	—	11.1	16.7	55.6	—	5.6
肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	779	3.7	6.2	1.8	1.4	7.1	6.9	12.1	21.7	38.1	0.4	0.6
肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	13	46.2	23.1	—	—	—	7.7	—	—	23.1	—	—
内部障害	519	1.9	0.6	1.0	0.4	2.3	4.0	10.0	21.8	55.3	2.1	0.6
その他	24	4.2	—	—	—	12.5	8.3	16.7	4.2	50.0	0.0	4.2
無回答	116	3.4	5.2	0.9	0.9	3.4	5.2	6.0	12.1	38.8	0.0	24.1

(6) 障害の主な原因

障害の主な原因は、「その他の疾患」が27.5%と最も多いが、24.6%は「わからない」と回答している。

最も重い障害の種類別にみると、肢体不自由(上肢、下肢、体幹)では、「脳血管疾患」を原因とする人が21.4%、「交通事故」を原因とする人が8.2%みられる。

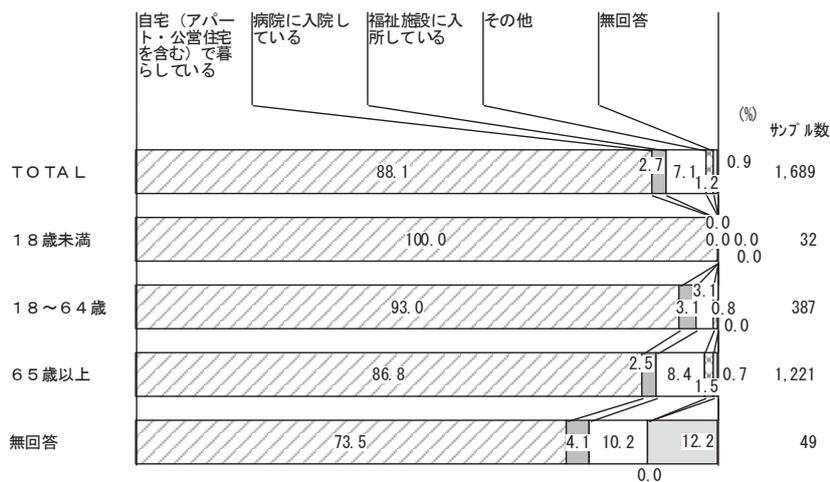
(%)

	(n)	交通事故	労働災害	その他の事故	脳血管疾患	糖尿病	その他の疾患	出生時の損傷	その他	わからない	無回答
TOTAL	1,689	4.5	3.8	3.6	12.9	5.7	27.5	4.2	8.3	24.6	4.9
視覚障害	87	3.4	1.1	1.1	3.4	18.4	25.3	5.7	8.0	32.2	1.1
聴覚障害	117	1.7	2.6	2.6	2.6	0.9	13.7	6.8	13.7	52.1	3.4
平衡機能障害	16	6.3	—	—	43.8	6.3	6.3	—	31.3	6.3	—
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	18	—	11.1	—	33.3	—	22.2	—	11.1	22.2	—
肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	779	8.2	6.4	6.2	21.4	1.7	25.3	5.6	6.5	15.7	3.0
肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	13	—	—	—	38.5	—	7.7	23.1	—	23.1	7.7
内部障害	519	0.4	0.4	0.6	1.7	10.6	40.3	1.5	8.7	32.2	3.7
その他	24	0.0	4.2	—	4.2	—	20.8	—	25.0	33.3	12.5
無回答	116	3.4	4.3	4.3	14.7	8.6	8.6	2.6	6.9	19.0	27.6

(7) 現在の生活場所

現在、「自宅(アパート・公営住宅を含む)で暮らしている」人が88.1%、「福祉施設に入所している」人が7.1%、「病院に入院している」人が2.7%である。

年齢別にみると、65歳以上では、約1割が「福祉施設に入所している」(8.4%)状況である。



(8) 同居家族(複数回答)

一緒に暮らしている家族は、「配偶者(夫・妻)」が61.7%と最も多く、次いで「子ども」が36.7%が続いている。なお、「ひとり暮らし」の人は12.4%である。

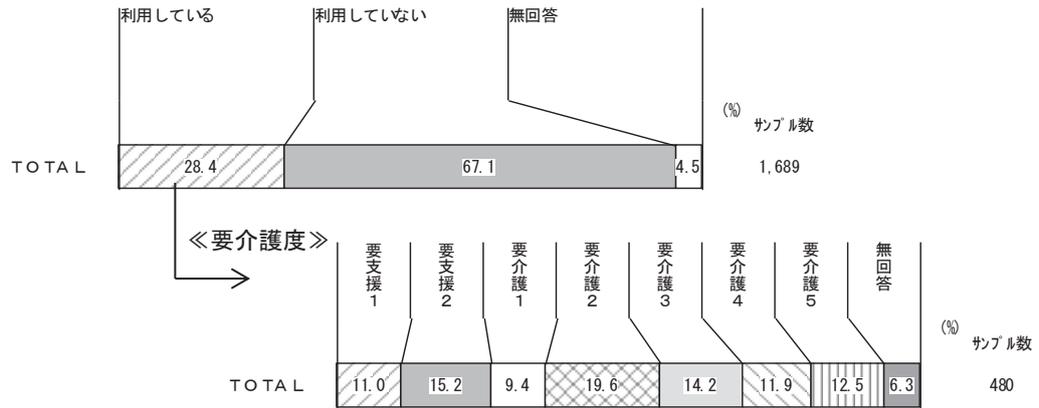
年齢別にみると、18歳未満では、親(母親もしくは父親)と暮らしている人が9割以上で、約8割には「兄弟・姉妹」(78.1%)がいる。

(%)

	(n)	ひとり暮らし	父親	母親	配偶者(夫・妻)	子ども	子どもの配偶者(婿・嫁)	配偶者の親(しゅうと・しゅうとめ)	兄弟・姉妹	祖父母	孫	その他	無回答
TOTAL	1,689	12.4	5.6	7.5	61.7	36.7	9.2	0.9	4.2	0.5	7.0	1.5	2.0
18歳未満	32	—	93.8	96.9	—	—	—	—	78.1	9.4	—	—	—
18~64歳	387	12.1	15.5	21.4	60.7	37.5	2.8	2.6	8.5	1.3	1.6	2.3	0.5
65歳以上	1,221	12.6	0.2	0.8	64.0	38.0	11.5	0.5	0.8	—	9.0	1.2	2.0
無回答	49	16.3	6.1	4.1	51.0	22.4	6.1	—	6.1	—	6.1	2.0	14.3

(9) 介護保険によるサービスの利用状況

介護保険によるサービスを「利用している」人は、28.4%である。
 利用者の要介護度の内訳をみると、「要介護2」が19.6%と最も多い。



(10) 医療ケアの必要性 (複数回答)

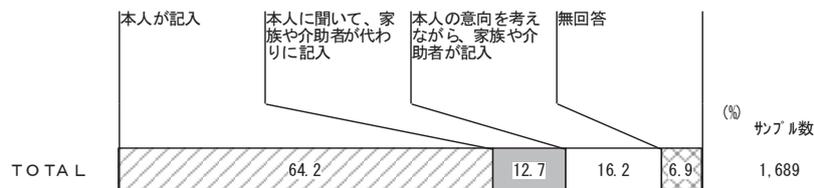
現在、医療ケアを受けている人は、「服薬管理」が27.4%、「透析」が7.1%、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」が4.9%などとなっている。

最も重い障害の種類別にみると、内部障害では、21.4%の人が「透析」を受け、14.3%の人が「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」を造設している。

	(n)	医療ケアは受けていない	服薬管理	透析	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	カテーテル留置	胃ろう・腸ろう	吸引	吸入	鼻腔経管栄養	気管切開	人工呼吸器(レスピレーター)	中心静脈栄養(IVH)	その他	無回答
TOTAL	1,689	32.4	27.4	7.1	4.9	2.8	2.1	1.8	1.1	0.8	0.7	0.5	0.5	6.8	22.9
視覚障害	87	41.4	31.0	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.4	25.3
聴覚障害	117	51.3	18.8	—	—	—	0.9	0.9	0.9	—	—	—	0.9	6.0	28.2
平衡機能障害	16	43.8	25.0	—	—	—	6.3	—	—	—	—	—	—	6.3	18.8
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	18	33.3	22.2	—	—	—	16.7	16.7	22.2	11.1	11.1	—	—	11.1	16.7
肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	779	38.4	28.2	0.6	0.8	2.4	2.3	1.9	0.4	0.9	0.8	0.4	0.5	4.4	26.7
肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	13	23.1	30.8	—	—	—	—	15.4	7.7	7.7	—	—	—	7.7	38.5
内部障害	519	19.8	27.9	21.4	14.3	4.6	1.0	1.3	1.3	0.4	0.4	0.8	0.8	10.8	11.9
その他	24	25.0	29.2	4.2	—	—	—	—	—	4.2	—	—	—	16.7	20.8
無回答	116	23.3	25.0	1.7	1.7	4.3	6.9	1.7	1.7	0.9	1.7	1.7	—	6.0	39.7

(11) 調査票の記入者

本調査の調査票は、「本人が記入」が64.2%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が12.7%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が16.2%である。



2 日常生活における介助の状況

(1) 日常生活における介助の必要性

日常の生活の中の「食事をする」「トイレ」「入浴」「衣服の着脱」「家の中の移動」「家事(調理、掃除、洗濯)」「外出」のうち、介助が必要な人(全部または一部)の割合が最も高いのは「外出」で、36.5%の人が何らかの介助を必要としている。

n=1,689						(%)
	一人でできる	時間をかければ一人でできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答	介助が必要(一部+全部)
食事をする	73.9	7.7	6.7	4.1	7.5	→ 10.8
トイレ	70.3	7.0	6.3	8.5	7.9	→ 14.8
入浴	60.7	7.0	11.1	13.4	7.6	→ 24.5
衣服の着脱	62.6	10.8	10.7	8.3	7.6	→ 19.0
家の中の移動	64.8	11.8	6.5	7.6	9.3	→ 14.1
家事(調理、掃除、洗濯)	44.4	12.0	11.4	20.8	11.4	→ 32.2
外出	46.6	8.4	15.2	21.3	8.5	→ 36.5

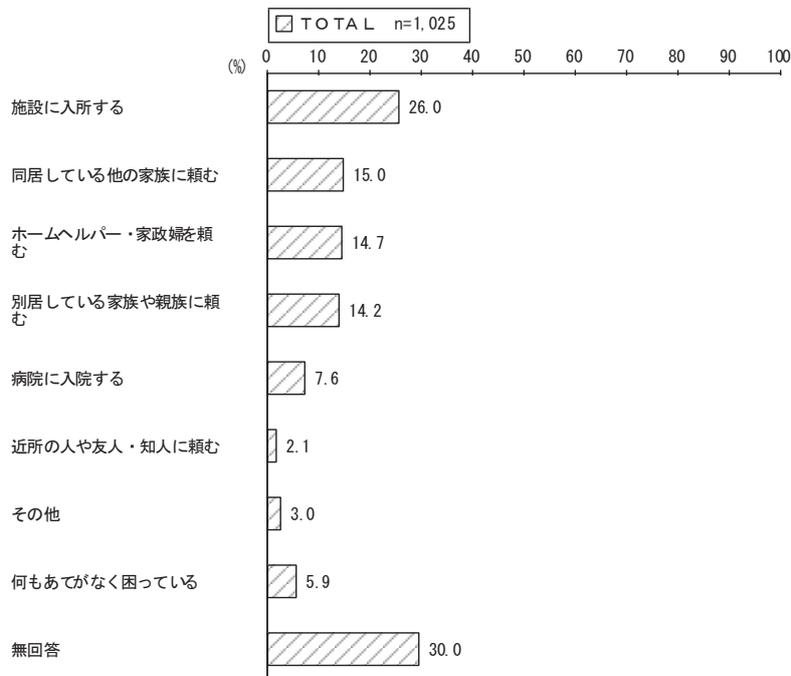
(2) 主な介助者

主な介助者は、「配偶者(夫・妻)」が34.7%と最も多く、次いで「施設や病院の職員」(14.2%)、「子ども」(11.4%)と続いている。

n=1,025														(%)
	配偶者(夫・妻)	父親	母親	子ども	子どもの配偶者	その他同居している家族	別居している家族や親族	近所の人	友人・知人	ホームヘルパー・家政婦	ボランティア	病院や施設の職員	その他	無回答
	34.7	1.3	3.7	11.4	1.9	1.5	1.9	0.5	0.5	3.5	0.2	14.2	0.1	24.7

(3) 主な介助者が介助できない場合の対応(主なもの2つまで)

いつも介助している介助者が介助できなくなった場合には、「施設に入所する」と回答した人が26.0%と最も多く、次いで「同居している他の家族に頼む」(15.0%)、「ホームヘルパー・家政婦を頼む」(14.7%)と続いている。



3 日中の過ごし方

(1) 日中の主な過ごし方

平日の日中の主な過ごし方としては、約6割が「自宅にすることが多い」(59.4%)と回答している。

年齢別にみると、18～64歳では、「会社等で働いている」が38.5%、「自宅にすることが多い」が42.9%となっている。

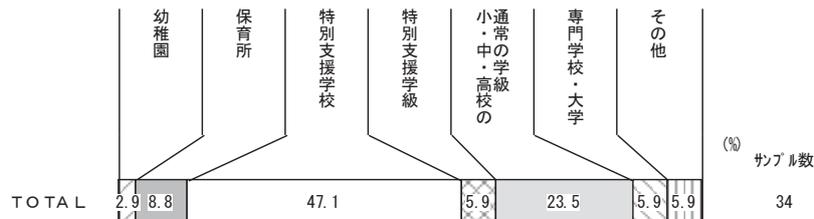
(%)

(n)	幼稚園・保育園・学校に通っている	会社等で働いている	生活介護・療養介護に通っている	福祉作業所に通っている	就労系事業所に通っている	入所施設にすることが多い	入院して療養している	自宅にすることが多い	その他	無回答	
TOTAL	1,689	2.0	12.9	2.2	0.6	0.4	6.9	2.5	59.4	4.6	8.5
18歳未満	32	90.6	—	—	—	—	—	—	9.4	—	—
18～64歳	387	0.8	38.5	1.8	1.6	1.6	4.4	2.3	42.9	2.8	3.4
65歳以上	1221	0.2	5.6	2.5	0.2	—	7.9	2.5	65.9	5.2	9.8
無回答	49	—	2.0	—	2.0	—	6.1	4.1	61.2	4.1	20.4

4 通園・通学の状況

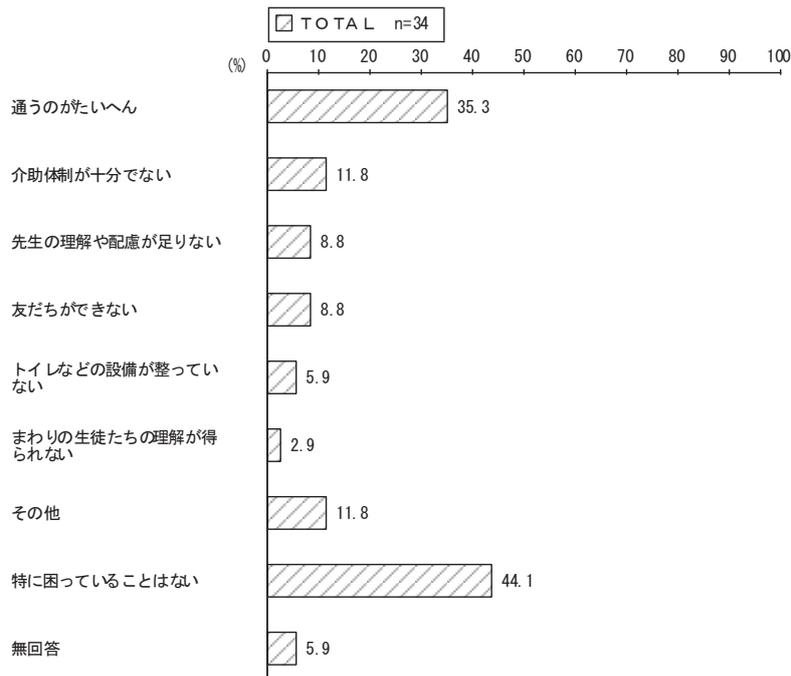
(1) 通園・通学先

通園・通学先は、「特別支援学校」が47.1%、「小・中・高校の通常の学級」が23.5%である。



(2) 通園・通学して困っていること（複数回答）

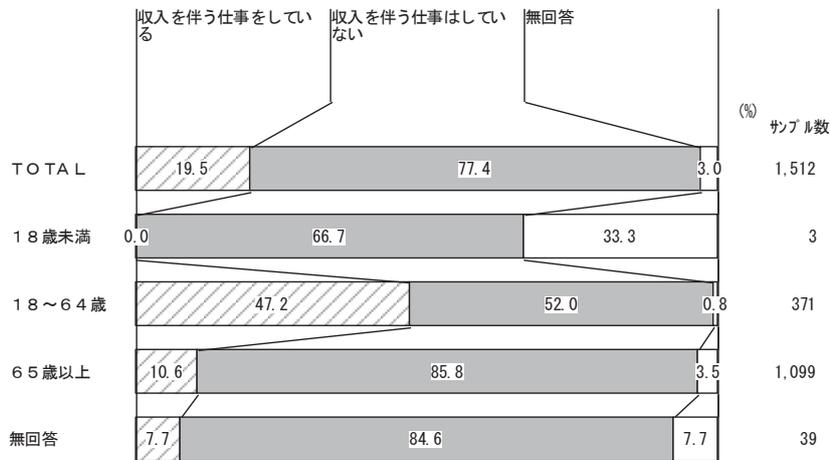
通園・通学して困っていることは、44.1%が「特にない」と回答しているが、35.3%は「通うのがたいへん」、11.8%は「介助体制が十分でない」ことをあげている。



5 就労について

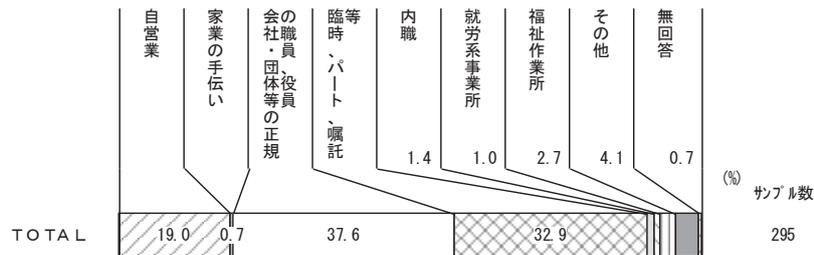
(1) 収入を伴う仕事の状況

18～64歳で、現在「収入を伴う仕事をしている」人は、47.2%である。



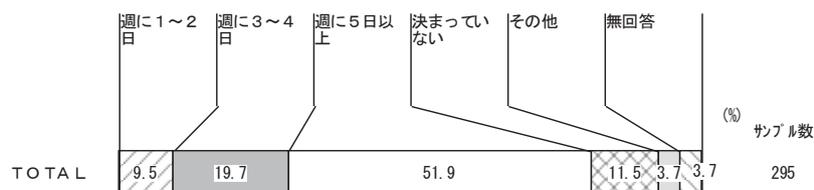
(2) 就労形態

就労の形態は、「会社・団体等の正規の職員、役員」が37.6%と最も多く、次いで「臨時、パート、嘱託等」(32.9%)、「自営業」(19.0%)と続いている。



(3) 就労日数

就労日数は、「週に5日以上」が51.9%、「週に3～4日」が19.7%である。



就労形態別にみると、会社・団体等の正規の職員、役員では、「週に5日以上」が80.2%、臨時、パート、嘱託等では、「週に3～4日」が40.2%、「週に5日以上」が34.0%となっている。

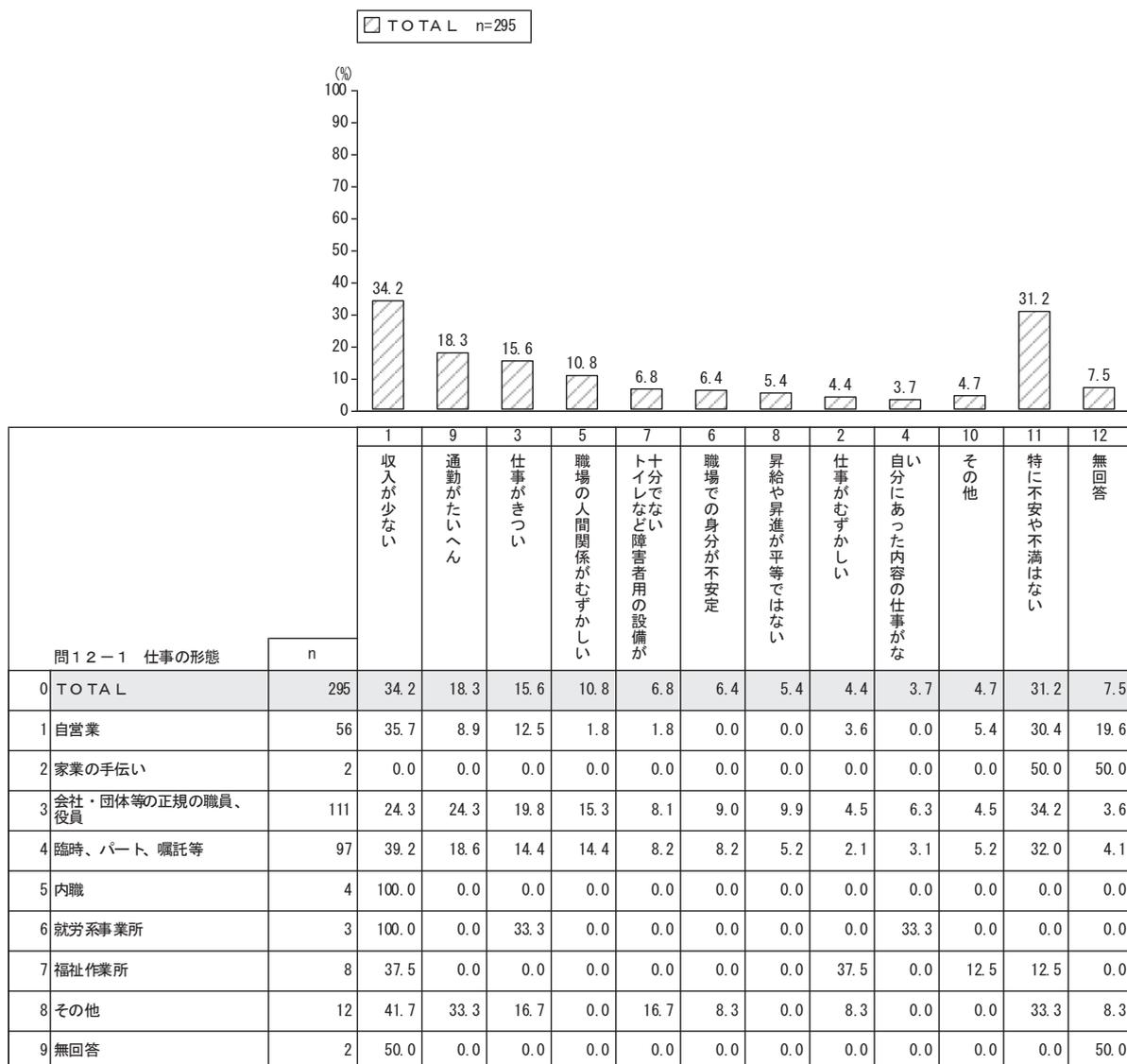
(%)

	(n)	週に1～2日	週に3～4日	週に5日以上	決まっていない	その他	無回答
会社・団体等の正規の職員、役員	111	4.5	9.9	80.2	2.7	1.8	0.9
臨時、パート、嘱託等	97	13.4	40.2	34.0	7.2	4.1	1.0

(4) 仕事をする上での不安や不満（複数回答）

仕事をする上での不安や不満としては、「収入が少ない」ことをあげる人が34.2%と最も多く、次いで「通勤がたいへん」(18.3%)、「仕事がつい」(15.6%)と続いている。

就労形態別にみると、会社・団体等の正規の職員、役員では、「昇給や昇進が平等ではない」ことをあげた人が約1割(9.9%)みられる。

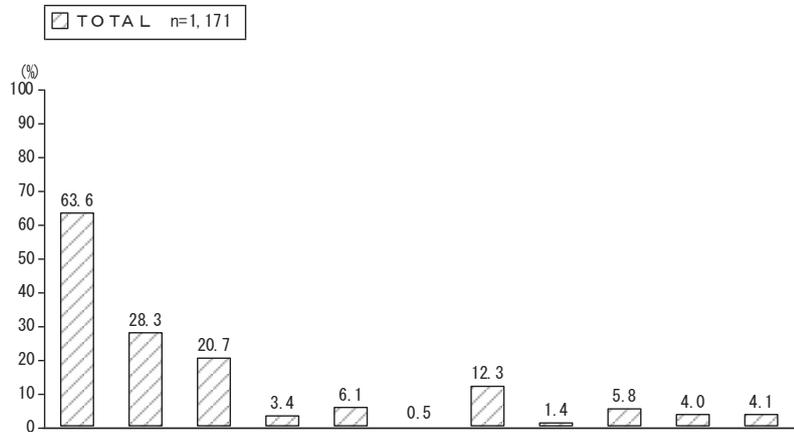


(5) 働いていない理由（複数回答）

現在、働いていない理由は、「高齢のため」が63.6%と最も多く、次いで「重い障害のため」(28.3%)、「病気のため(入院を含む)」(20.7%)と続いている。

年齢別にみると、18～64歳では、「重い障害のため」が40.4%と最も多く、次いで「病気のため」(33.2%)、「通勤がむずかしいため」(13.5%)と続いている。

年齢が18～64歳の人について、障害の程度別にみても、重度(1級・2級)では「重い障害のため」と回答した人が約半数(51.9%)となっている。

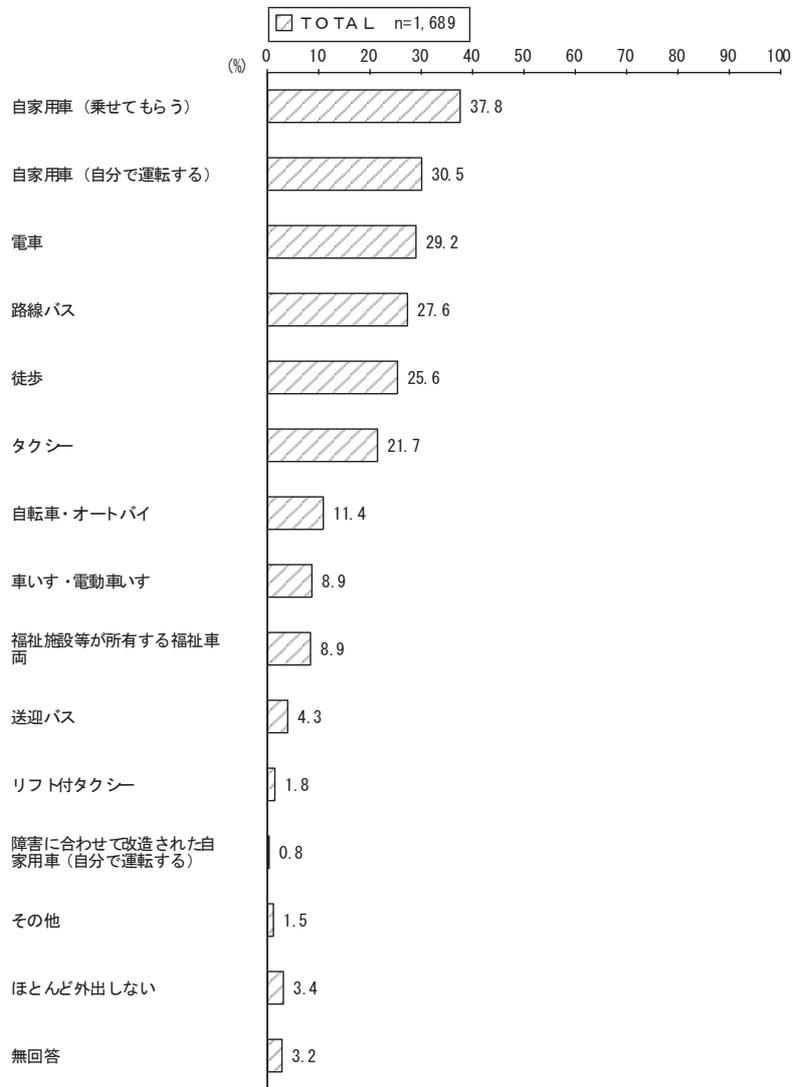


問1 年齢 (3区分)	n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		高齢のため	重い障害のため	病気のため (入院を含む)	希望する仕事につけないため	通勤がむずかしいため	職場の人間関係が苦手なため	働く必要がないため	解雇されたため	その他	特に理由はない	無回答
0 TOTAL	1,171	63.6	28.3	20.7	3.4	6.1	0.5	12.3	1.4	5.8	4.0	4.1
1 18歳未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
2 18～64歳	193	8.3	40.4	33.2	11.9	13.5	1.0	9.8	3.6	13.0	7.3	1.6
3 65歳以上	943	75.5	26.0	18.1	1.7	4.8	0.2	13.0	0.8	4.3	3.4	4.3
4 無回答	33	51.5	24.2	21.2	3.0	3.0	6.1	6.1	3.0	0.0	3.0	12.1
問2 障害の程度 年齢18～64歳のみ												
1 重度 (1級・2級)	133	6.0	51.9	34.6	9.8	12.8	0.8	6.8	2.3	11.3	4.5	1.5
2 中度 (3級・4級)	40	10.0	15.0	25.0	17.5	17.5	2.5	20.0	5.0	15.0	15.0	2.5
3 軽度 (5級・6級)	15	26.7	13.3	33.3	20.0	13.3	0.0	6.7	13.3	26.7	13.3	0.0

6 外出・社会参加の状況

(1) 外出の際に利用する交通手段（複数回答）

外出の際によく利用する交通手段は、「自家用車(乗せてもらう)」が37.8%と最も多く、次いで「自家用車(自分で運転する)」(30.5%)、「電車」(29.2%)と続いている。



(2) 外出の際に困っていること（複数回答）

外出の際に困っていることとしては、「歩道が狭く、道路に段差が多い」をあげる人が18.2%と最も多く、次いで「障害者用のトイレが少ない」(12.6%)、「電車やバスなどの交通機関を利用しづらい」(12.2%)と続いている。

主な障害の種類別にみると、視覚障害では18.4%が「音響式信号機がない」こと、聴覚障害では29.9%が「他人との会話がむずかしい」ことで、外出の際に困っている。

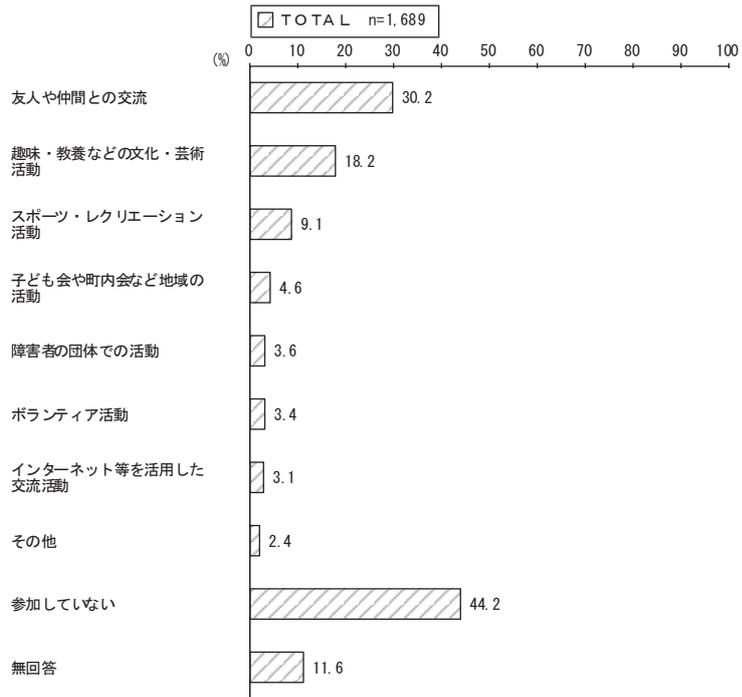
(%)

	歩道が狭く、道路に段差が多い	障害者用のトイレが少ない	電車やバスなどの交通機関を利用しづらい	建物などにスロープやエレベーターがなく、利用しにくい	気軽に利用できる移動手段が少ない(福祉車両等)	車を駐車するところがない	他人との会話がむずかしい	道路に放置自転車などの障害物が多く、歩きにくい
TOTAL	1,689	18.2	12.6	12.2	10.6	9.7	6.3	6.0
視覚障害	87	35.6	12.6	20.7	6.9	17.2	3.4	23.9
聴覚障害	117	8.5	3.4	7.7	4.3	6.8	2.6	29.9
平衡機能障害	16	31.3	31.3	25.0	18.8	31.3	12.5	—
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	18	—	5.6	5.6	5.6	16.7	5.6	33.3
肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	779	19.9	15.7	14.2	14.6	10.5	10.5	4.6
肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	13	23.1	38.5	23.1	15.4	7.7	23.1	—
内部障害	519	15.8	9.1	7.7	6.4	7.3	7.9	2.1
その他	24	16.7	12.5	8.3	12.5	—	8.3	4.2
無回答	116	14.7	12.9	15.5	10.3	10.3	5.2	12.1

	付添ってくれる人がいない	他人の視線が気になる	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮が足りない	音響式信号機がない	誘導ブロックがない	その他	困っていることは特にない	無回答
TOTAL	1,689	5.9	4.4	3.9	1.5	0.9	5.4	28.9
視覚障害	87	9.2	5.7	—	18.4	12.6	13.8	12.6
聴覚障害	117	3.4	1.7	5.1	0.9	0.9	3.4	31.6
平衡機能障害	16	6.3	6.3	6.3	—	—	6.3	6.3
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	18	5.6	—	5.6	—	—	5.6	22.2
肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	779	6.4	6.2	5.1	0.5	0.3	6.5	27.6
肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	13	7.7	7.7	7.7	—	—	7.7	15.4
内部障害	519	3.7	1.7	1.5	0.4	—	3.3	37.8
その他	24	4.2	—	—	—	4.2	4.2	29.2
無回答	116	12.9	6.9	7.8	1.7	0.9	3.4	12.9

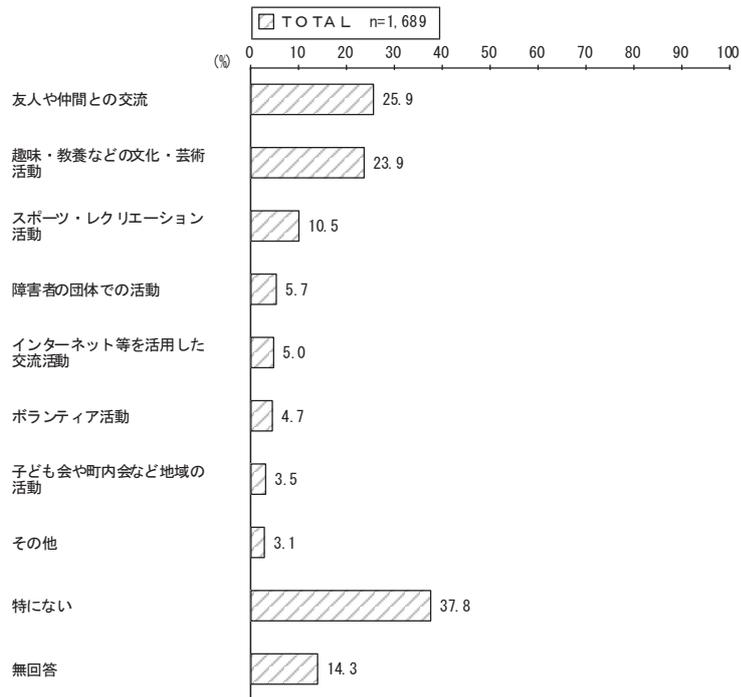
(3) 余暇活動等の状況（複数回答）

「友人や仲間との交流」をしている人は30.2%、「趣味・教養などの文化・芸術活動」をしている人が18.2%いるが、44.2%の人は特に活動に参加していない状況である。



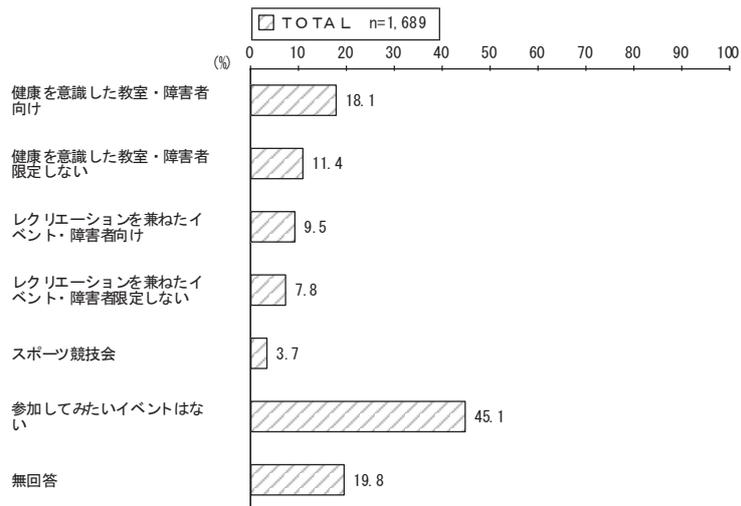
(4) 今後の生活の中で充実させたいこと（複数回答）

今後の生活の中でもっと充実させたいことや新たに始めたいこととしては、「友人や仲間との交流」をあげる人が25.9%と最も多く、次いで「趣味・教養などの文化・芸術活動」(23.9%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(10.5%)と続いている。



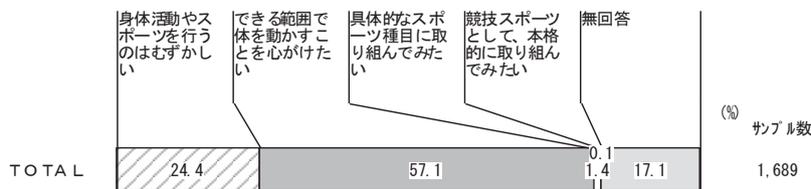
(5) スポーツ等の催しへの参加意向（複数回答）

今後、「体操教室など健康を意識した教室（障害者向け）」に参加してみたいと思う人は18.1%、「体操教室など健康を意識した教室（障害者に限定しない）」に参加してみたいと思う人は11.4%である。



(6) 身体活動やスポーツに対する意識

今後の身体活動やスポーツについては、57.1%の人が「自分の健康づくりのために、できる範囲で体を動かすことを心がけたい」と考えており、「身体活動やスポーツを行うのはむずかしい」と考えている人は24.4%である。

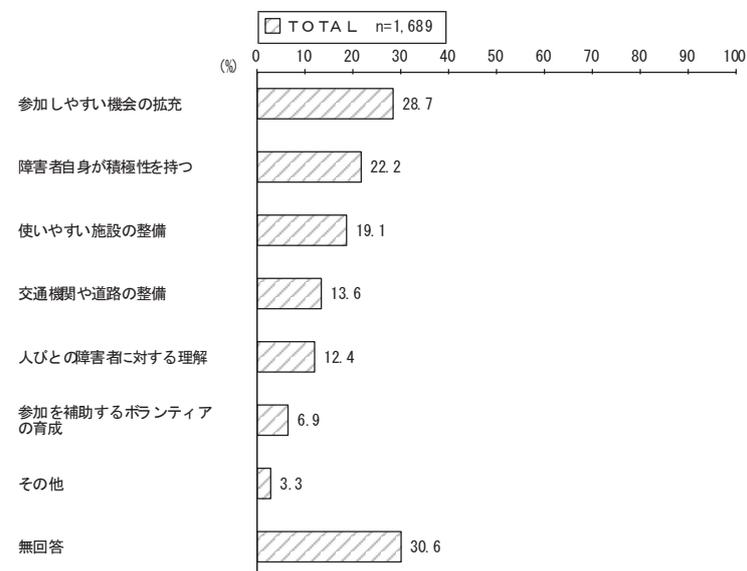


「具体的なスポーツ種目に取り組んでみたい」、「競技スポーツとして、本格的に取り組んでみたい」と回答した人に対して、具体的な内容を尋ねたところ、「水泳」、「ゴルフ」等の記入があった。

記入件数	記入内容
7件	水泳
4件	ゴルフ
2件	ウォーキング、グランドゴルフ、車いすテニス、テニス、登山
1件	車いすバスケットボール、車いすマラソン、スキー、スケート、ストレッチ、スノーボード、スポーツクラブでの運動、太極拳、卓球、チェアスキー、綱引き、ハイキング、バドミントン、バレー、フットサル、ポッチャー、盲人バレー、ヨガ

(7) 地域や社会に参加するために必要なこと（〇は2つ以内）

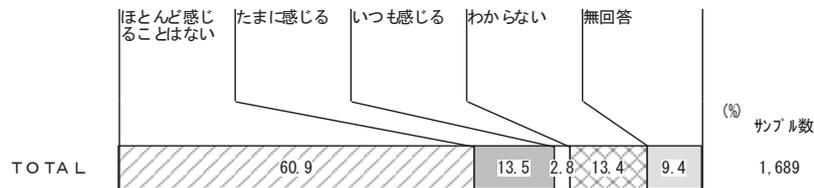
地域や社会に積極的に参加できるようにするために特に大切なこととしては、「参加しやすい機会の拡充」をあげる人が28.7%と最も多く、次いで「障害者自身が積極性を持つ」(22.2%)、「使いやすい施設の整備」(19.1%)と続いている。



7 差別や人権侵害等の状況

(1) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じること

差別や人権侵害、虐待を受けていると「いつも感じる」人は2.8%、「たまに感じる」人は13.5%で、約6割は「ほとんど感じることはない」(60.9%)と回答している。



(2) 差別や人権侵害、虐待の具体的な内容 (自由回答)

差別や人権侵害等を感じる具体的な内容としては、次のような記入があった。

<理解不足>

- ・ 昨年の地域活動の中で、冬の寒い時に、朝から、行事の手伝いをさせられた(見た目は、大丈夫だと思われている事。両足のしびれと、関節のつらさがあった。)(女性・58歳・肢体不自由)
- ・ 他者との会話や障害に対しての思いやりに欠ける。(男性・74歳・無回答)
- ・ はっきりと、話す言葉が伝わらず、相手に誤解され嫌な、人間とか、偏屈な人間と思われ、悲しい気持ちになる。(男性・66歳・肢体不自由)
- ・ うまくコミュニケーションがとれなかった時。(女性・37歳・聴覚障害)
- ・ 話を通じないとき、無視された気持ちになる。(女性・27歳・聴覚障害)
- ・ こちらの考えや思い、存在を無視して物事がいつのまにか変更してしまったときに(相手は気をきかしたつもりかと思いますがー)。(女性・60歳・聴覚障害)
- ・ 他人は私の障害の本当の苦しみを、わかって[理解]してくれない。苦しくて呼吸困難になり、しゃがみ込んでも、だらしないと、とられる時がある。(男性・67歳・内部障害)
- ・ 見た目が元気そうにみえ、なまけものに思われる。(女性・40歳・肢体不自由)
- ・ 病気に対する理解がたりない。(男性・51歳・内部障害)
- ・ 情報が伝わらない。(音の)(男性・64歳・聴覚障害)
- ・ 内部障害は見た目は健常者と変わらない為、ウソをついているように言われたことがある。体調が悪くても自分にしか分からないことの為、手をさしのべられることは全くない。(女性・42歳・内部障害)

<周囲の人の言動>

- ・ 買物時、ジロジロ多くの人たちに見られる。(女性・66歳・肢体不自由)
- ・ 手の変形をじろじろ見られる。(女性・66歳・肢体不自由)
- ・ 外で車椅子に乗っている時、好奇の目で見られる事がある。(男性・3歳・肢体不自由)
- ・ 小さい子供に、あの人、びっこひいてる…と言われる。(女性・68歳・肢体不自由)
- ・ 駐車場の障害者割引を利用した時、手帳をみせたら「身障」(しんしょう)と略語で連呼された。(成田空港)(女性・47歳・その他)
- ・ 市役所に手続き等に行ったときの職員の態度。人権を侵害されているような気分になる。(女性・54歳・肢体不自由)
- ・ 心ない視線や言葉。(女性・75歳・肢体不自由)
- ・ 心ない人が、障害者の体の特徴をまねして、けなして笑い者にしたりする場面がある。(女性・55歳・肢体不自由)
- ・ 「耳が不自由」と言うと、面倒臭い顔をされる。(女性・36歳・聴覚障害)
- ・ 話しかけられても分からず答えられないと相手から暴力を受ける。(男性・8歳・聴覚障害)
- ・ 話の中、活動から外される。(男性・60歳・内部障害)
- ・ 無視される感じ。(男性・93歳・視覚障害)
- ・ 暴言を吐くヘルパー。(男性・80歳・肢体不自由)
- ・ いじわるなヘルパーに洗たくしろと言われ、いじわるな事を言われた。(女性・79歳・肢体不自由)
- ・ 身障のパーキングを使用するが、見た目が分りにくいので、何度か、「止めるべきではない」と注意を頂いてしまう時は少々、つらい。(女性・51歳・肢体不自由)

- ・ 視力障害で見えない事で笑われた。(女性・71歳・視覚障害)
- ・ 外見的な事でバカにされる。(男性・45歳・肢体不自由)
- ・ 足をひきずる格好を真似される。(男性・59歳・肢体不自由)

<雇用・就労>

- ・ 職場での障害者に対する理解度の低さとそれを何とかしようとしていない会社。(男性・59歳・視覚障害)
- ・ 車の自力運転ができないのに、出張や研修等に行かされるとき。(男性・54歳・内部障害)
- ・ 会社の中で、一部の人が、バカあつかいする行動がある。例えば仕事の打ち合わせ連絡を無視される事など。(男性・51歳・内部障害)
- ・ 会社での評価、健常者以上の業務内容で仕事を遂行しても、身体障害者にはよくやっている程度の評価。元々の評価レベルが低いいため健常者以上の評価を得る事は困難。(男性・58歳・内部障害)
- ・ 就職活動など。(男性・31歳・視覚障害)
- ・ 仕方ないが就職が健常者と比べると困難。(男性・45歳・内部障害)

<教育>

- ・ 同じ学級の校外学習や修学旅行など参加できない、自主学習になる。(女性・15歳・無回答)

<交通機関の利用>

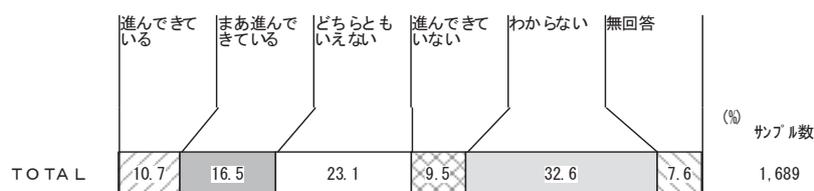
- ・ 路線バスに乗車する時にスロープを使用する際に運転手に嫌な顔をされた。(男性・17歳・肢体不自由)
- ・ 視覚障害者ですが、タクシー乗車時、遠回りされたり接遇が悪かったりした場合。(男性・59歳・視覚障害)
- ・ バスの乗り降りの時、だれも助けてくれませんか。(男性・77歳・肢体不自由)
- ・ 特に乗物内での行動等で早くする様に行動で示される事が時々ある。(女性・70歳・内部障害)
- ・ 1度バスの運転手さんに歩行車を乗せてくれるよう大声で四度頼んだが、応答なく発車しそうになり、乗客の2人の婦人が降りてきて、歩行車を乗せてくれました。(女性・68歳・視覚障害)
- ・ 乗物の中で席を譲られた時、嬉しい反面辛い気持ちにもなる。(男性・76歳・内部障害)
- ・ 路線バスで障害者手帳を見せると嫌な顔をされる。(男性・71歳・内部障害)

<その他>

- ・ 露骨に感じることはないが、同情されているように思うことがある。(女性・58歳・肢体不自由)

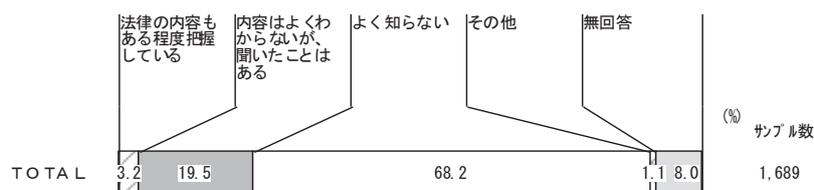
(3) 市民の理解

障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と思う人は10.7%、「まあ進んできている」と思う人は16.5%である。



(4) 「障害者差別解消法」の認知状況

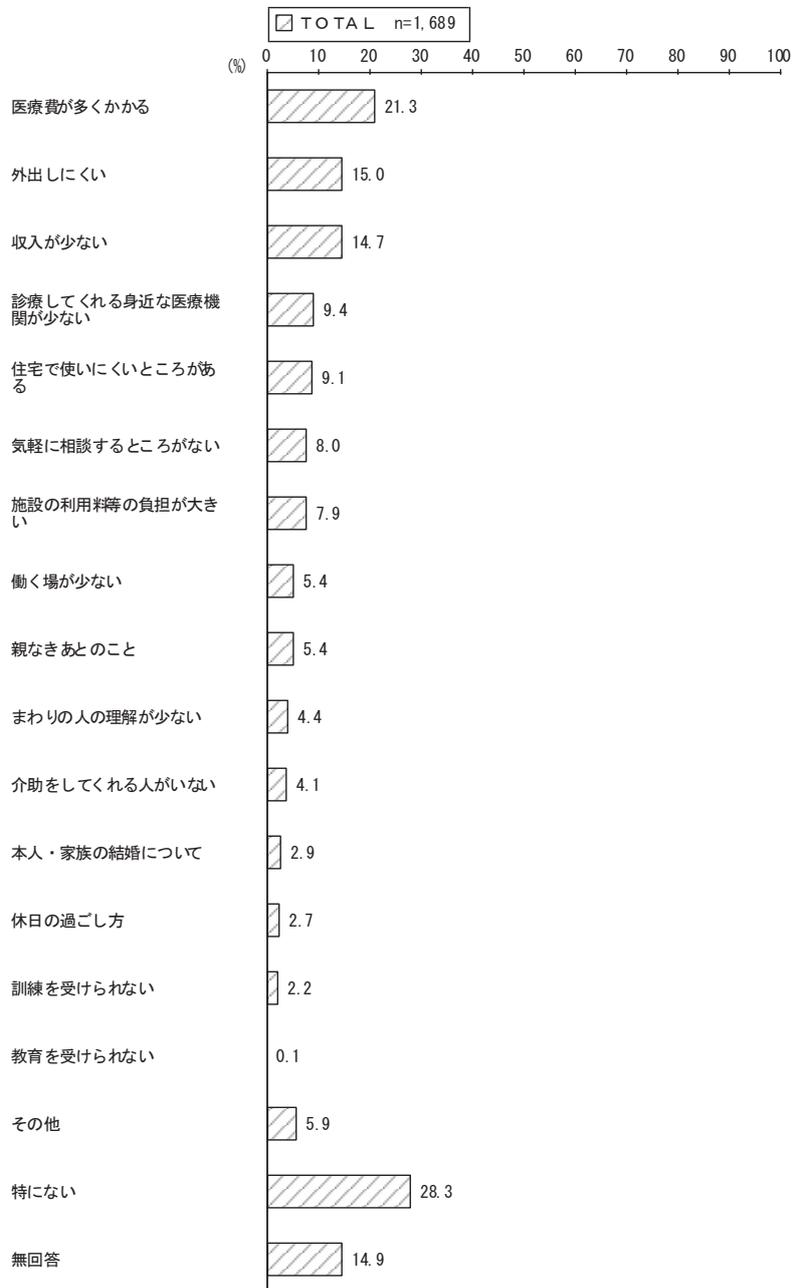
「障害者差別解消法」については、約7割が「よく知らない」と回答している。



8 生活で困っていること

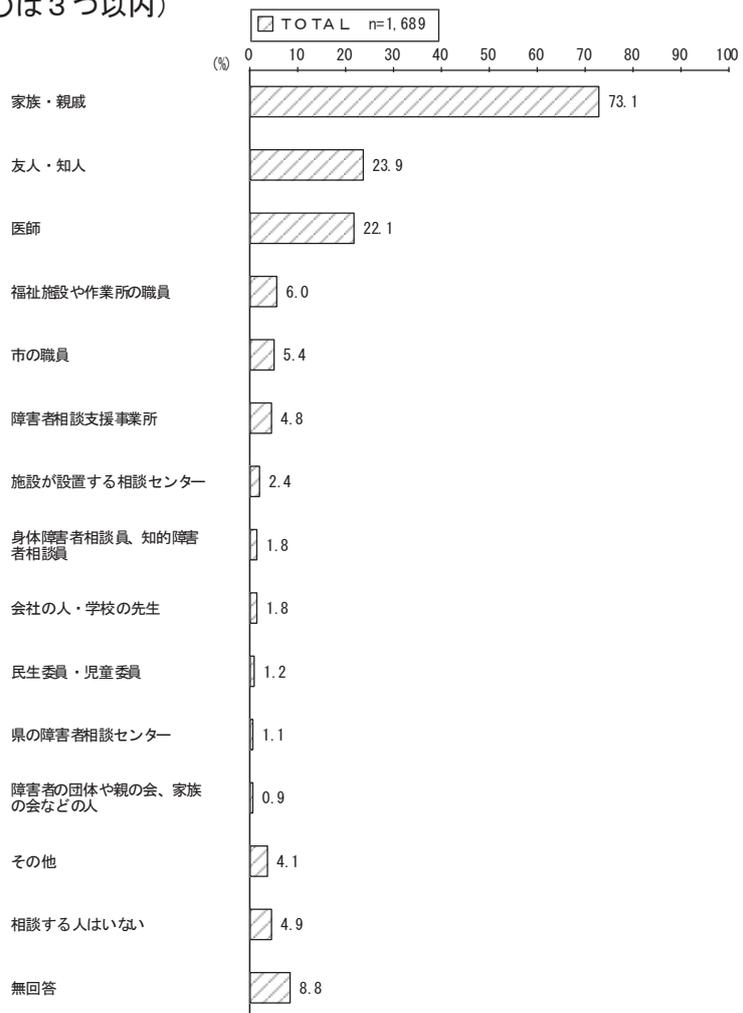
(1) 現在の生活で困っていること、不安を感じていること（複数回答）

現在の生活で困っていることや不安を感じていることとしては、「医療費が多くかかる」ことをあげる人が21.3%と最も多く、次いで「外出しにくい」(15.0%)、「収入が少ない」(14.7%)と続いている。



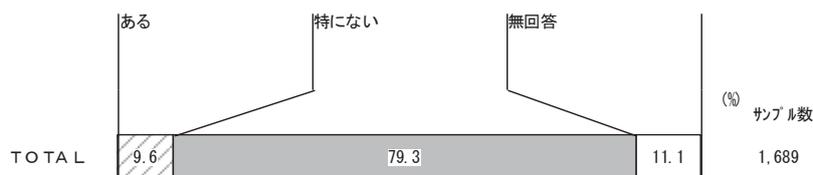
(2) 悩みや困ったことの相談先 (○は3つ以内)

悩みや困ったことを相談するのは、「家族・親戚」が73.1%と最も多く、次いで「友人・知人」(23.9%)、「医師」(22.1%)と続いている。



(3) 現在、相談したいことの有無

現在、障害に関することなどで相談したいことが「ある」人は、約1割(9.6%)である。



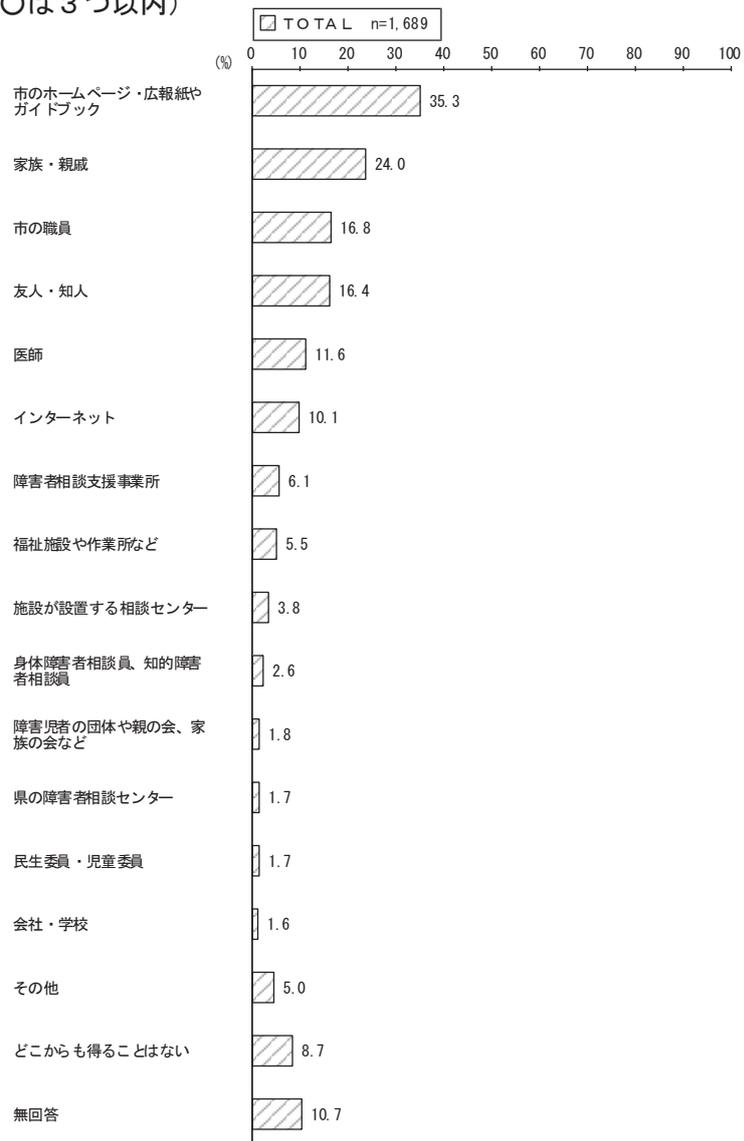
具体的に相談したい内容としては、次のような記入があった。

- ・ リハビリについて。(女性・77歳・肢体不自由)
- ・ 障害を軽快させる方法。(男性・35歳・肢体不自由)
- ・ 介護保険のこと。(女性・81歳・肢体不自由)
- ・ 医療費のこと。(男性・61歳・内部障害)
- ・ 市内での障害者の雇用について。(女性・36歳・肢体不自由)
- ・ 体が動かなくなってきたこと。(男性・73歳・内部障害)
- ・ 年令的に先々が心配になる。どう生きて行けば良いのか。(女性・87歳・内部障害)
- ・ 将来のこと。(男性・2歳・肢体不自由)
- ・ 今後の生活について。(男性・37歳・内部障害)
- ・ 高校卒業後、進路がわからない、前が見えない。(女性・15歳・無回答)
- ・ 一人になった時、入所できる施設があるか。(男性・78歳・肢体不自由)
- ・ サービスの内容について。(障害者に対するサービス)(女性・70歳・肢体不自由)
- ・ リホームについて。(女性・73歳・その他)
- ・ 隣人とのトラブル。(男性・64歳・内部障害)

9 福祉に関する情報入手について

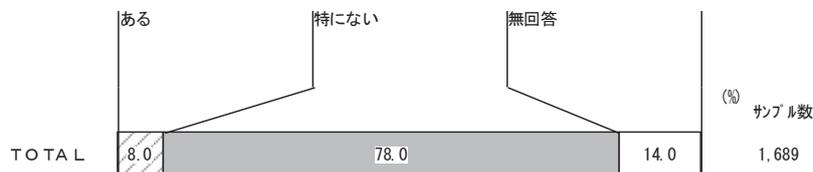
(1) 福祉に関する情報の入手先 (○は3つ以内)

福祉に関する情報は、「市のホームページ・広報紙やガイドブック」から得る人が35.3%と最も多く、次いで「家族・親戚」(24.0%)、「市の職員」(16.8%)と続いている。なお、「どこからも得ることはない」と回答した人が8.7%みられる。



(2) 情報を得られないで困ったことの有無

福祉サービスなど障害者のための情報が得られないで困ったことが「ある」人は8.0%である。



情報が得られないで困ったことの内容としては、次のような記入があった。

- ・ 障害者年金について何も情報がなく、説明もなく障害者年金がもらえない事。(女性・75歳・肢体不自由)
- ・ 障害者年金を知らず、手帳を取ってから7年ぐらい年金が支給される手続きをとれなかった。(男性・59歳・視覚障害)
- ・ ケガしてから障害者申請するまで10年以上。福祉サービス自体知らなかったから。知っていれば早く申請していた。(男性・58歳・肢体不自由)
- ・ いろいろな受けられるサービスなど知らなかったこと。福祉用具の件で使えるサービスがわからなかった。(女性・49歳・肢体不自由)
- ・ 制度や補助などをしっかり把握しきれていないため、後から知って残念な思いをすることが多い。(男性・47

歳・肢体不自由)

- ・ 生活用具の給付があることを知らずに、自費(全額)で購入したことがあった。(女性・56歳・視覚障害)
- ・ 予防接種の件で、金銭割引を受けられる事を知らなかった。(女性・64歳・内部障害)
- ・ 今回、償かん払いになりましたが、手紙がとどいて初めて知りました。(女性・47歳・その他)
- ・ 情報も得られず、相談先もわからず常に困っている。(男性・55歳・肢体不自由)
- ・ 入れる施設の情報が入手できない。(男性・45歳・肢体不自由)
- ・ 健康増進課の方が児童デイサービスの存在を知らず、乳幼児が通所する福祉施設は四街道にはないと言われたことがある。(女性・7歳・内部障害)
- ・ 高齢のため、インターネットを使用できない。家族にお願いして調べてもらうしかない時がある。高齢者は、情報化社会についていけない事をわかってほしい。(男性・71歳・内部障害)
- ・ 災害の時、市の広報車の声が聞こえない。(女性・81歳・内部障害)

(3) 入手したいと思う情報(自由回答)

現在または今後ほしいと思う情報としては、具体的に次のような記入がみられた。

<医療・リハビリ・介護>

- ・ 医療の最新情報。(男性・67歳・内部障害)
- ・ リハビリについて。(女性・77歳・肢体不自由)
- ・ 介護に必要な情報。(女性・75歳・内部障害)

<福祉サービス・施設>

- ・ 個々の障害者に対し具体的支援範囲(手続き含む)を個々に通知していただければ大変ありがたい。(男性・81歳・内部障害)
- ・ 利用できるサービスについての情報がほしい。(女性・54歳・肢体不自由)
- ・ 障害者が活用できる施設等の情報。(男性・52歳・肢体不自由)
- ・ 歩けなくなった時に入居する施設情報。(男性・66歳・肢体不自由)
- ・ 入所できる施設の情報。(男性・82歳・肢体不自由)

<日常生活>

- ・ 障害者用トイレ、レストラン(バリアフリーと障害者用トイレのある店)、ホテル(バリアフリー)、差別せずにみてもらえる病院、などの情報。
- ・ 日常の買物施設場所に駐車場があるとかの情報が欲しい。(女性・72歳・肢体不自由)
- ・ ささいな情報(例えば、お店で今までと変わったところ、車イス利用のトイレが出来た、あそこは駐車場が広い、手すりがある、広い空間で涼めるなど)も知れると普段の生活にとっても役立つ。(女性・9歳・肢体不自由)

<障害者団体・交流>

- ・ 同じ病状の支援グループの情報。(男性・72歳・肢体不自由)
- ・ 同じ障がい者の活動状況の情報。(男性・32歳・聴覚障害)

<療育・教育>

- ・ 聴覚障害児が補聴器をつけた状態で通うことのできる幼稚園、保育園。つけた状態でしっかり見てもらうことができるのかどうか。(男性・2歳・聴覚障害)
- ・ 子育て、教育に関する情報。(男性・47歳)

<仕事>

- ・ 市内の就職情報。(女性・40歳・視覚障害)
- ・ 教育、障害者のための職業、技能訓練・専門知識など。(女性・15歳・無回答)
- ・ 従事可能な仕事の情報。(男性・59歳・肢体不自由)

<趣味・スポーツ・旅行>

- ・ 気軽に参加できるレクリエーション。(女性・29歳・肢体不自由)
- ・ 障害者団体やサークルへ加入していない人へも社協報等で活動内容をもっと紹介して欲しい。(女性・65歳・肢体不自由)

- ・ 趣味のサークルの紹介。(男性・66歳・内部障害)
- ・ 障害者を対象とした、バスツアーなどの情報。(女性・74歳・聴覚障害)
- ・ 旅行について、行きたい場所の宿泊施設の情報が知りたいです。(男性・41歳・肢体不自由)
- ・ 車イスで入浴できるホテルなど旅行情報。(女性・63歳・肢体不自由)
- ・ 障害者向けの旅行ガイドなどがあると、うれしい。(女性・56歳・視覚障害)
- ・ 手話ができる人や聴覚障害者向けのスポーツ交流会とかがあれば知りたい。(女性・23歳・聴覚障害)
- ・ 体力作りの為にも、体育施設の状況がほしい。(男性・58歳・肢体不自由)
- ・ 体操教室など健康を意識した情報。「歩こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント情報。(男性・65歳・内部障害)
- ・ 障害があっても参加できる旅行、イベント、交流。(女性・75歳・肢体不自由)
- ・ 四街道文化センターでの音楽などの情報。(男性・60歳・肢体不自由)
- ・ 在職中なので休日のイベントを知りたい。(男性・61歳・内部障害)

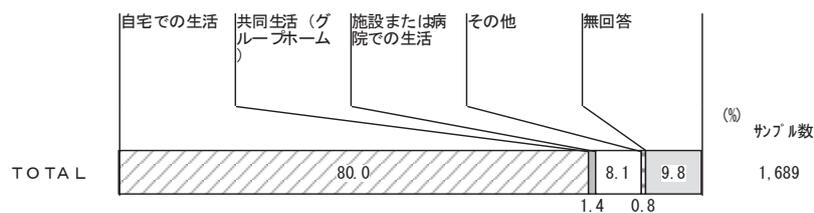
<その他>

- ・ 国の制度が変わったりした場合、出来るだけ詳細に分かり易く説明、情報を流してほしい。(女性・80歳・肢体不自由)
- ・ 市の福祉体系は全体的にどのようになっているのか知りたい。(男性・74歳・内部障害)
- ・ 自分自身の障害の種類、程度に見合った情報が欲しい。(男性・73歳・肢体不自由)

10 今後、希望する暮らし方

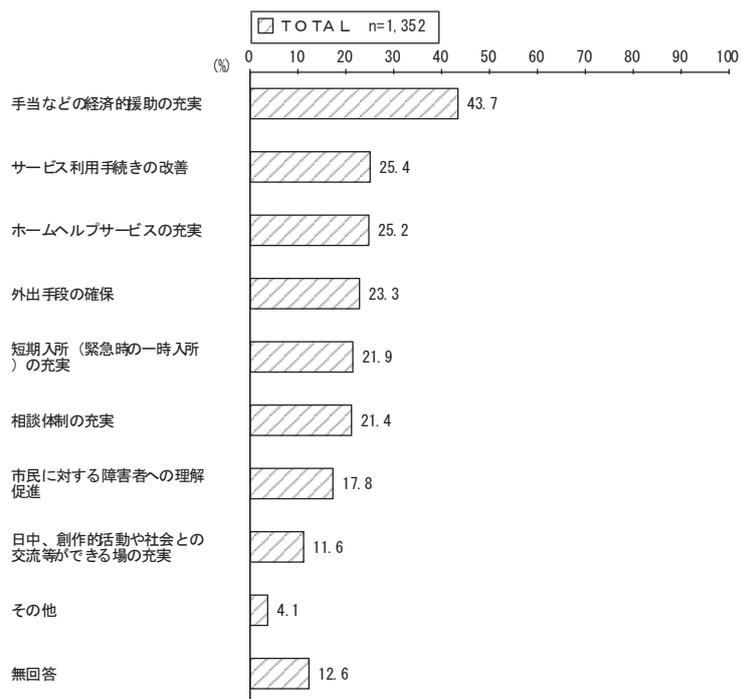
(1) 希望する生活形態

今後の生活形態については、8割が「自宅での生活」(80.0%)を希望している。



(2) 自宅での生活を続けるために必要な条件 (複数回答)

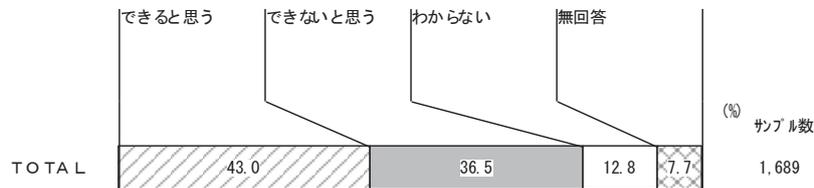
自宅での生活を希望する人に対して、自宅での生活を続けるために必要とする条件を尋ねたところ、「手当などの経済的援助の充実」をあげる人が43.7%と最も多く、次いで「サービス利用手続きの改善」(25.4%)、「ホームヘルプサービスの充実」(25.2%)、「外出手段の確保」(23.3%)、「短期入所 (緊急時の一時入所) の充実」(21.9%)、「相談体制の充実」(21.4%)、「市民に対する障害者への理解促進」(17.8%)、「日中、創作的活動や社会との交流等ができる場の充実」(11.6%)、「その他」(4.1%)、「無回答」(12.6%)と続いている。



11 災害時の対応

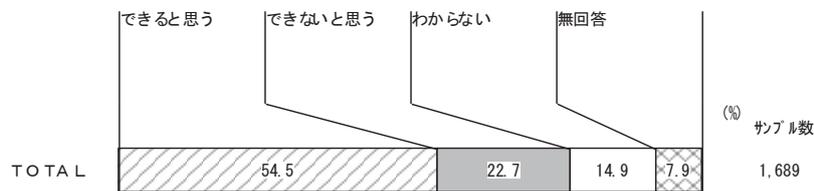
(1) 一人避難の能否

火事や地震等の災害時に、43.0%の人は一人で避難「できると思う」と回答しているが、36.5%は「できないと思う」としている。



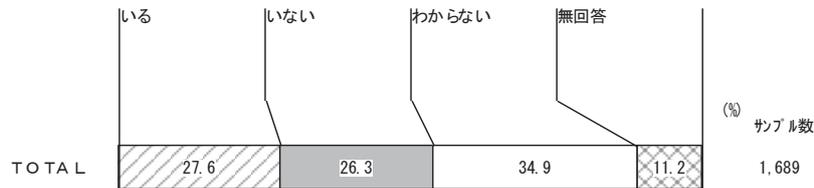
(2) 周囲へ状況を知らせる事の能否

火事等の非常時に、周囲の人に知らせることが「できると思う」人は54.5%で、22.7%は「できないと思う」と回答している。



(3) 近所に助けてくれる人の有無

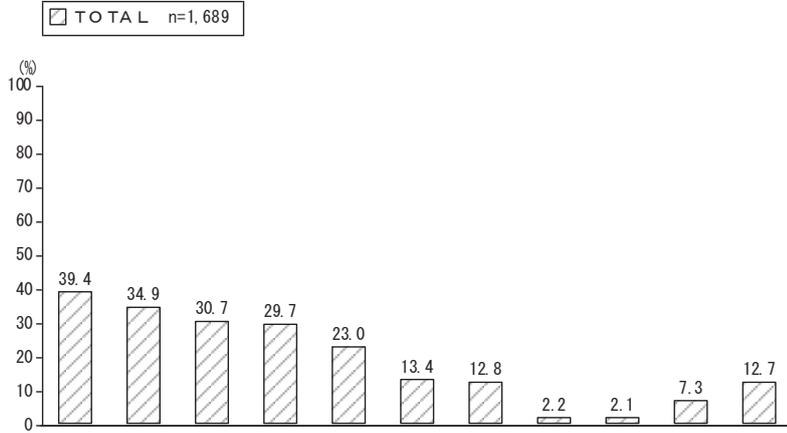
家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人が「いる」と回答した人は27.6%である。



(4) 災害発生時に支援してほしいこと (〇は3つ以内)

災害発生時に支援してほしいこととしては、「災害情報を知らせてほしい」が39.4%と最も多く、次いで「避難場所の設備(トイレ・段差など)を整備してほしい」(34.9%)、「避難場所までの避難を支援してほしい」(30.7%)と続いている。

主な障害の種類別にみると、内部障害では、「必要な治療や家を確保してほしい」が41.0%と二番目に多くあげられている。また、聴覚障害では22.2%の人が「手話など、コミュニケーション手段を確保してほしい」と回答している。



問3 障害者手帳記載の障害のうち、最も重いもの	n	1	8	5	2	4	6	3	7	9	10	11
		災害情報を知らせてほしい	避難場所の設備(トイレ・段差など)を整備してほしい	避難場所までの避難を支援してほしい	必要な治療や家を確保してほしい	避難時の声かけをしてほしい	避難場所での介護してほしい	避難場所を教えてください	手話など、コミュニケーション手段を確保してほしい	その他	特にない	無回答
0 TOTAL	1,689	39.4	34.9	30.7	29.7	23.0	13.4	12.8	2.2	2.1	7.3	12.7
1 視覚障害	87	33.3	24.1	36.8	19.5	26.4	13.8	14.9	4.6	3.4	8.0	21.8
2 聴覚障害	117	44.4	16.2	23.1	22.2	29.9	10.3	10.3	22.2	0.0	6.0	17.1
3 平衡機能障害	16	18.8	50.0	50.0	31.3	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5
4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	18	22.2	27.8	22.2	27.8	16.7	33.3	16.7	11.1	0.0	11.1	5.6
5 肢体不自由(上肢、下肢、体幹)	779	35.9	41.2	37.5	26.7	23.1	16.4	11.8	0.1	1.7	6.9	11.0
6 肢体不自由(非進行性の脳病変による運動機能障害)	13	23.1	38.5	38.5	38.5	7.7	30.8	7.7	0.0	0.0	7.7	23.1
7 内部障害	519	46.4	33.3	20.6	41.0	19.3	7.9	13.5	0.4	2.5	8.7	10.4
8 その他	24	45.8	29.2	33.3	25.0	25.0	4.2	4.2	0.0	0.0	8.3	20.8
9 無回答	116	36.2	26.7	31.0	14.7	31.9	18.1	19.0	1.7	6.0	4.3	21.6

(5) 災害時に困ること、不安なこと（自由回答）

災害時に困ると思われること、不安なことについては、具体的に次のような記入があった。

記入内容としては、避難時については、「一人では避難できない(移動に介護を必要とする)」、「移動に時間がかかる」などの不安が多くあげられているほか、聴覚障害者や視覚障害者では「災害に関する情報の取得」に関する不安が多くあげられている。また、避難所の生活については、肢体不自由者では「トイレ等の設備」や「床での生活」に関する不安が多くあげられ、内部障害者では「透析などの医療やストマなどの装具の確保」に関する不安が多くあげられている。

<避難時について>

- ・一人では避難ができない。(女性・65歳・視覚障害)
- ・呼吸困難で四肢マヒの為。介護者がいないと、行動できない。(男性・67歳・内部障害)
- ・一人で動くことができない。助けてくれる人がいない。(女性・80歳・内部障害)
- ・家から出ても介護なしでは遠く迄歩けない。杖で歩くのが困難。(男性・78歳・肢体不自由)
- ・家族が留守だった場合、どうにもならない。(女性・79歳・肢体不自由)
- ・車いすで移動できるかどうか。(女性・17歳・肢体不自由)
- ・足が不自由なので避難場所まで行くのがむずかしいと思う。(男性・70歳・肢体不自由)
- ・体調のよい時と悪い時があるので、よくない時には、歩けないだろうと思う。(女性・84歳・内部障害)
- ・スピーカーでの情報はわからない。(男性・78歳・聴覚障害)
- ・耳が障害なので音が聞こえず、災害がわからない時があると思う。(女性・78歳・聴覚障害)
- ・情報をすばやく確認できないため、対応や避難がおくれるかもしれないこと。(女性・40歳・視覚障害)

<避難後について>

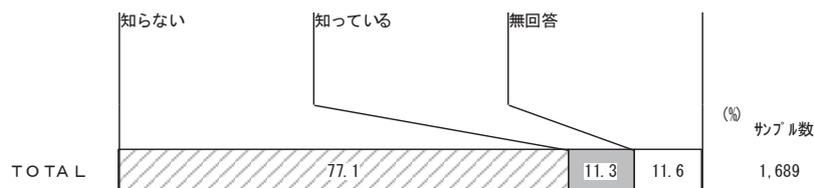
- ・地域の避難場所が、目の前に見えている学校ではなく、坂を上がって距離のある学校なので、見直して欲しい。(女性・42歳)
- ・常時服用している薬がなくなる場合。(男性・41歳・肢体不自由)
- ・家族と連絡をとりあうことができるか。(女性・82歳・内部障害)
- ・透析しているので、病院確保が可能か心配である。(男性・76歳・内部障害)
- ・通院している病院が、災害で何かあれば、どこで治療してくれるか不安である。(男性・71歳・内部障害)
- ・ストマの入手、確保。(男性・76歳・内部障害)
- ・使用している医療品がすぐ手に入るかどうか不安。(男性・68歳・内部障害)

<避難所の暮らしについて>

- ・避難所のトイレなどが整備されているか。(男性・72歳・内部障害)
- ・病状に適した食べ物が提供されるかどうか。(女性・71歳・内部障害)
- ・避難所では敷布団では寝る事ができないので不安、床に座る事も出来ないのでは不安。健常者とは一諸の行動が出来ません。(女性・67歳・肢体不自由)
- ・おむつをしているので、避難した場合、替えが無くなったり、設備がない場合、どのようにしたら良いかわからない。(男性・80歳・肢体不自由)

(6) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知状況

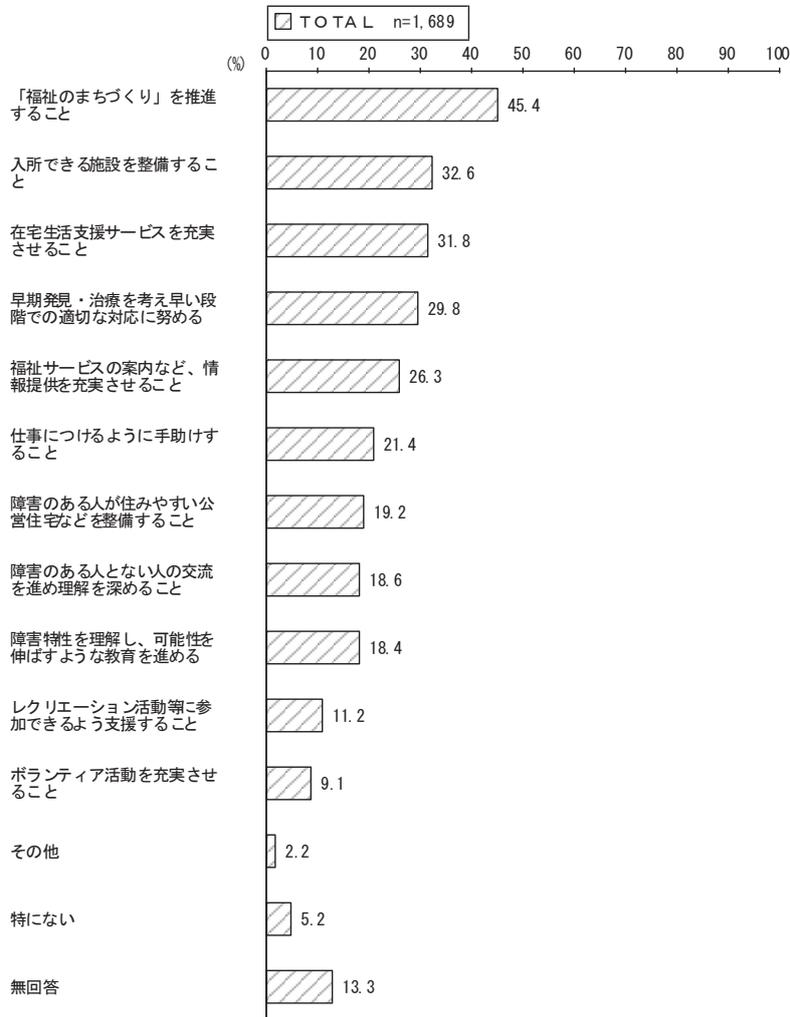
市の「避難行動要支援者避難支援制度」については、77.1%が「知らない」状況である。



12 障害者施策を進める上で充実を図ること

(1) 障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこと（複数回答）

今後、障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこととしては、「障害者や高齢者にやさしい「福祉のまちづくり」を推進すること」をあげる人が45.4%と最も多く、次いで「入所できる施設を整備すること」(32.6%)、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実させること」(31.8%)と続いている。



(2) 意見・要望（自由回答）

調査票の最後に、意見や要望の自由記入欄を設けたところ、413件の記入があった。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を掲載するよう心がけた。

<相談について>

- ・ 気軽に相談できるようなところを作ってほしい。(女性・54歳・肢体不自由)
- ・ 市の担当職員の方が、もう一步、踏み込んで、こちらが相談できる体制をつくっていただければ幸いです。(男性・67歳・内部障害)
- ・ 相談したい事があっても、市役所まで出向くのが大変だ。介護の相談をする時のケアマネージャーさんの様に来て欲しい。(女性・75歳・肢体不自由)
- ・ 定期的な市職員等の訪問による現況把握(相談相手)。(女性・81歳・肢体不自由)

<情報について>

- ・ どのようなサービスがあるのかを市から封書等で知らせてほしい。(男性・39歳・肢体不自由)

- ・ 窓口申請等で出向いた際、制度利用にモレがないかどうか声掛けして欲しい。説明の際、口頭だとわかりにくいので冊子の配布、関連ページの提示、図に書いての説明等が必要。(男性・66歳・肢体不自由)
- ・ 情報発信の方法を年配の人間でもわかりやすくしてほしい。(女性・64歳・内部障害)
- ・ もっとわかりやすい制度のお知らせや支援を知らせる手段を考えてほしい。(男性・71歳・肢体不自由)
- ・ 情報提供の制度や手段が不十分と思われます。具体的にどのような施策制度があるか、窓口の相談制度も含めて知りません。(男性・76歳・肢体不自由)
- ・ 聴覚障害者の情報保障は手話だけではありません。一般市民へ要約筆記の認知度を高めるための施策をぜひ、お願いいたします。(女性・60歳・聴覚障害)
- ・ 障害者本人が積極的に情報を得ることは不可能なので、障害者やその家族に対して分かりやすく提供するサービスを充実させてほしい。(女性・81歳・無回答)
- ・ 市の施策についての広報等に記載していないのもっと知らせて欲しい。(男性・80歳・肢体不自由)

＜広報・啓発、理解・交流について＞

- ・ 市民の障害者への理解をもっと深めるために、市の政策として考えてほしい。(男性・42歳・肢体不自由)
- ・ 「障害者の理解活動」とか「障害者と健常者との交流イベント」というのはかえって障害者をうき出たせてしまうのではないか。(男性・42歳・視覚障害)
- ・ 心臓の障害で、見た目には、わからないので、周りの理解を得るのは難しいだろうな、とぼく然とした不安があります。(女性・42歳・内部障害)
- ・ 道路上に白杖をつかわないで歩く視覚障害者も多くいることを考えて欲しい。(男性・59歳・視覚障害)
- ・ 外見でわかる障害については、理解してもらえるが、本人しか自覚できない障害は、まわりに理解してもらえない。(男性・61歳・肢体不自由)
- ・ 電車、バス等を利用の際、年の割になぜ優先席にすわっているかと非難の目で見られることがよくある。身につけるものか何かで障害者を示すような小物を考えてほしい。(男性・48歳・肢体不自由)
- ・ 市民へ、障害者用駐車スペースの必要性和、運用マナー等を、PRして下さい。(男性・76歳・内部障害)
- ・ 障害者が健常者と同等に生活するのは難しいですが、少しでもそういう(気もちだけでも)社会になればと願います。(男性・40歳・肢体不自由)
- ・ 何をすればよいのか、何をどうして欲しいのかななどが、もっとわかるようになると、手を差し伸べる方も、手を貸して欲しい方も声に出して、みんなが理解、出来るとよいのでは。(男性・81歳・聴覚障害)

＜移動・移送について＞

- ・ 病院への移動手段(介護タクシー)は、とっっても高くつかえない。(女性・76歳・肢体不自由)
- ・ 急病病変に対応できる介護タクシーを四街道市にお願いできれば幸甚です。(男性・79歳・肢体不自由)
- ・ 病院への移動手段としてよくタクシーを使うのですが障害者割引について徹底されていないと感じることが多い。指導してほしい。(女性・81歳・肢体不自由)
- ・ バスに乗ることが多くなりましたが、障害者手帳をそのたびに広げて確認していただくのは手間がかかります。suicaのように1枚で見せることができたら楽になります。(女性・62歳・内部障害)
- ・ 鹿島荘に行きたいが千代田の方に回ってくるバスも考えてほしいです。せっかく施設があるのになかなか利用できません。(女性・73歳・内部障害)
- ・ 「四街道市中央」にある「まごころ館」への公共交通機関が無いも同然です。(女性・91歳・肢体不自由)
- ・ 障害者にとっては遠近関係なく移動が難しいのです。鹿渡地区に住んでいますが、足がなく行きたい場所に行けず、断念する事もあります。(女性・71歳・肢体不自由)
- ・ 駅前通りの歩道の自転車の通行に危険を感じる。(女性・65歳・視覚障害)
- ・ 文化センター出入口までタクシーで行くのは無理でしょうか。駐車場から出入口まで歩くのがたいへんなのです。(男性・60歳・肢体不自由)

＜バリアフリー環境の整備について＞

- ・ 段差のある歩道が不便です。車椅子は動かすのが難しい時もあります。(男性・68歳・肢体不自由)
- ・ なるべく散歩をするようにしているのですが、路上駐車が多くて歩きづらい。(男性・61歳・肢体不自由)
- ・ 長い距離は歩けないので、歩道に小さなベンチがあればと思います。バス停に、ベンチを設置したらいいのでは、と思います。(女性・68歳・内部障害)
- ・ 四街道の駅ですが北口にはエレベーターが設置されていますが南口には有りません。南口から北口へ回るのはかなり大変な人も居ると思います。(男性・52歳・肢体不自由)
- ・ 道路段差の整備など、そこを利用する人(障害者)の意見を直接聞いて、使用する人にあつたものを作って

ほしい。(男性・17歳・肢体不自由)

- ・歩道の整備が整っているのは、市役所周辺だけ。横断歩道や歩道と車道の境にある段差が車イスでどれだけ大変か理解してない。(女性・70歳・肢体不自由)
- ・歩道に段差をつけることは止めて欲しい。車優先の発想を変えて欲しい。(男性・71歳・内部障害)
- ・市役所の駐車場障害者枠を増やしてほしい。(男性・41歳・内部障害)
- ・音声の信号機の設置を増やしてほしい。五差路の信号機の音声を増やしどの方向もわかるように工夫してもらえるとありがたい。(男性・71歳・視覚障害)
- ・信号機の設置の位置を歩行者の目線に下げた高さにしてもらいたい。(視野が狭く現在の高さでは信号機を見つけるのが不便です。)(女性・70歳・視覚障害)

<療育体制・学校教育について>

- ・障害を持つ子を預けて働くことが出来るよう、専門の保育施設があれば良いと思う。(男性・2歳・内部障害)
- ・市に県立盲学校がある特性を生かして、視覚障害者への理解を深める教育を小中学校でお願いしたい。(男性・65歳・肢体不自由)

<施設について>

- ・障害者が入所できる施設を増やして欲しい。(男性・83歳・聴覚障害)
- ・リハビリ施設等、身近な所でできる所があればと思っています。病院へ通いのリハビリは往復の交通で時間がかります。(女性・42歳・肢体不自由)
- ・高齢者の方の入所施設やデイサービスは増えていますが、障害のある成人の方、児童対象のものが断然少ないと感じます。(女性・9歳・肢体不自由)
- ・介助者がいなくなった時、低額で入れる施設を多く作ってほしい。(女性・67歳・肢体不自由)
- ・障害者施設がどこにあるのかも知りません。もっと施設の事を知りたいです。(女性・74歳・内部障害)

<住宅について>

- ・障害者が住みやすい公営住宅を整備してほしいです。(男性・41歳・肢体不自由)
- ・公営住宅への転居を希望しているが、その情報を得られない。(女性・65歳・肢体不自由)

<各種福祉サービスについて>

- ・タクシー券は使用していません。その代わりに、ガソリン券がほしいです。(男性・51歳・内部障害)
- ・タクシーチケットではなく、ガソリン代補助の方が助かります。(男性・2歳・内部障害)
- ・耳穴式の補聴器に補助金が出ないことに納得ができません。(男性・53歳・聴覚障害)
- ・ホームヘルパーさんの時間をもう少し多くしていただきたい。(女性・80歳・肢体不自由)
- ・介助者が泊りで出かける時、すぐに頼めて宿泊できる場所が近くにほしい。(男性・73歳・肢体不自由)
- ・車イス、介護ベッドなど貸出しの充実。(男性・85歳・肢体不自由)

<市役所の対応や手続きについて>

- ・混雑している時にすぐに席を立てて対応していただける時と、職員同士がおしゃべりをしていて、気がつかず…待たされる時があります。(女性・15歳・肢体不自由)
- ・福祉課の方は、とても、親切な方が多いので、相談しやすいです。(女性・34歳・肢体不自由)
- ・市の窓口にあっては、支援を要する家又は人の立場にたって、いつどうことを(届出・更新など)しなければならないかなど総合的に支援することができる人材の育成に努めてほしい。(女性・78歳・肢体不自由)
- ・医料費の請求など書類提出をインターネットでできるようにしてほしい。(男性・77歳・肢体不自由)
- ・何かの支援、援助を受ける際、わざわざ市役所、福祉課まで足を運ばなければならないが、電話などでも申込みが出来るようなシステムを作ってほしい。(男性・35歳・肢体不自由)
- ・福祉サービスや障害者の申請手続をもっと簡素化してほしい。(女性・52歳・視覚障害)

<雇用・就労について>

- ・障害者が働ける所をもう少し増やせないでしょうか。(女性・79歳・内部障害)
- ・ハローワークに行っても年齢や障害の問題でなかなか仕事につけない。作業場とか紹介してもらいたい。(男性・51歳)
- ・障害者の短時間労働などの情報が欲しい。(女性・36歳・肢体不自由)

<経済的な不安や要望について>

- ・ 在宅での介護。毎日がとっても大変。介護する人に対し、お金が出るといい。(男性・75歳・無回答)
- ・ 月にかかる医療費が多くなって今後が心配。(女性・62歳・内部障害)
- ・ 補聴器の値段が高いので補助をしてほしい。片側の耳だけで45万円するが5年位しかもたない。(男性・67歳・聴覚障害)
- ・ 障害を受け収入が減少した中で、リホームや住宅改善に支援が少なく、生活費・医療費でいっぱい資金が出せない。(男性・51歳・肢体不自由)
- ・ 難病見舞金がなくなったのが残念です。(女性・40歳・肢体不自由)

<医療環境の整備等について>

- ・ 総合医療のできる、安心してかかれる、病院があつたらいいなと思います。(男性・72歳・内部障害)
- ・ 災害時の医療ネットワークづくり(もし既にあればその広報)。(男性・67歳・内部障害)
- ・ 病院でかかった医療費を自己負担し、その後、市役所で助成金申請するのは、2度手間だと思う。それなら、最初から、無料記載のしてある、受給者証を発行して欲しい。(女性・11歳・肢体不自由)
- ・ 病院で名前を呼ばれても聞こえないので何とかなると良いのですが。(女性・41歳・聴覚障害)
- ・ 施策として在宅介護へ進んで行く様ですが、その為には安心出来る医療が無ければ在宅で生活するのは難しいです。(男性・79歳・肢体不自由)

<生涯学習活動・余暇活動等について>

- ・ サークル活動に参加したいが、鷹の台地区で交通の便が悪く参加できない。(女性・75歳・肢体不自由)
- ・ 障害者が少しでも体力、筋力の衰えを遅らせるようにできるスポーツ、例えばプールでの講習等があつたら良いと思う。(女性・74歳・肢体不自由)
- ・ レクリエーション、その他に参加したいが足がない。(男性・72歳・肢体不自由)
- ・ 障害者のスポーツ、レクリエーションの場があれば、ぜひ、参加してみたい。(女性・58歳・肢体不自由)
- ・ 障害者の集いに1度も参加した事がないので今後参加していきたい。(女性・76歳・肢体不自由)
- ・ いつでも情報交換できるような場所、気軽に出入られるようなレクリエーション。(女性・62歳・肢体不自由)
- ・ 各障害者団体との交遊を企画して、色々な障害者の悩み等を知る事も大切。(男性・71歳・内部障害)
- ・ 障害者の親の会、兄弟の会、姉妹の会等があれば、市政だよりに載せてほしい。(女性・55歳・視覚障害)

<災害時の不安等について>

- ・ 避難場所は、通学区域の小学校だと聞いているが、私の足で歩くと、約1時間は、かかる。近所に小学校があるが、区域ではないので利用が出来ない。(女性・68歳・肢体不自由)
- ・ 外出中に何か発生した場合に身近の所へいつでもどこへでも避難できたらいい。(男性・72歳・内部障害)
- ・ 災害時にどのように行動すれば良いのか不安です。(男性・66歳・肢体不自由)
- ・ 緊急時の関係者への連絡手段の充実(非常ボタンの設置)。(女性・81歳・肢体不自由)
- ・ 災害時など家にだれもいな時は、不安になります。(女性・62歳・肢体不自由)
- ・ 聴覚障害者は火事が発生した場合就寝中であれば、音でなく(光)でしか察知出来ないため、将来自分が独居になったら大変不安です。(男性・70歳・聴覚障害)

<その他>

- ・ 成年後見人制度が複雑で面倒でとても時間がかかるので断念した。(女性・99歳・内部障害)
- ・ 細かなことですが、障害者の「害」の字は差別だという人もいるので、なるべく「がい」の方がいいのではないのでしょうか。(女性・50歳・無回答)
- ・ 障害者介護にたずさわっている皆さんの報酬を何とか上げていかないとこれからこの様なきつい仕事につこうと考える人は少ないと思います。(女性・62歳・肢体不自由)
- ・ 直接的に障害者と直面している部署がリーダーシップをとって市民の声を聞き、いろいろな企画を出していくべきと考える。(男性・58歳・内部障害)
- ・ 医療・福祉関係者の質の向上。(男性・73歳・肢体不自由)
- ・ このような調査をして下さることは忙しい人にとって意見を伝えるよい機会になり、ありがたく思います。(女性・77歳・内部障害)

(2) 知的障害者調査

1 回答者の基本的な属性等

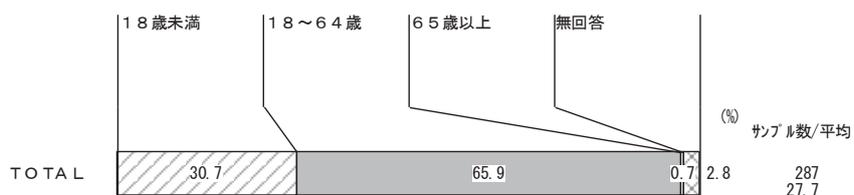
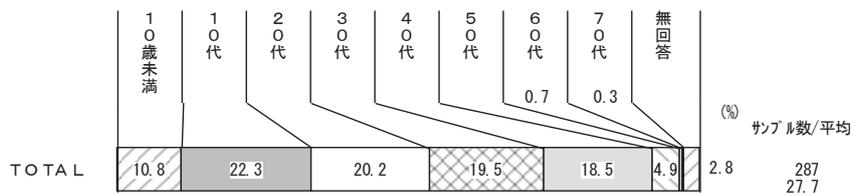
(1) 性別

回答者の性別は、男性が66.6%、女性が33.4%である。



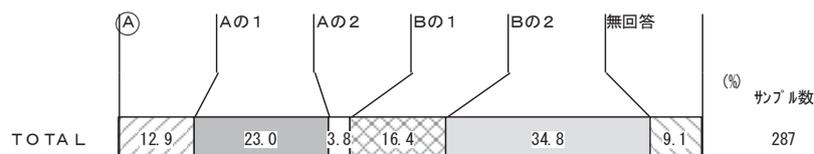
(2) 年齢

年齢は、10代が22.3%、20代が20.2%、30代が19.5%を占めており、平均年齢は27.7歳である。



(3) 障害の程度

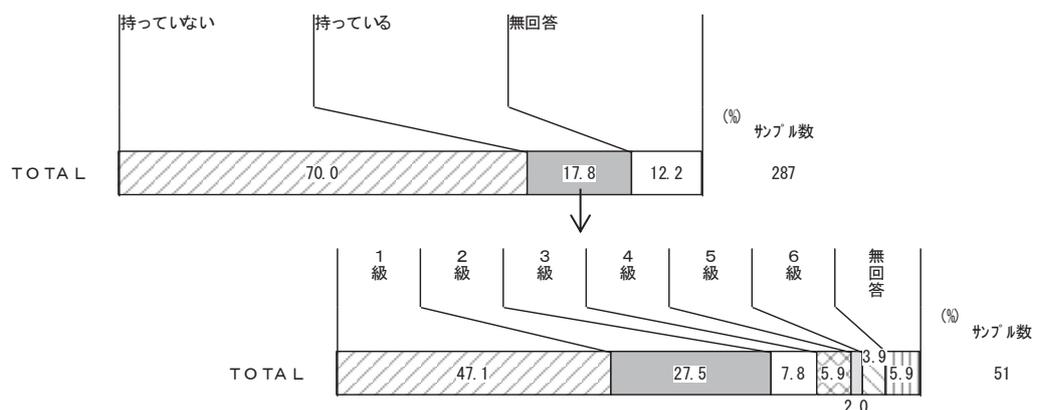
療育手帳に記載されている障害程度の内訳は、「A」12.9%、「Aの1」23.0%、「Aの2」3.8%、「Bの1」16.4%、「Bの2」34.8%である。



(4) 身体障害者手帳の所持状況

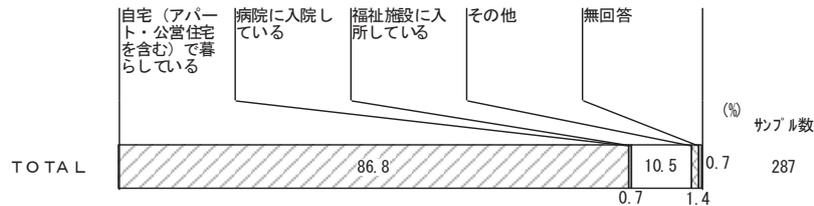
身体障害者手帳を「持っている」人は17.8%である。

なお、身体障害者手帳に記載されている障害程度の内訳をみると、「1級」が47.1%と最も多い。



(5) 現在の生活場所

現在、「自宅(アパート・公営住宅を含む)で暮らしている」人が86.8%、「福祉施設に入所している」人が10.5%である。



(6) 同居家族(複数回答)

一緒に暮らしている家族は、「母親」が86.1%と最も多く、次いで「父親」(75.3%)、「兄弟・姉妹」(50.9%)と続いている。なお、「ひとり暮らし」の人は2.1%である。

年齢別にみると、18歳未満では、親(母親もしくは父親)と暮らしている人が約9割で、75.0%には「兄弟・姉妹」(78.1%)がいる。

(%)

	(n)	ひとり暮らし	父親	母親	配偶者(夫・妻)	子ども	子どもの配偶者(婿・嫁)	兄弟・姉妹	祖父母	その他	無回答
TOTAL	287	2.1	75.3	86.1	0.7	0.3	0.3	50.9	12.2	5.2	0.3
18歳未満	88	—	88.6	92.0	1.1	—	—	75.0	20.5	2.3	—
18~64歳	189	3.2	72.0	84.7	0.5	0.5	0.5	41.3	9.0	4.8	0.5
65歳以上	2	—	—	—	—	—	—	50.0	—	100.0	—
無回答	8	—	25.0	75.0	—	—	—	12.5	—	25.0	—

(7) 介護保険によるサービスの利用状況

介護保険によるサービスを「利用している」人は、2.4%である。

利用者の要介護度の内訳をみると、7人中3人が「要介護5」(42.9%)である。



(8) 医療ケアの必要性(複数回答)

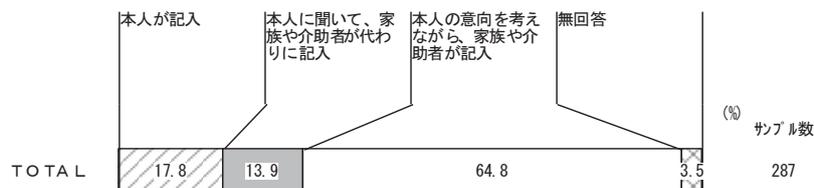
現在、医療ケアを受けている人は、「服薬管理」が10.8%、「鼻腔経管栄養」が1.0%などとなっている。

(%)

	(n)	医療ケアは受けていない	服薬管理	鼻腔経管栄養	気管切開	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	カテーテル留置	その他	無回答
TOTAL	287	55.7	10.8	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.3	4.5	27.9

(9) 調査票の記入者

本調査の調査票は、「本人が記入」が17.8%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が13.9%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が64.8%である。



2 日常生活における介助の状況

(1) 日常生活における介助の必要性

日常の生活の中の「食事をする」「トイレ」「入浴」「衣服の着脱」「家事(調理、掃除、洗濯)」「外出」「自分の意思を伝える」のうち、介助が必要な人(全部または一部)の割合が最も高いのは「家事(調理、掃除、洗濯)」で、73.2%の人が介助を必要としている。

n=287						(%)
	一人ができる	時間をかければ一人 でできる	一部介助が 必要	全部介助が 必要	無回答	→ 介助が必要 (一部+全部)
食事をする	66.6	4.5	17.1	8.4	3.5	→ 25.5
トイレ	62.0	3.1	19.2	12.2	3.5	→ 31.4
入浴	50.2	3.5	23.0	19.5	3.8	→ 42.5
衣服の着脱	62.4	7.7	16.0	10.5	3.5	→ 26.5
家事(調理、掃除、洗濯)	15.3	6.3	19.9	53.3	5.2	→ 73.2
外出	30.7	2.8	25.1	37.6	3.8	→ 62.7
自分の意思を伝える	27.5	—	35.2	30.7	6.6	→ 65.9

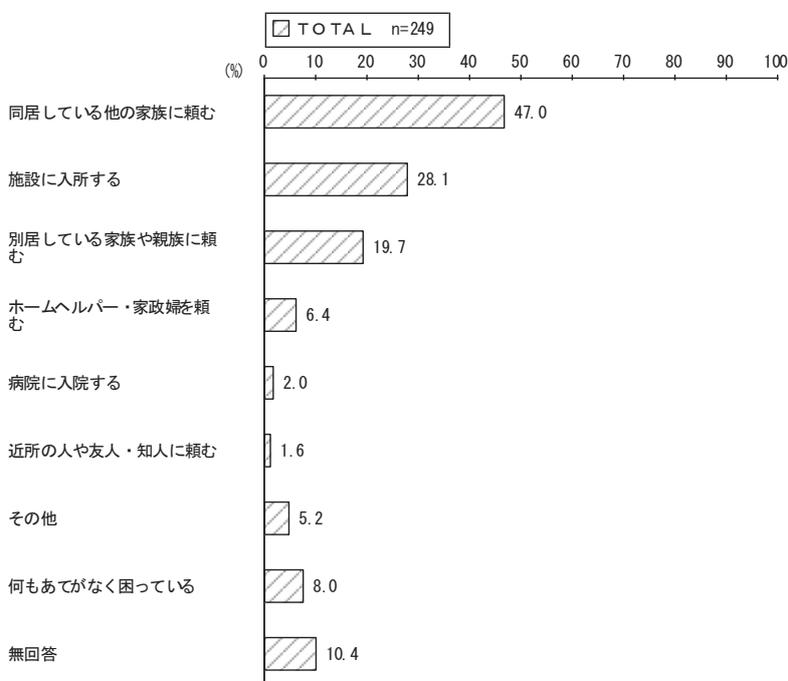
(2) 主な介助者

主な介助者は、「母親」が56.2%を占めている。

n=249											(%)
	配偶者 (夫・妻)	父親	母親	子ども	その他同 居してい る家族	別居して いる家族 や親族	ホームヘルパー・ 家政婦	病院や施 設の職員	その他	無回答	
	0.4	14.1	56.2	0.4	3.2	0.4	1.2	7.6	8.0	8.4	

(3) 主な介助者が介助できない場合の対応(主なもの2つまで)

いつも介助している介助者が介助できなくなった場合には、「同居している他の家族に頼む」と回答した人が47.0%と最も多く、次いで「施設に入所する」(28.1%)、「別居している家族や親族に頼む」(19.7%)と続いている。



3 日中の過ごし方

(1) 日中の主な過ごし方

平日の日中の主な過ごし方としては、「幼稚園・保育園・学校に通っている」人が28.9%と最も多く、次いで「会社等で働いている」(17.8%)、「福祉作業所に通っている」(14.3%)と続いている。

年齢別にみると、18～64歳では、「会社等で働いている」が25.9%、「福祉作業所に通っている」が21.7%となっている。

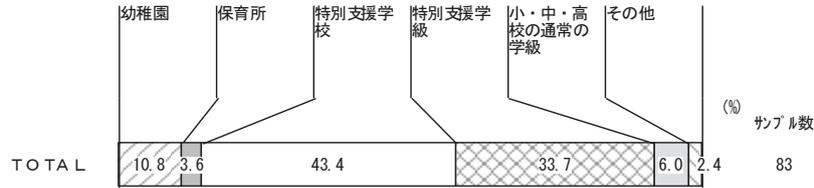
(%)

	(n)	幼稚園・保育園・学校に通っている	会社等で働いている	生活介護・療養介護に通っている	福祉作業所に通っている	就労系事業所に通っている	入所施設に いることが多い	入院して療養している	自宅に いることが多い	その他	無回答
TOTAL	287	28.9	17.8	7.3	14.3	7.0	7.3	0.7	9.8	2.1	4.9
18歳未満	88	90.9	—	—	—	—	—	—	5.7	—	3.4
18～64歳	189	1.1	25.9	10.6	21.7	10.6	9.5	1.1	10.6	3.2	5.8
65歳以上	2	—	—	—	—	—	50.0	—	50.0	—	—
無回答	8	12.5	25.0	12.5	—	—	25.0	—	25.0	—	—

4 通園・通学の状況

(1) 通園・通学先

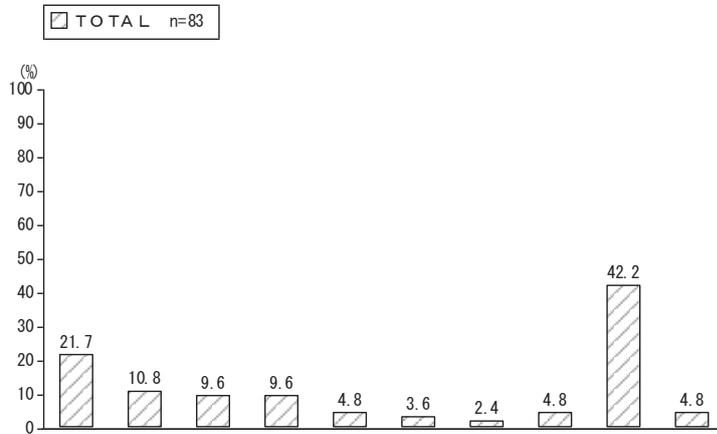
通園・通学先は、「特別支援学校」が43.4%、「特別支援学級」が33.7%である。



(2) 通園・通学して困っていること (複数回答)

通園・通学して困っていることは、42.2%が「特になし」と回答しているが、21.7%は「通うのがたいへん」、10.8%は「友だちができない」ことをあげている。

通園・通学先にみると、特別支援学級では、「友だちができない」、「介助体制が十分でない」、「まわりの生徒たちの理解が得られない」ことを、それぞれ28人中5人(17.9%)があげている。

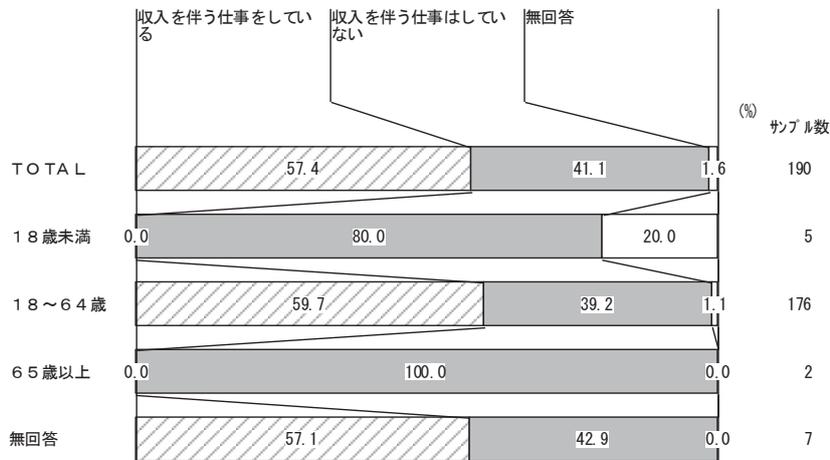


問9-1 【通園・通学者】 通園・通学先	n	困っていること (%)										
		1 通うのがたいへん	7 友だちができない	3 介助体制が十分でない	6 まわりの生徒たちの理解が得られない	4 先生の理解や配慮が足りない	2 トイレなどの設備が整っていない	5 保護者たちの理解が得られない	10 その他	11 特になし	12 無回答	
0 TOTAL	83	21.7	10.8	9.6	9.6	4.8	3.6	2.4	4.8	42.2	4.8	
1 幼稚園	9	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0	
2 保育所	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	
3 特別支援学校	36	33.3	5.6	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	2.8	47.2	2.8	
4 特別支援学級	28	14.3	17.9	17.9	17.9	14.3	3.6	3.6	7.1	25.0	3.6	
5 小・中・高校の通常の学級	5	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0	
8 その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	

5 就労について

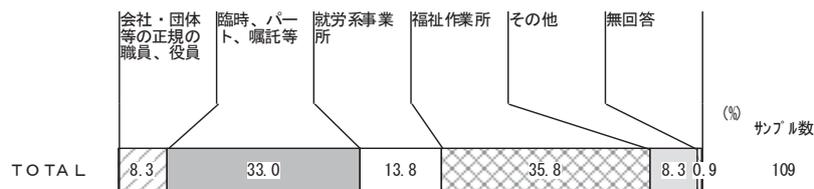
(1) 収入を伴う仕事の状況

18～64歳で、現在「収入を伴う仕事をしている」人は、59.7%である。



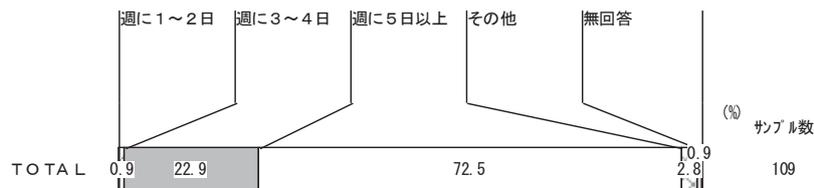
(2) 就労形態

就労の形態は、「福祉作業所」が35.8%と最も多く、次いで「臨時、パート、嘱託等」(33.0%)、「就労系事業所」(13.8%)と続いている。



(3) 就労日数

就労日数は、「週に5日以上」が72.5%、「週に3～4日」が22.9%である。



就労形態別にみると、臨時、パート、嘱託等では、「週に5日以上」が52.8%、「週に3～4日」が44.4%、福祉作業所では、「週に5日以上」が82.1%となっている。

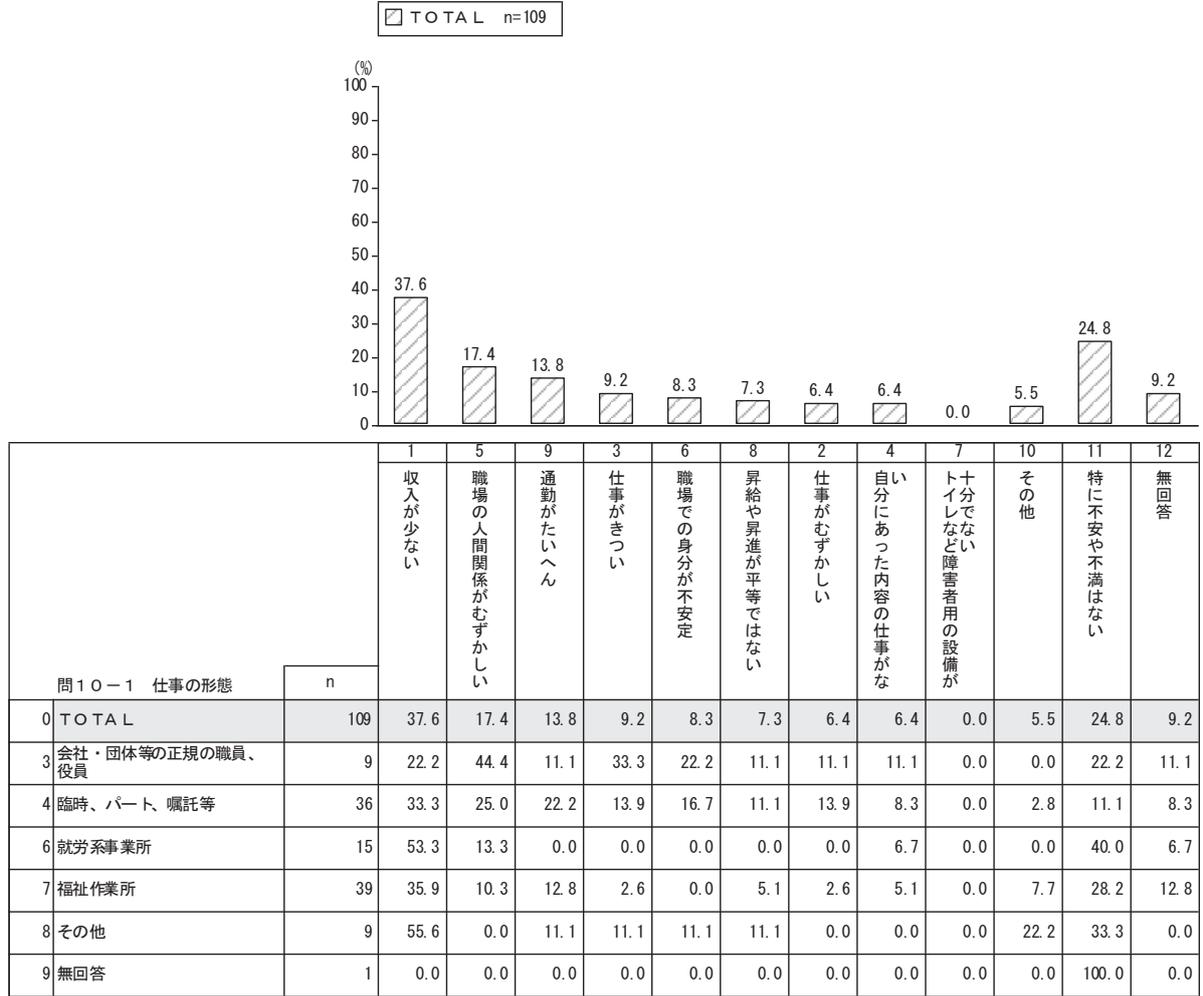
(%)

(n)	週に1～2日	週に3～4日	週に5日以上	決まっていない	その他	無回答
臨時、パート、嘱託等	—	44.4	52.8	—	2.8	—
就労系事業所	—	20.0	80.0	—	—	—
福祉作業所	2.6	10.3	82.1	—	2.6	2.6

(4) 仕事をする上での不安や不満（複数回答）

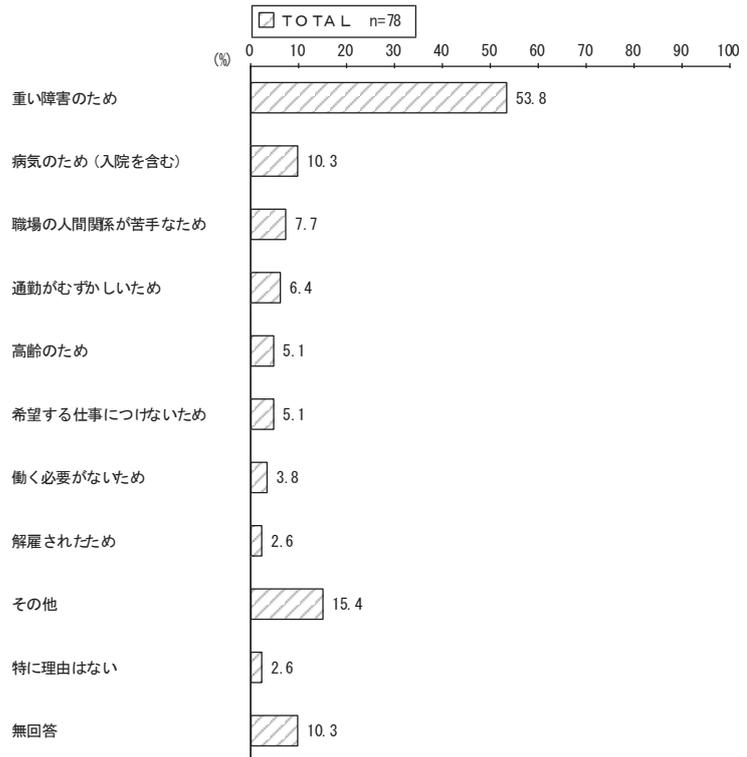
仕事をする上での不安や不満としては、「収入が少ない」ことをあげる人が37.6%と最も多く、次いで「職場の人間関係がむずかしい」(17.4%)、「通勤がたいへん」(13.8%)と続いている。

就労形態別にみると、就労系事業所では、15人中8人(53.3%)が「収入が少ない」ことをあげている。



(5) 働いていない理由（複数回答）

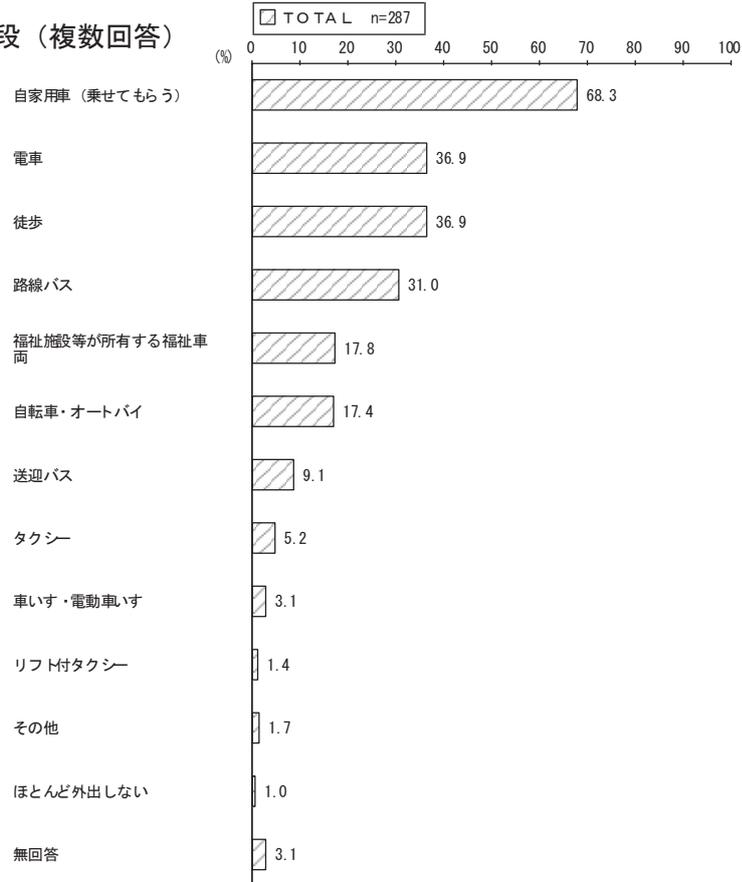
現在、働いていない理由は、「重い障害のため」が53.8%と最も多くなっている。



6 外出・社会参加の状況

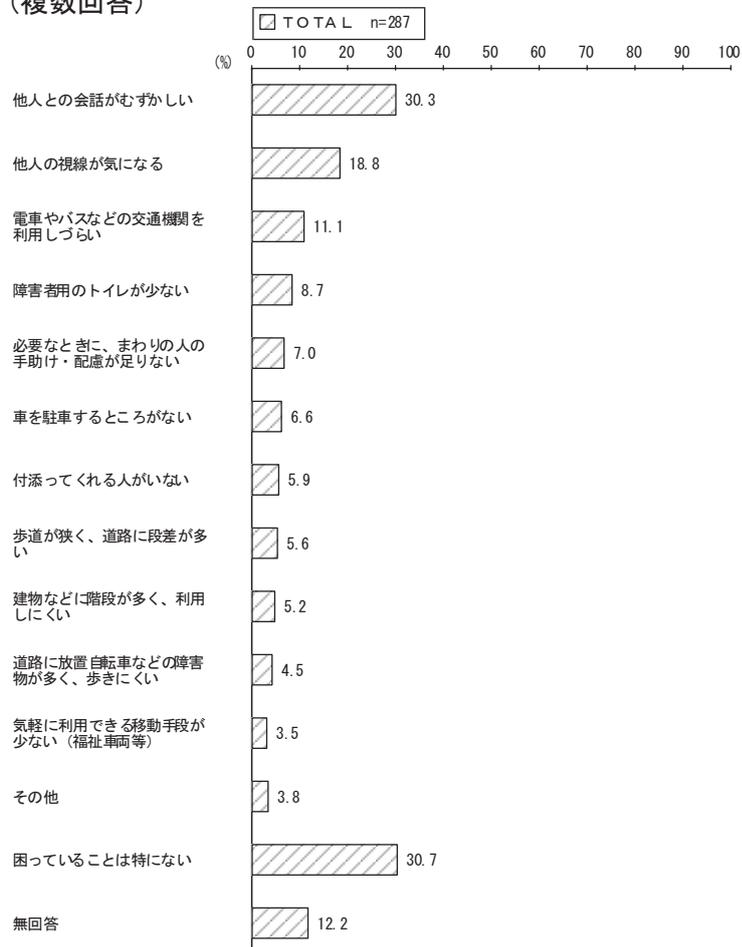
(1) 外出の際に利用する交通手段（複数回答）

外出の際によく利用する交通手段は、「自家用車（乗せてもらう）」が68.3%と最も多く、次いで「電車」と「徒歩」がそれぞれ36.9%で続いている。



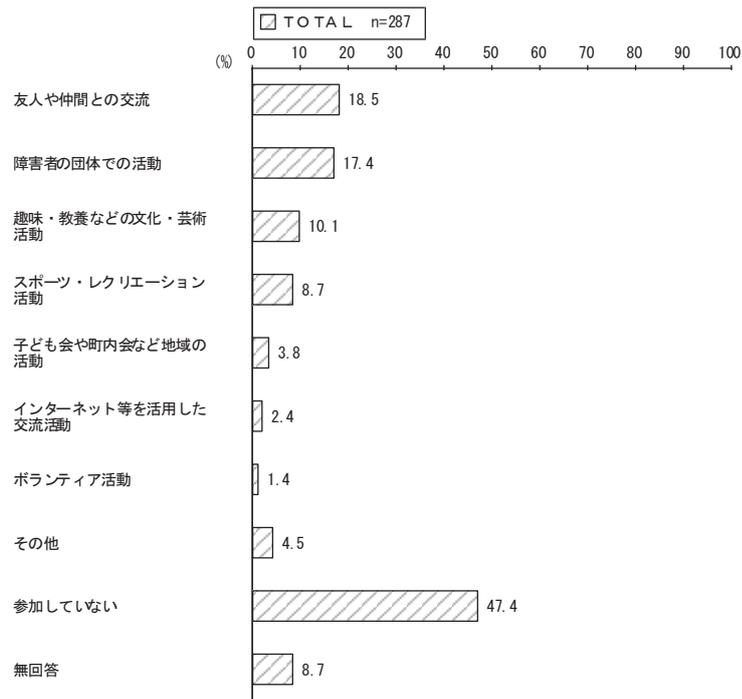
(2) 外出の際に困っていること（複数回答）

外出の際に困っていることとしては、「他人との会話がむずかしい」ことをあげる人が30.3%と最も多く、次いで「他人の視線が気になる」(18.8%)、「電車やバスなどの交通機関を利用しづらい」(11.1%)と続いている。



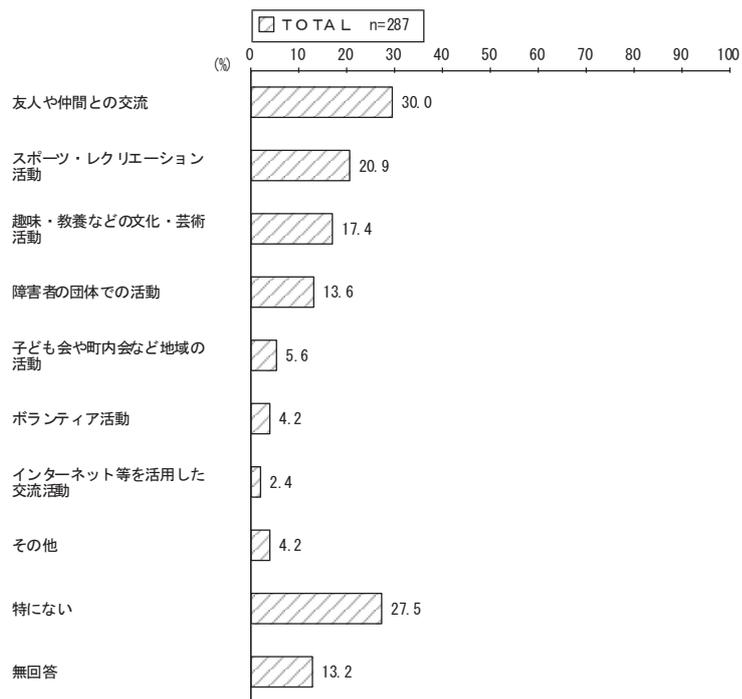
(3) 余暇活動等の状況（複数回答）

「友人や仲間との交流」をしている人は18.5%、「障害者の団体での活動」をしている人が17.4%いるが、47.4%の人は特に活動に参加していない状況である。



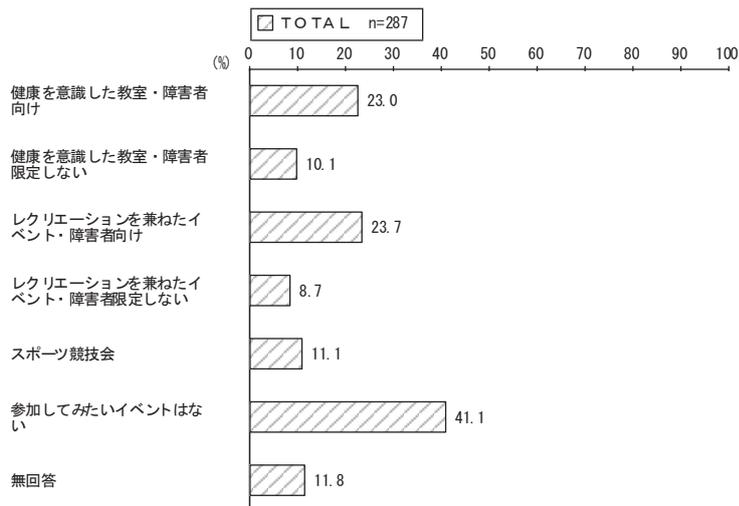
(4) 今後の生活の中で充実させたいこと（複数回答）

今後の生活の中でもっと充実させたいことや新たに始めたいこととしては、「友人や仲間との交流」をあげる人が30.0%と最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」(20.9%)、「趣味・教養などの文化・芸術活動」(17.4%)と続いている。



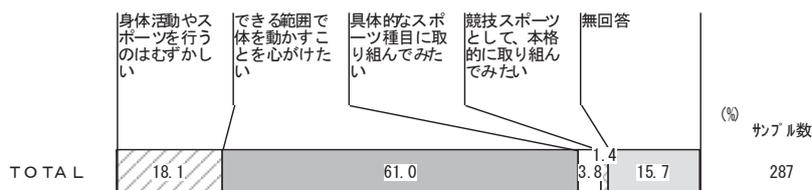
(5) スポーツ等の催しへの参加意向（複数回答）

今後、「歩こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント（障害者向け）に参加してみたいと思う人は23.7%、「体操教室など健康を意識した教室（障害者向け）」に参加してみたいと思う人は23.0%である。



(6) 身体活動やスポーツに対する意識

今後の身体活動やスポーツについては、61.0%の人が「自分の健康づくりのために、できる範囲で体を動かすことを心がけたい」と考えており、「身体活動やスポーツを行うのはむずかしい」と考えている人は18.1%である。

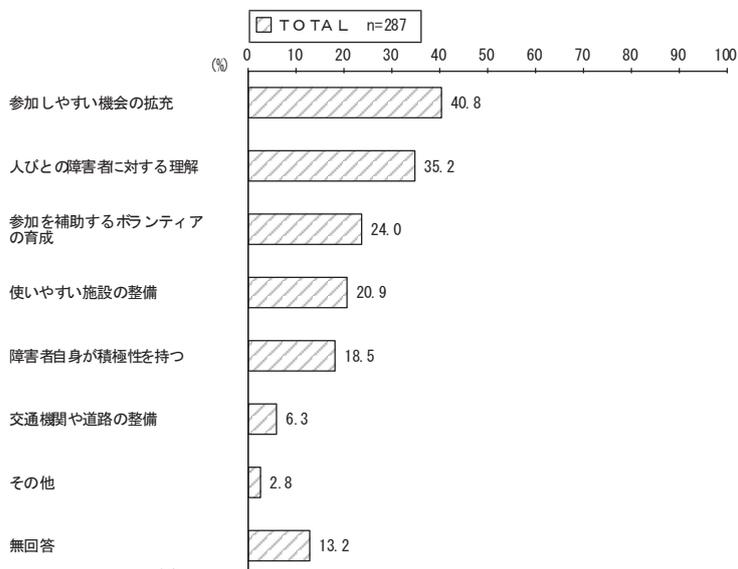


「具体的なスポーツ種目に取り組みたい」、「競技スポーツとして、本格的に取り組みたい」と回答した人に対して、具体的に組み組んでみたいスポーツの内容を尋ねたところ、「水泳」、「野球」、「バスケットボール」、「サッカー」等の記入があった。

記入件数	記入内容
4件	水泳
2件	野球、バスケットボール、サッカー
1件	マラソン、ダンス、卓球、ソフトボール、スキー、乗馬、弓道

(7) 地域や社会に参加するために必要なこと（〇は2つ以内）

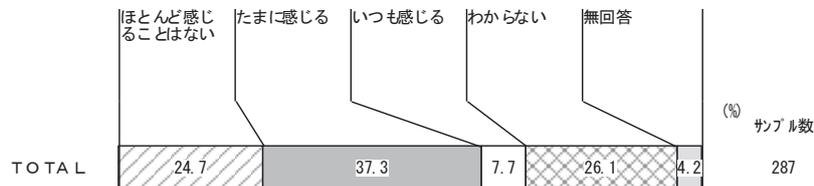
地域や社会に積極的に参加できるようにするために特に大切なこととしては、「参加しやすい機会の拡充」をあげる人が40.8%と最も多く、次いで「人びとの障害者に対する理解」(35.2%)、「参加を補助するボランティアの育成」(24.0%)と続いている。



7 差別や人権侵害等の状況

(1) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じること

差別や人権侵害、虐待を受けていると「いつも感じる」人は7.7%、「たまに感じる」人は37.3%で、「ほとんど感じることはない」(24.7%)と回答した人を大きく上回っている状況である。



(2) 差別や人権侵害、虐待の具体的な内容 (自由回答)

差別や人権侵害等を感じる具体的な内容としては、次のような記入があった。

<理解不足、周囲の人の言動>

- 緊張すると笑ってしまう癖があり、それをからかわれたりする。言葉を発することがなかなか出来ないのも、これもからかわれたり、変な顔をされる。(女性・37歳)
- 人との会話やコミュニケーションがとれない為、声をかけてもらえない。(女性・19歳)
- 家探しで入居を拒否されたり、下見を断われたりしたことがある。障がい児は近所迷惑だからと。(男性)
- 人にじろじろ見られることがよくある。(女性・26歳)
- まわりに人がいる時に、一人言を言ってしまったとき、変な目で見られる。(男性・21歳)
- お友だちに障害のことでからかわれたり、心ない言葉を言われたりするとき。(男性・7歳)
- お店でイヤな目でみられる。地域の人々にうとまれる。(男性・16歳)
- 会話があまり出来ないのも、見た目とのギャップで差別的な視線を感じる。(男性・28歳)
- 子供会などへの参加の声かけがなかった。(男性・22歳)
- よそのお母さんが自分の子どもに「言うことかかないなら支援学級にいれるよ」と怒っていた。(男性・12歳)
- 直接言われることはないが、インターネットの書きこみなどを見ると、こっちが普通の人の本音なのかな、と落ちこむことがある。(女性・3歳)
- 公共の交通機関(JR、路線バス)などを使用した時に強く感じる。声が大きいので車掌に静かに、と注意を受けたので電車から降りた。(男性・20歳)

<教育>

- 歩けないことを理由に、幼稚園の入園を断われた。(女性・5歳)
- 教育委員会の方が小学校へ同行し紹介されたとき、この子はウルサイタイプではない。行動も激しくないと紹介。障害者はウルサイのか。行動が激しいのか。教育委員会の知識のなさに傷ついた。(男性・9歳)

<雇用・就労>

- 学校卒業後、就職した職場で、いじめ、性的虐待を受けた。(女性・36歳)
- 仕事で「遅い」などと言われる。(男性・30歳)
- 上から目線での言葉使い。返事や挨拶での声のトーン。(女性・31歳)

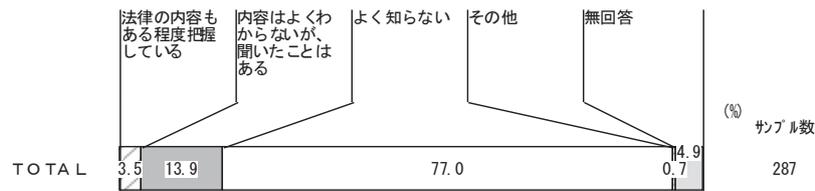
(3) 市民の理解

障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と思う人は6.6%、「まあ進んできている」と思う人は9.8%である。



(4) 「障害者差別解消法」の認知状況

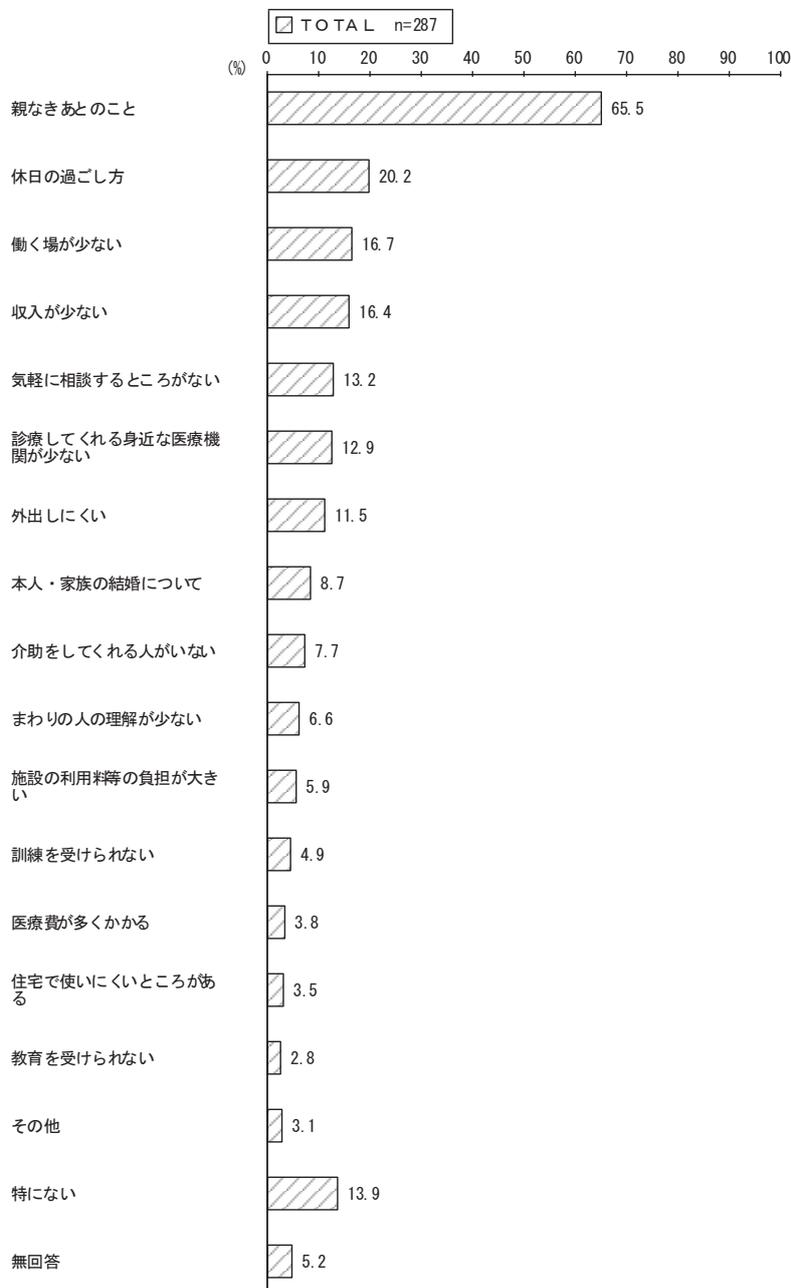
「障害者差別解消法」については、77.0%が「よく知らない」と回答している。



8 生活で困っていること

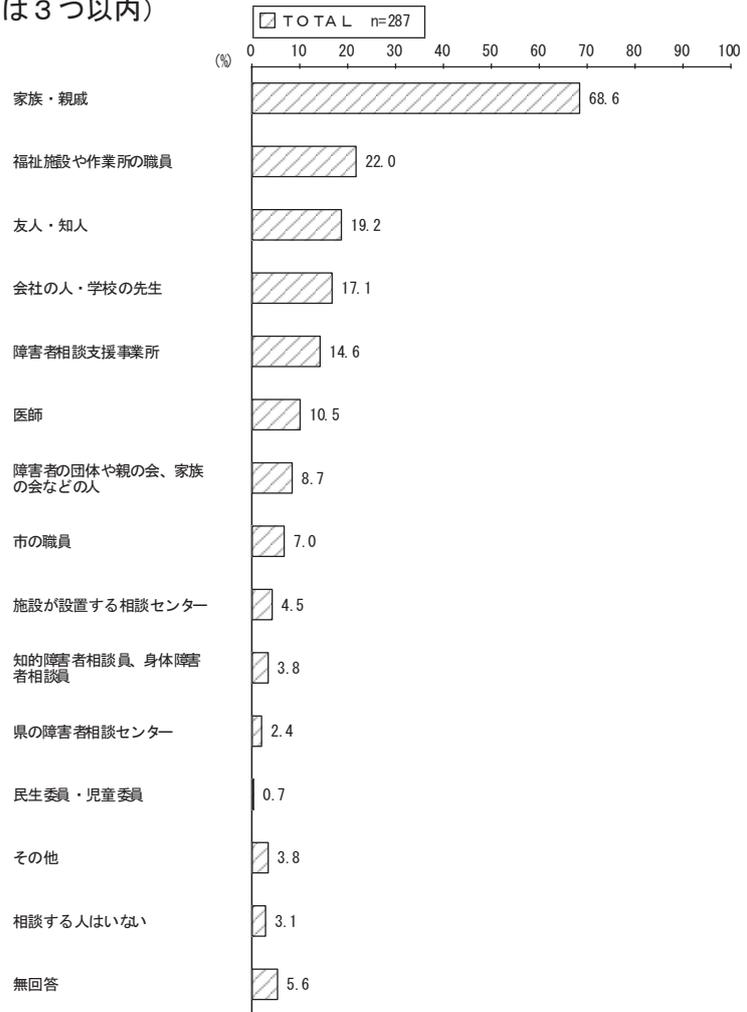
(1) 現在の生活で困っていること、不安を感じていること（複数回答）

現在の生活で困っていることや不安を感じていることとしては、「親なきあとのこと」をあげる人が65.5%と最も多く、次いで「休日の過ごし方」(20.2%)、「働く場が少ない」(16.7%)と続いている。



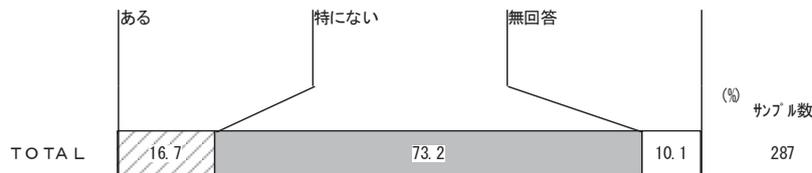
(2) 悩みや困ったことの相談先 (○は3つ以内)

悩みや困ったことを相談するのは、「家族・親戚」が68.6%と最も多く、次いで「福祉施設や作業所の職員」(22.0%)、「友人・知人」(19.2%)と続いている。



(3) 現在、相談したいことの有無

現在、障害に関することなどで相談したいことが「ある」人は、16.7%である。



具体的に相談したい内容としては、次のような記入があった。

<親なきあとの生活>

- ・ 親亡きあとの生活の場について。(女性・22歳)
- ・ 将来両親が亡くなった場合、グループホームがなかった場合はどうすればいいか。(男性・22歳)

<教育、進路>

- ・ 小学校就学について。(男性・5歳)
- ・ 学校の先生やこれから相談会などに参加していろいろお話を聞いたりしてみたい。(男性・17歳)
- ・ 今後、小学校へ進学するとき、サポートルームや特殊学級についてのことが知りたい。(男性・4歳)
- ・ 特別支援学校の高等部3年生なので就労のことでいろいろと考えている。(男性・17歳)

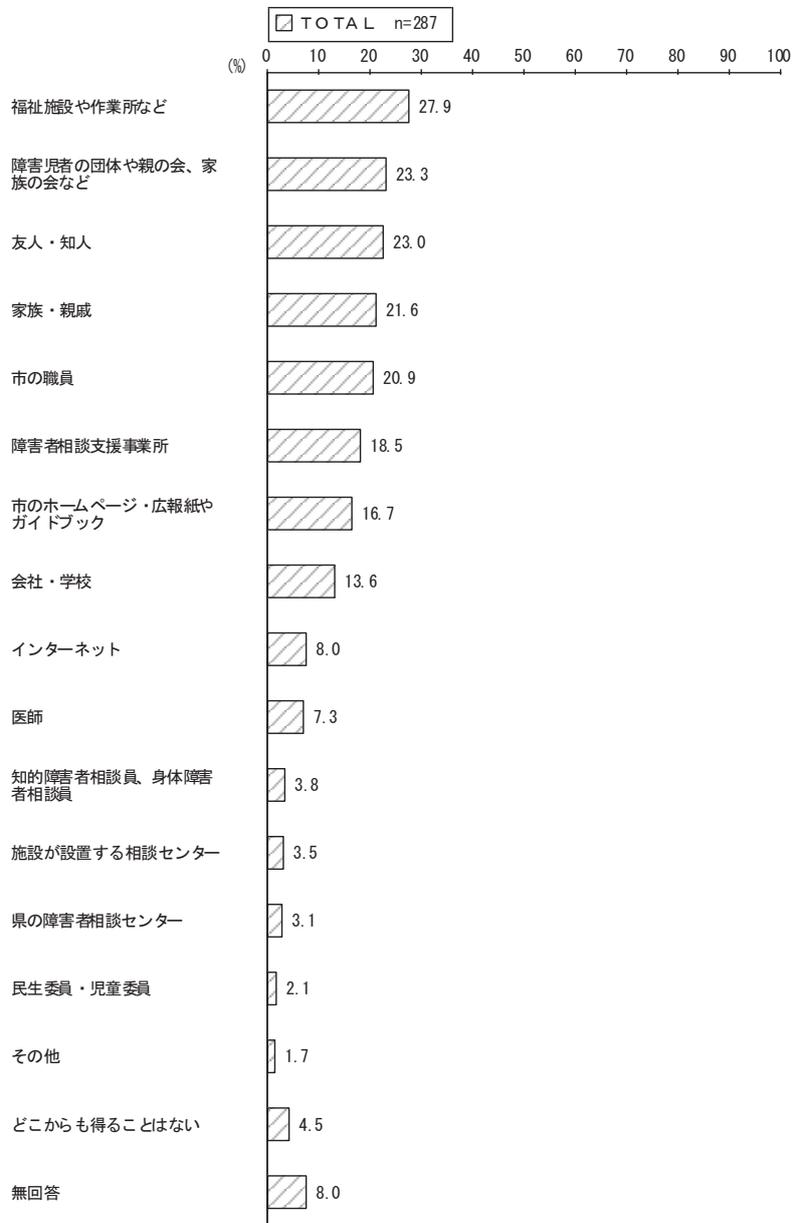
<その他>

- ・ 心のケアを十分にしてもらえる信頼できる専門家を探しているが、なかなか見つからない。(女性・21歳)
- ・ コミュニケーションや勉強など苦手とすることが多いが、どのようにして改善していけるか。(男性・6歳)
- ・ 地やでうまく生活できない。(男性・16歳)
- ・ 後見人がよくわかってくれない。(男性・36歳)

9 福祉に関する情報入手について

(1) 福祉に関する情報の入手先 (〇は3つ以内)

福祉に関する情報は、「福祉施設や作業所など」から得る人が27.9%と最も多く、次いで「障害児者の団体や親の会、家族の会など」(23.3%)、「友人・知人」(23.0%)と続いている。



(2) 情報を得られないで困ったことの有無

福祉サービスなど障害者のための情報が得られないで困ったことが「ある」人は9.4%である。



情報が得られないで困ったことの内容としては、次のような記入があった。

- ・こちらから聞かないと、教えてくれないことが多々ある。(男性・2歳)
- ・インターネットが使えないので受けられるサービスが受けられず損をした。(男性・23歳)
- ・市外の療育施設を探したが、市の福祉課でも情報を得られなかった。(男性・14歳)
- ・どのようなサービスがあるかわからない。(男性・12歳)
- ・3歳からてんかんを患っているが、10歳になるまで医療費の制度があるのを知らなかった。(女性・25歳)
- ・市の職員の方は人によって言っていることや対応が異なることもあるので、どれが正しい情報なのかとまどうこともある。(男性)

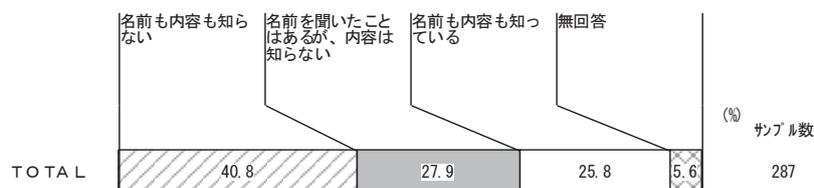
(3) 入手したいと思う情報 (自由回答)

現在または今後ほしいと思う情報としては、具体的に次のような記入があった。

- ・知的障害のある人を受け入れてくれる医療機関。(女性・26歳)
- ・発達障害者のための進学情報。理解のある学校はどこか、どんなサポートが受けられるか。(男性・12歳)
- ・千葉県の障害児の教育システムや教育機関について。(男性・7歳)
- ・学校卒業後の進路として、福祉施設などの情報。(男性・15歳)
- ・入所施設の仕事の内容や、入所できるかどうか。(男性・34歳)
- ・障害者就労についての情報。(男性・27歳)
- ・障害者どうしの交流の場や、受けられるサービスについての情報。(女性・19歳)
- ・趣味やスポーツについての情報。(男性・26歳)
- ・旅行に行くとき、障害者に思いやりのあるホテルや旅館の情報。(男性・34歳)
- ・障害があっても安心して参加できるサークルなどに関する情報。(男性・6歳)
- ・親が亡くなったときに必要となる手続き等の情報。(男性・38歳)

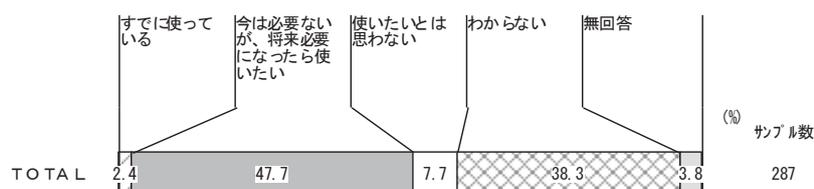
(4) 成年後見制度の認知状況

成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は25.8%であり、約4割は「名前も内容も知らない」(40.8%)と回答している。



(5) 成年後見制度の利用意向

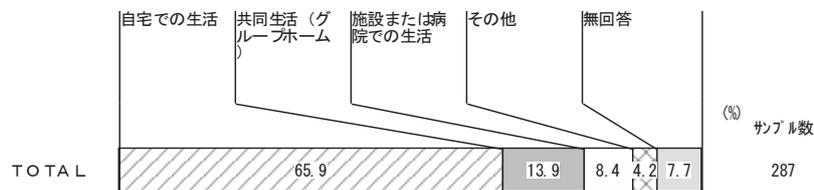
47.7%の人が「今は必要ないが、将来必要になったら(成年後見制度を)使いたい」と回答している。



10 今後、希望する暮らし方

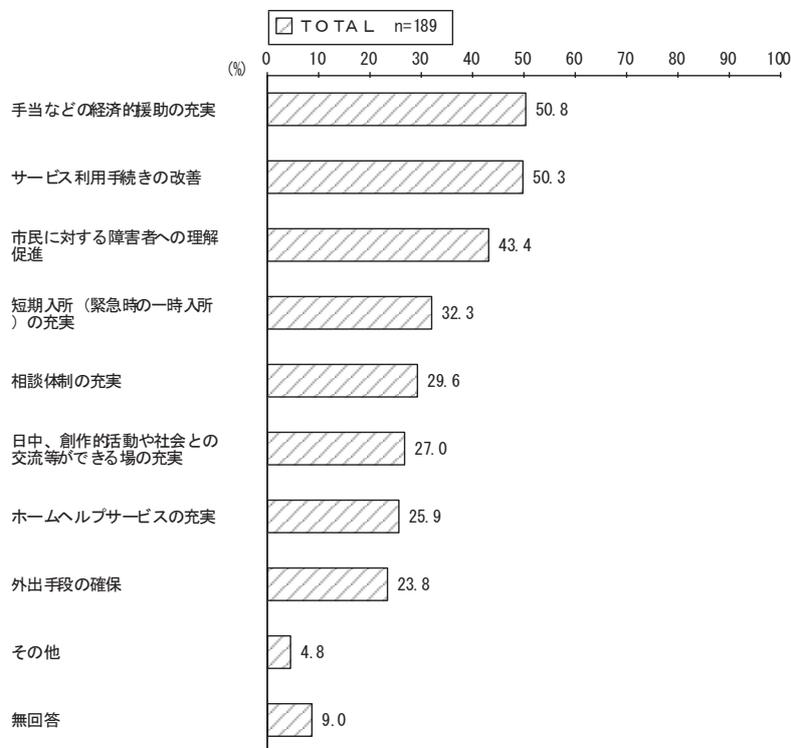
(1) 希望する生活形態

今後の生活形態については、65.9%の人が「自宅での生活」を希望しており、「共同生活(グループホーム)」を希望する人は13.9%である。



(2) 自宅での生活を続けるために必要な条件(複数回答)

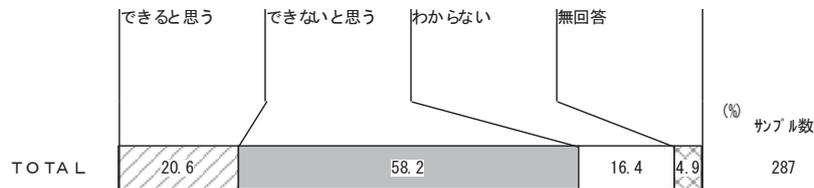
自宅での生活を希望する人に対して、自宅での生活を続けるために必要とする条件を尋ねたところ、「手当などの経済的援助の充実」をあげる人が50.8%と最も多く、次いで「サービス利用手続きの改善」(50.3%)、「市民に対する障害者への理解促進」(43.4%)と続いている。



11 災害時の対応

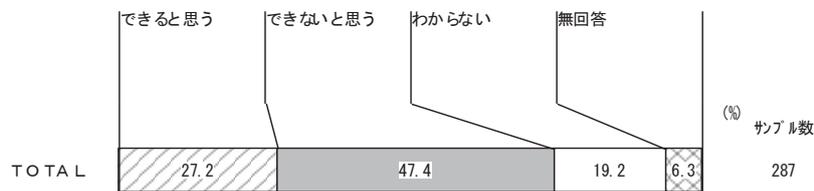
(1) 一人避難の能否

火事や地震等の災害時に、約2割は一人で避難「できると思う」(20.6%)と回答しているが、約6割は「できないと思う」(58.2%)としている。



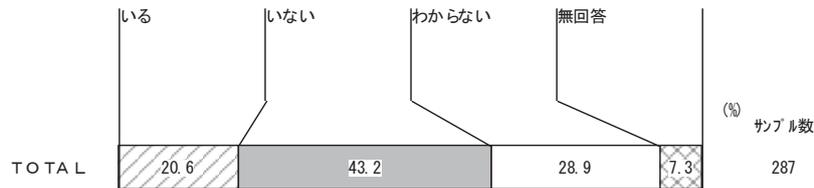
(2) 周囲へ状況を知らせる事の能否

火事等の非常時に、周囲の人に知らせることが「できると思う」人は27.2%で、47.4%は「できないと思う」と回答している。



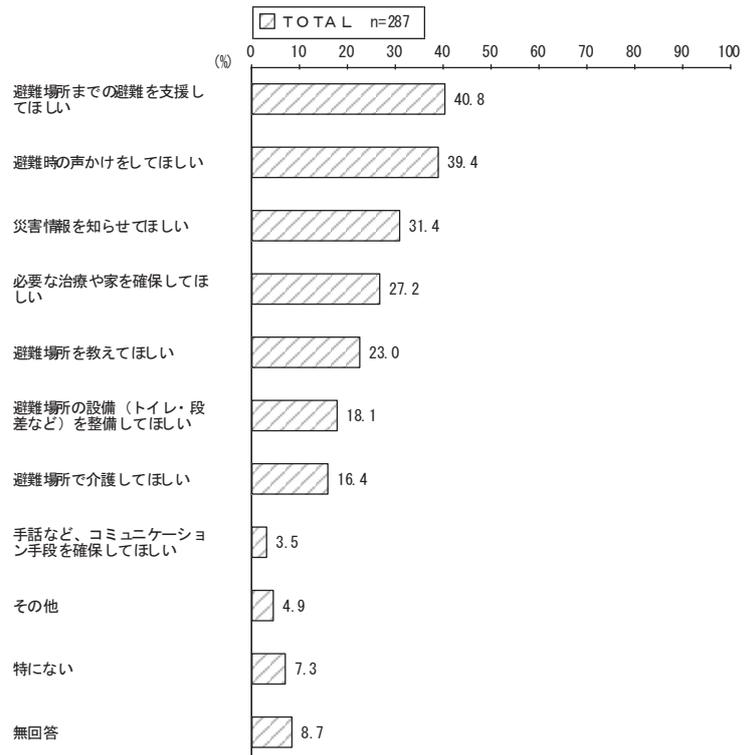
(3) 近所に助けてくれる人の有無

家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人が「いる」と回答した人は20.6%である。



(4) 災害発生時に支援してほしいこと (〇は3つ以内)

災害発生時に支援してほしいこととしては、「避難場所までの避難を支援してほしい」が40.8%と最も多く、次いで「避難時の声かけをしてほしい」(39.4%)、「災害情報を知らせしてほしい」(31.4%)と続いている。



(5) 災害時に困ること、不安なこと（自由回答）

災害時に困ると思われること、不安なことについては、具体的に次のような記入があった。

記入内容としては、「一人で行動できないこと」や「パニックを起こしてしまうこと」などから、避難時・避難後に不安を感じている人が多い。また、避難所の暮らしについては、周囲に多くの人がいる「集団での生活」が難しい・苦手であるといった記入が多くなっている。

<避難時について>

- ・ 避難時に一緒に行動できる（ヘルパー等）人が、決められていない。（女性・38歳）
- ・ 一人で家にいたとき、避難などの判断ができるか不安。（男性・16歳）
- ・ 避難行動がスムーズにできるか、団体行動ができるか。（男性・41歳）
- ・ 体重が増え、車いすに乗せることが短時間にはできない。（女性・22歳）
- ・ 一人で避難できない。（男性・34歳）
- ・ 避難場所がよくわからない。（男性・21歳）

<避難後について>

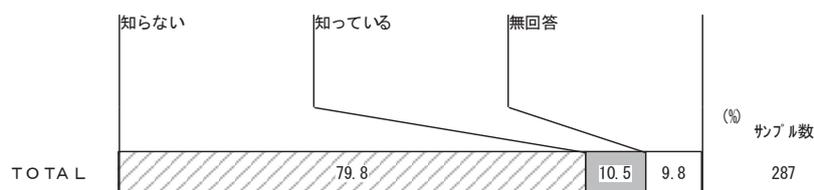
- ・ 施設の人と離れ離れで過ごすことになったら不安。（女性）
- ・ 家族と離れてしまった場合、1人では、どうにもできないと思う。（女性・21歳）
- ・ 薬を服用しているので病院と薬の確保。（男性・12歳）
- ・ 環境が変わると障害のため落ちつかなくなる。パニックしてしまう。（男性・24歳）
- ・ パニックによる奇声で周囲に迷惑をかけてしまうこと。（男性・9歳）

<避難所の暮らしについて>

- ・ 環境の変化に弱いので、家以外の場所での生活は不安。（男性・16歳）
- ・ 避難場所で障害のない人たちとうまく生活ができないと思う。（男性・52歳）
- ・ 騒いで避難所に皆といられない。（男性・16歳）
- ・ 一般の人々と一緒に避難場所は利用できないと思う。（男性・34歳）
- ・ 集団の中ではパニックになって周囲に迷惑をかけるので別の場所を用意してほしい。（男性・41歳）
- ・ 偏食が強いので、食べられる物がなくなったり、精神的に不安感やストレスが強くなること。（男性・6歳）

(6) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知状況

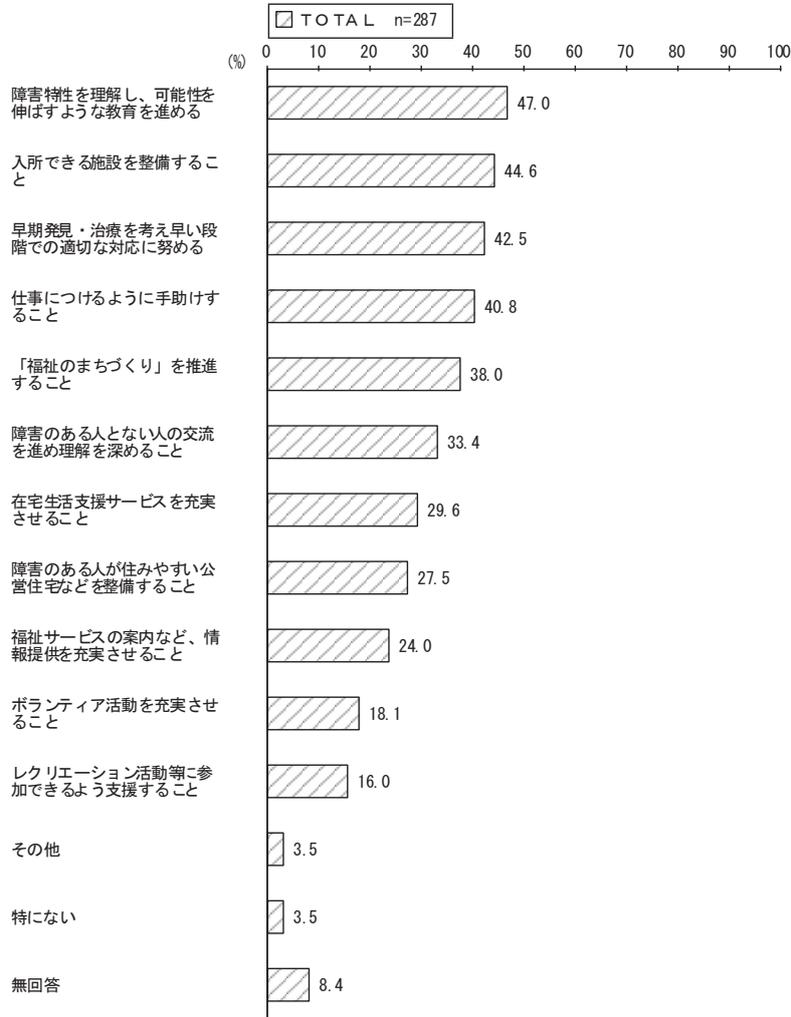
市の「避難行動要支援者避難支援制度」については、約8割が「知らない」(79.8%)状況である。



12 障害者施策を進める上で充実を図ること

(1) 障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこと（複数回答）

今後、障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこととしては、「障害の特性を理解し、その子どもの可能性を伸ばすような教育を進めること」をあげる人が47.0%と最も多く、次いで「入所できる施設を整備すること」(44.6%)、「早期発見・早期治療を考えて、早い段階での適切な対応に努めること」(42.5%)と続いている。



(2) 意見・要望（自由回答）

調査票の最後に、意見や要望の自由記入欄を設けたところ、79件の記入があった。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を掲載するよう心がけた。

<相談・情報について>

- ・相談窓口が多すぎて、どこに相談したら良いか分からない。将来が非常に心配です。(男性・14歳)
- ・福祉の相談の人は、もう少しゆっくり話を聞いて納得できるまで時間をかけてほしい。(女性)
- ・サービスの内容がわからない。(男性・43歳)
- ・知らないことが多いので、いろいろな情報を知らせてほしいです。(男性・28歳)
- ・家族は(親は自分が年老いた時本人の将来)が不安です。いろんな事を尋ねないと教えてくれないのではなく、分かりやすい冊子を作ってもらえると安心です。(女性・5歳)

<広報・啓発、理解・交流について>

- ・障がい者のことをよくわかってほしい。(女性・20歳)
- ・赤ちゃんの時から障害者にせっしなければ、苦しみや悲しみがわからない。(男性・46歳)
- ・どんなときでも気軽に何でも話せる人がほしい。(女性・43歳)
- ・障害は、手足が不自由な人、知的な遅れがある人だけではない。目にみえない障害を持っている人がいるという事、それをたくさんの人に知ってもらおう機会があるといいと思う。(男性・12歳)
- ・親の会や家族の会などの活動内容を市政だよりなどにのせてほしい。もっと障害者の保護者が交流出来るイベントがあると良い(小、中、高対象)。(男性・16歳)
- ・障害のある本人、家族が交流できる場所を定期的に市の援助で作って欲しい。決まった場所・時間帯でそこに行けば誰かに会える。月に1回でも開催してもらえたらとても嬉しいです。(女性・58歳)

<移動・移送について>

- ・作業所等に通う場合の専用バスの運行が実現できると大変助かる。(女性・48歳)
- ・学校に行くためのスクールバスのバス停に送る、移動支援が受けられると良い。(女性・12歳)

<バリアフリー環境の整備について>

- ・歩道がでこぼこで、使いにくいところがあるため、使いやすくしてほしいです。(男性・16歳)
- ・歩道のない道がありますので全ての道に歩道がほしい。(男性・34歳)

<療育体制・学校教育について>

- ・療育サービスは未就学で終了ではなく、就労までのノンストップの体制で継続できる充実したサポート体制をぜひ作っていただきたいです。(男性・6歳)
- ・特別学級の子どもの人数や重度・軽度にかかわらず、支援の人数がたりていないと感じる。(女性・9歳)
- ・息子がくれよんに通所しております。いつも夏休みが利用できません。小学生の兄がおり、小学生のお兄ちゃんをあずかっていただければ、利用できます。そういう方向でお願いしたいです。(男性・4歳)
- ・障がい児家庭支援のプロを育成し、普及させて下さい。(男性)
- ・小学校での受け入れは他の市町村に比べて、良いと思います。しかし、支援員や教員の充実をさらに進めてほしいと思います。そして中学校も同様にしてもらいたいです。(男性・7歳)
- ・教育委員会だけではなく、市の方からも、学校内での支援について考えてほしい。(相談にのったり、教育委員会に伝えたり、協力体制を取ってほしい。)(男性・12歳)
- ・教育委員会は障害についてもっと研修等が必要だと思う。支援クラスの先生も同様、知識が足りなく、うるさい子、行動が激しい子等で障害者を見てほしくない。特性についてもっと理解してもらいたい。(男性・9歳)

<施設整備について>

- ・作業所の延長線として入所できる処、そこで一緒に過ごしてきた同じ仲間と日常生活を共にしながらそこから作業所に通うことができ仕事ができたらと思う。(男性・43歳)
- ・生活介護の施設を作ってください。(男性・16歳)
- ・学校を卒業した後の受け皿の充実をお願いします。四街道市内の生活介護作業所は、少なすぎます。(男性・11歳)

- ・ 四街道には生活介護通所施設がありません。学校を卒業した後に安心して生活できる施設をつくっていただきたいと思います。(女性・17歳)
- ・ もっと障害者が利用できる施設がほしい。少しはありますが選べず、本人には合わず使えないので、もっとニーズにあわせてほしいと思います。(男性・24歳)
- ・ 四街道市民でありながら、他市へ通所しています。もう少し四街道市独自の通所施設の建設を希望します。(男性・38歳)

<経済的な不安や要望について>

- ・ 「インフルエンザ予防接種」について障害者(児)になぜ接種費用の助成がないのでしょうか。(男性・38歳)
- ・ 手当をもっと充実させて欲しい。他の市町村に比べて少ないと思う。(男性・15歳)
- ・ わが子もそうですが、長い間病院にかよふことが予想されます。中3で医療費の無料化が終わってしましますが、障害をもっている子に関してはもう少し無料化をのばしてほしい。(男性・14歳)

<市役所の対応や手続きについて>

- ・ 窓口の方によって対応がバラバラな時がある。ほとんどの方は優しくていねいだが、とても不快な時もある。(男性・20歳)
- ・ 市の職員の福祉サービスや、障害についての知識を充実させて下さい。(女性・3歳)
- ・ 電話などで応対する時いつも職員の方々の心配りの態度にホッとします。(女性・40歳)
- ・ 障害者に対しての窓口の対応が、人によって違うので、統一してほしいです。(女性・19歳)
- ・ 障害者の更新手続きが役所まで行かなければできない事を、なくしてもらいたい。(男性・28歳)
- ・ 更新の諸手続きを簡素化してほしい。(障害の認定度の診査など)(男性・55歳)
- ・ 今年療育手帳の更新を受けたが、同じ調査質問を※4カ所で受けた。(約1時間)(市役所, 県, 医院, 社協)これを県又は市役所と医院の二つにして貰いたい。あとは横の連絡で処理して貰いたい。(男性・44歳)

<生涯学習・余暇活動等について>

- ・ スポーツ(障害者スポーツ)をおしえてくれるサークルやクラブを作って欲しい。(男性・20歳)

<親なき後の不安や要望について>

- ・ グループホームやケアホーム等作って下さい。親亡き後を考えると頭が痛いです。(女性・31歳)
- ・ 親が亡くなって一人になった時、どうしてもグループホームや施設のお世話になると思いますが、その時に安心して自分らしく楽しく生活できるような支援と、その環境の充実を図っていただきたい。(女性・22歳)
- ・ 知的障害者の親亡き後についての施策を検討して欲しい。(男性・31歳)
- ・ 親がいなくなった時、(自宅での一人暮らしは無理)安心して暮らしていけるような場所をお願いしたいです。(男性・20歳)

<その他>

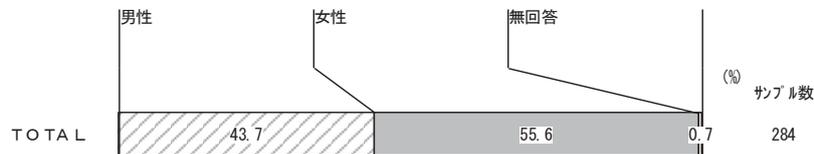
- ・ このアンケートの表紙を見た時点で、とても不愉快な思いを感じました。いまだに「障がい者」ではなく「障害者」と書かれていたこと。(男性・14歳)
- ・ このようなアンケートも親などにとっても、子供について見つめ直すいい機会になると思うので、どんどん実施して欲しいです。(男性・32歳)
- ・ 障害のある人にも高齢者にも子供にもみんなにやさしい市になるといいと思います。(女性・49歳)
- ・ いつもお世話になっています。障害を(どんな重い障害でも)抱える方が安心してらせる街づくりを切望します。(男性・22歳)
- ・ いま、ママにわたしのきょうだいがおなかの中にいてうまれてきたらじょうずにおねえちゃんできるかがしんぱいです。(女性・11歳)
- ・ 後見人との事がうまくゆかない。(男性・36歳)

(3) 精神障害者調査

1 回答者の基本的な属性等

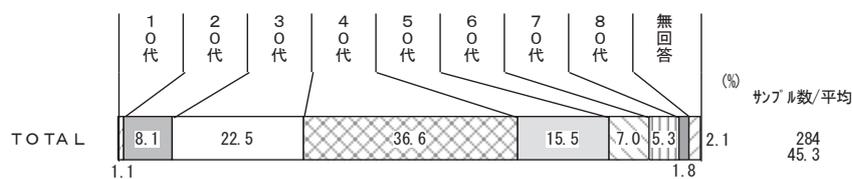
(1) 性別

回答者の性別は、男性が43.7%、女性が55.6%である。



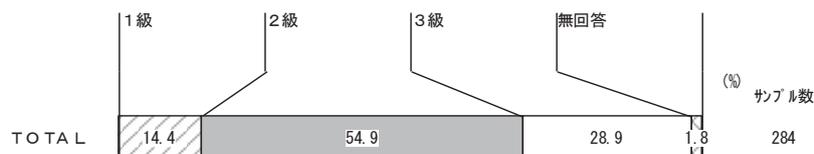
(2) 年齢

年齢は、30代が22.5%、40代が36.6%、50代が15.5%を占めており、平均年齢は45.3歳である。



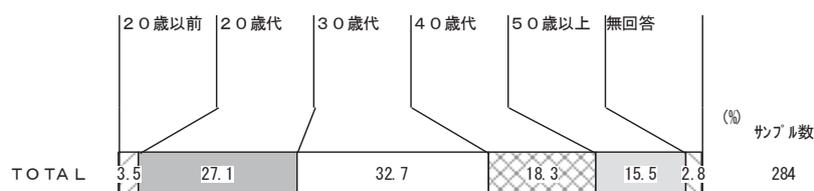
(3) 障害の程度

精神障害者保健福祉手帳に記載されている障害程度の内訳は、「1級」14.4%、「2級」54.9%、「3級」28.9%である。



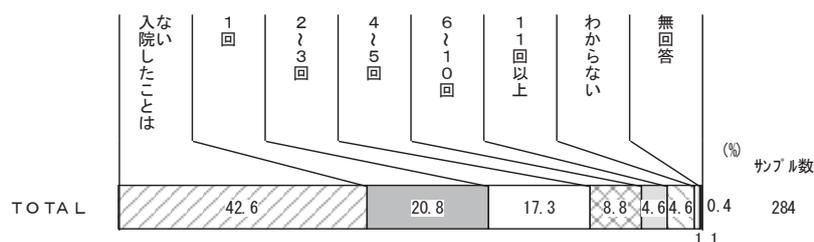
(4) 精神障害者保健福祉手帳を初めて所持した年齢

精神障害者保健福祉手帳を初めて所持した年齢は、「20歳代」が27.1%、「30歳代」が32.7%と、20～30歳代が約6割を占めている。



(5) 精神科・神経科の病院への入院経験

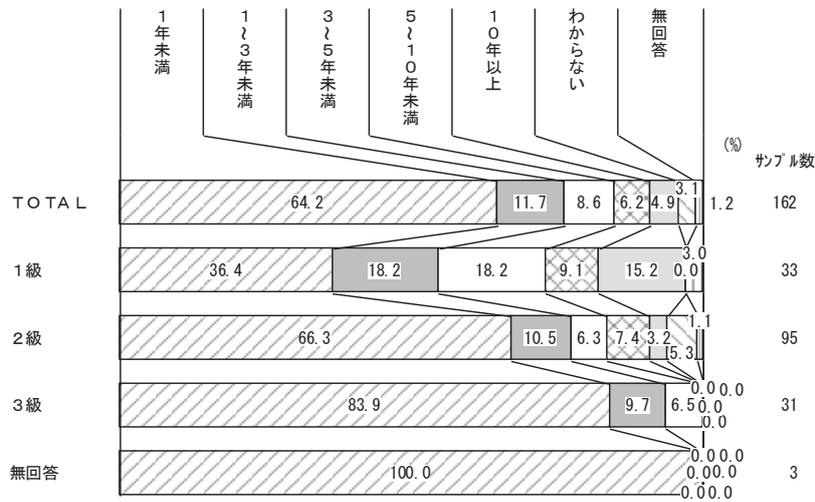
精神科または神経科の病院には、42.6%が「入院したことはない」と回答しているが、入院回数が「1回」の人が20.8%、「2～3回」の人が17.3%、「4～5回」の人が8.8%みられる。



(6) 入院期間

これまでに入院経験のある人に対して、合計の入院期間を尋ねたところ、「1年未満」が64.2%と最も多かったが、5年以上の人も約1割みられた。

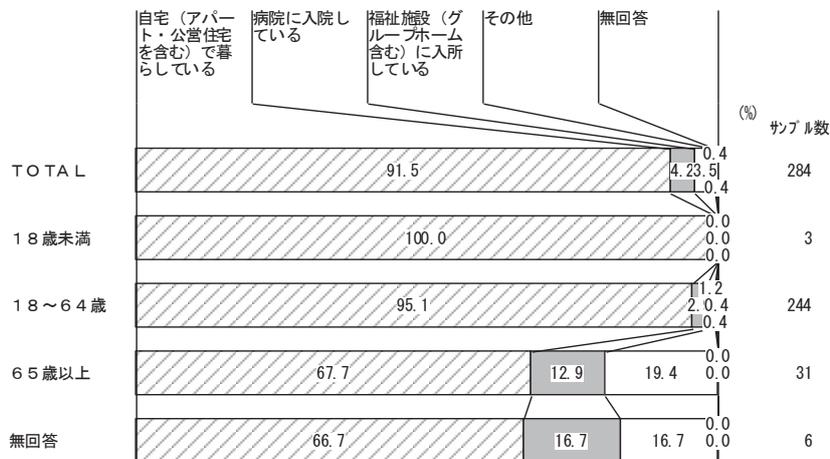
障害の程度別にみると、1級の人では、「5～10年未満」が9.1%、「10年以上」が15.2%と、4人に1人は合計5年以上の入院期間を経験している。



(7) 現在の生活場所

現在、「自宅(アパート・公営住宅を含む)で暮らしている」人が91.5%、「病院に入院している」人が4.2%、「福祉施設(グループホーム含む)に入所している」人が3.5%である。

年齢別にみると、65歳以上では、12.9%が「病院に入院している」、19.4%が「福祉施設(グループホーム含む)に入所している」状況である。



(8) 同居家族(複数回答)

一緒に暮らしている家族は、「母親」が51.8%と最も多く、次いで「父親」(41.2%)、「配偶者(夫・妻)」(27.5%)と続いている。なお、「ひとり暮らし」の人は9.2%である。

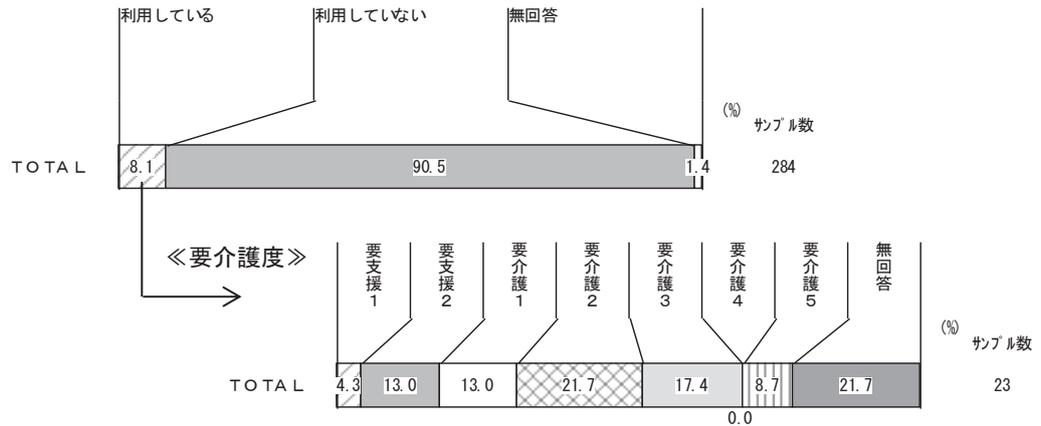
(%)

(n)	ひとり暮らし (%)	父親 (%)	母親 (%)	配偶者(夫・妻) (%)	子ども (%)	子どもの配偶者(婿・嫁) (%)	配偶者の親(しゅうとめ) (%)	兄弟・姉妹 (%)	祖父母 (%)	孫 (%)	その他 (%)	無回答 (%)	
TOTAL	284	9.2	41.2	51.8	27.5	17.3	0.7	0.7	20.1	3.5	0.7	2.5	0.7

(9) 介護保険によるサービスの利用状況

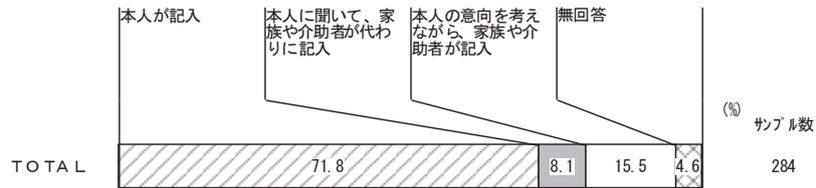
介護保険によるサービスを「利用している」人は、8.1%である。

利用者の要介護度の内訳をみると、「要介護2」が21.7%と最も多い。



(10) 調査票の記入者

本調査の調査票は、「本人が記入」が71.8%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が8.1%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が15.5%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が15.5%である。



2 日常生活における介助の状況

(1) 日常生活における介助の必要性

日常の生活の中の「部屋の整理・整頓」「衣服の洗濯」「日用品などの買い物」「食事のしたく」「服薬」「身体の清潔・保持」「通院や公共機関の利用」のうち、介助が必要な人(全部または一部)の割合が最も高いのは「食事のしたく」で、45.4%の人が何らかの介助を必要としている。

n=284						(%)
	一人できる	時間をかければ一人でできる	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答	→ 介助が必要(一部+全部)
部屋の整理・整頓	31.3	32.0	22.5	9.9	4.2	→ 32.4
衣類の洗濯	40.8	21.1	19.7	14.1	4.2	→ 33.8
日用品などの買い物	41.2	20.1	24.3	10.9	3.5	→ 35.2
食事のしたく	28.2	21.8	21.1	24.3	4.6	→ 45.4
服薬	68.0	11.3	10.9	6.0	3.9	→ 16.9
身体の清潔・保持	53.2	24.3	14.1	5.6	2.8	→ 19.7
通院や公共機関の利用	46.5	16.5	18.0	15.1	3.9	→ 33.1

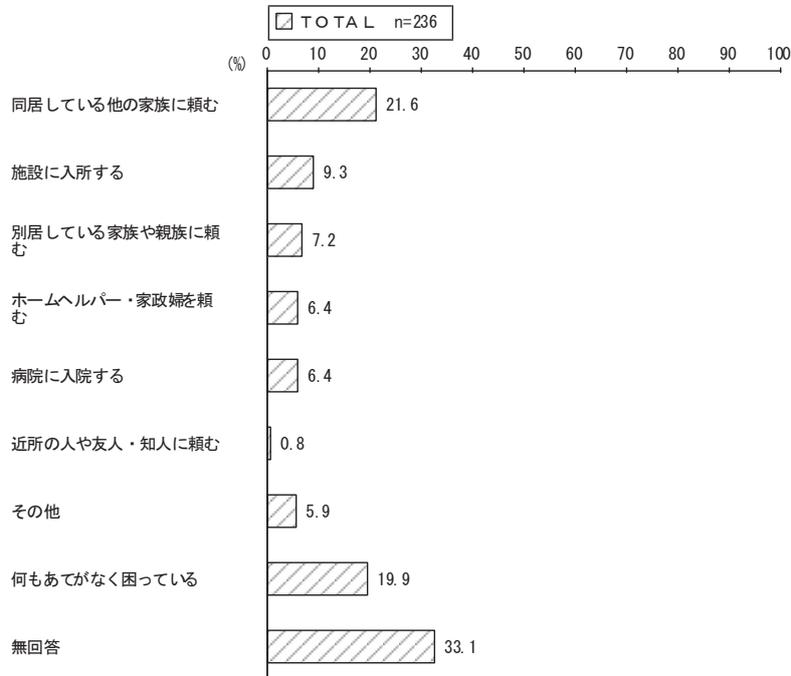
(2) 主な介助者

主な介助者は、「母親」が31.4%と最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」が16.5%で続いている。

n=236											(%)
	配偶者(夫・妻)	父親	母親	子ども	その他同居している家族	別居している家族や親族	友人・知人	ホームヘルパー・家政婦	病院や施設の職員	その他	無回答
	16.5	7.6	31.4	2.5	0.8	1.7	0.8	0.4	6.8	0.8	30.5

(3) 主な介助者が介助できない場合の対応(主なもの2つまで)

いつも介助している介助者が介助できなくなった場合には、「同居している他の家族に頼む」と回答した人が21.6%と最も多くなっているが、「何もあてがなく困っている」人が約2割(19.9%)みられる。



3 日中の過ごし方

(1) 日中の主な過ごし方

平日の日中の主な過ごし方としては、約6割が「自宅にすることが多い」(58.5%)と回答している。

年齢別にみると、18～64歳では、「自宅にすることが多い」が59.4%、「会社等で働いている」が18.0%、「就労系事業所に通っている」が10.2%となっている。

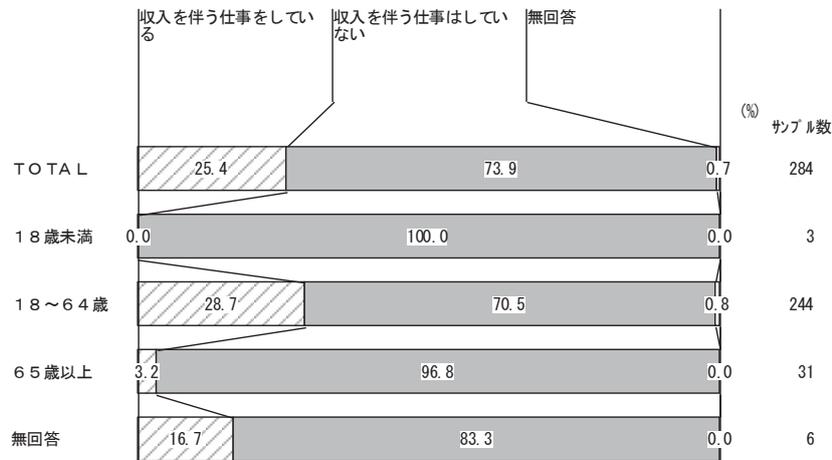
(%)

	(n)	学校に通っている	会社等で働いている	生活介護・療養介護に通っている	福祉作業所に通っている	就労系事業所に通っている	施設(グループホーム含む)にすることが多い	病院にすることが多い	自宅にすることが多い	その他	無回答
TOTAL	284	0.7	16.2	0.7	2.1	10.2	3.5	4.2	58.5	3.5	0.4
18歳未満	3	66.7	—	—	—	—	—	—	33.3	—	—
18～64歳	244	—	18.0	0.4	2.5	10.2	1.6	3.3	59.4	4.1	0.4
65歳以上	31	—	3.2	3.2	—	6.5	16.1	12.9	58.1	—	—
無回答	6	—	16.7	—	—	33.3	16.7	—	33.3	—	—

4 就労について

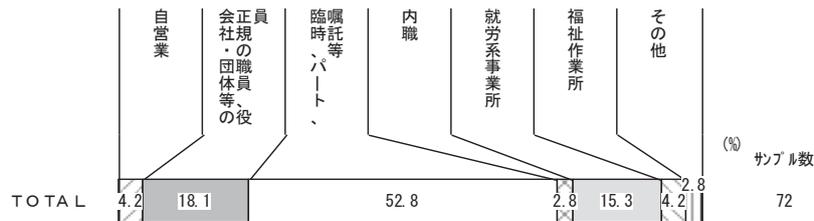
(1) 収入を伴う仕事の状況

18～64歳で、現在「収入を伴う仕事をしている」人は、28.7%である。



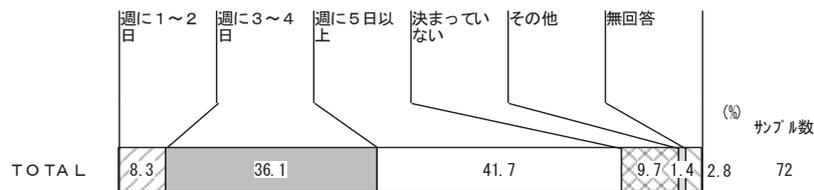
(2) 就労形態

就労の形態は、「臨時、パート、嘱託等」が52.8%と最も多く、次いで「会社・団体等の正規の職員、役員」(18.1%)、「就労系事業所」(15.3%)と続いている。



(3) 就労日数

就労日数は、「週に5日以上」が41.7%、「週に3～4日」が36.1%である。

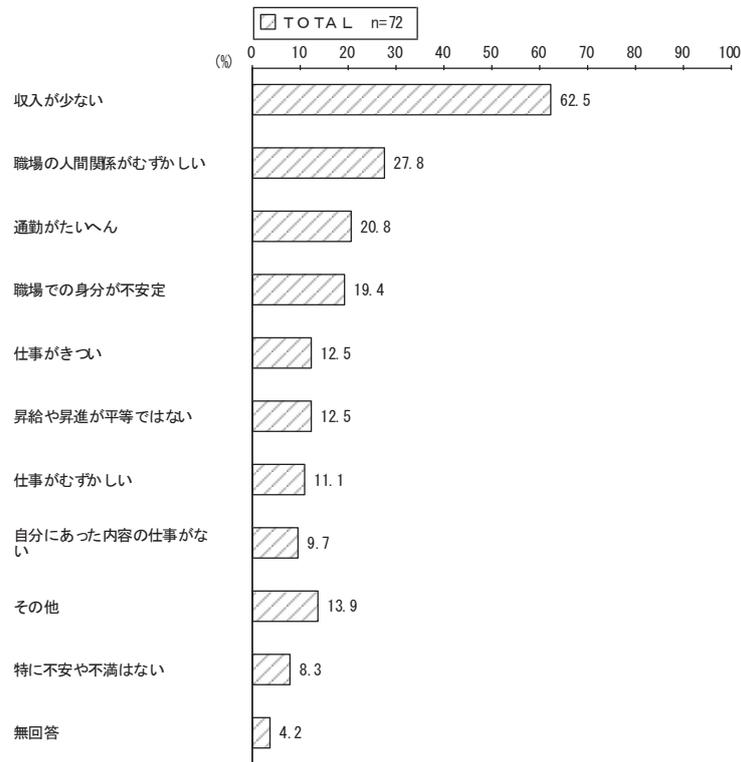


就労形態別にみると、臨時、パート、嘱託等では、「週に3～4日」が47.4%、「週に5日以上」が36.8%となっている。

	(n)	週に1～2日	週に3～4日	週に5日以上	決まっていない	その他	無回答
会社・団体等の正規の職員、役員	13	—	15.4	76.9	—	—	7.7
臨時、パート、嘱託等	38	7.9	47.4	36.8	2.6	2.6	2.6

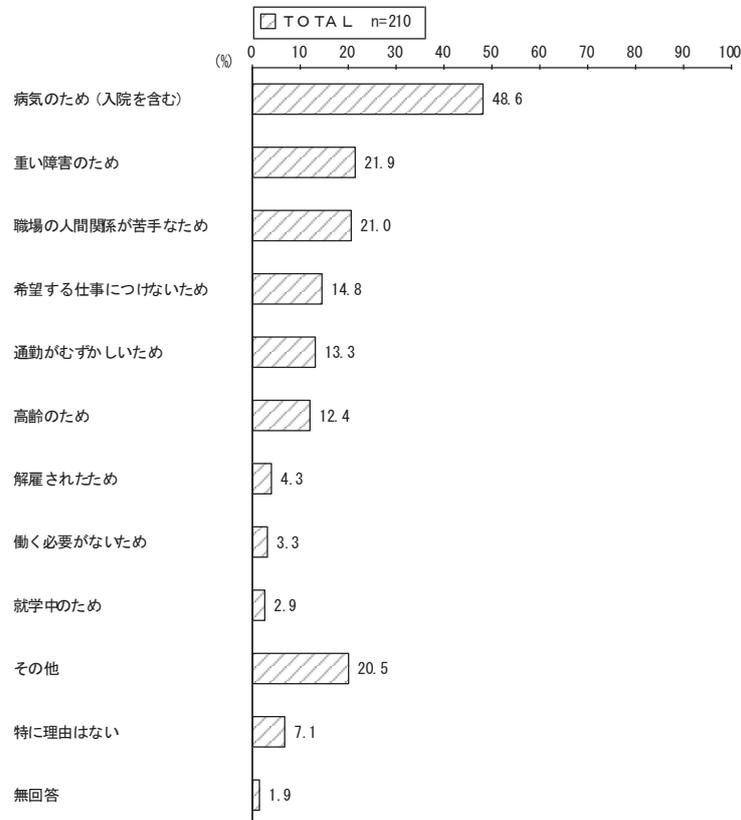
(4) 仕事をする上での不安や不満（複数回答）

仕事をする上での不安や不満としては、「収入が少ない」ことをあげる人が62.5%と最も多く、次いで「職場の人間関係がむずかしい」(27.8%)、「通勤がたいへん」(20.8%)と続いている。



(5) 働いていない理由（複数回答）

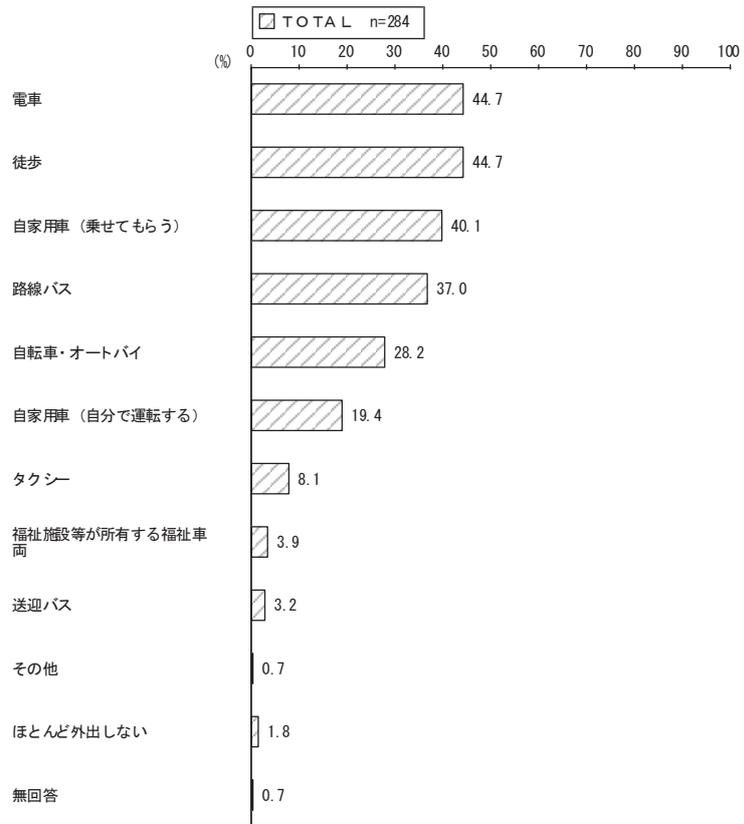
現在、働いていない理由は、「病気のため(入院を含む)」が48.6%と最も多くなっている。



5 外出・社会参加の状況

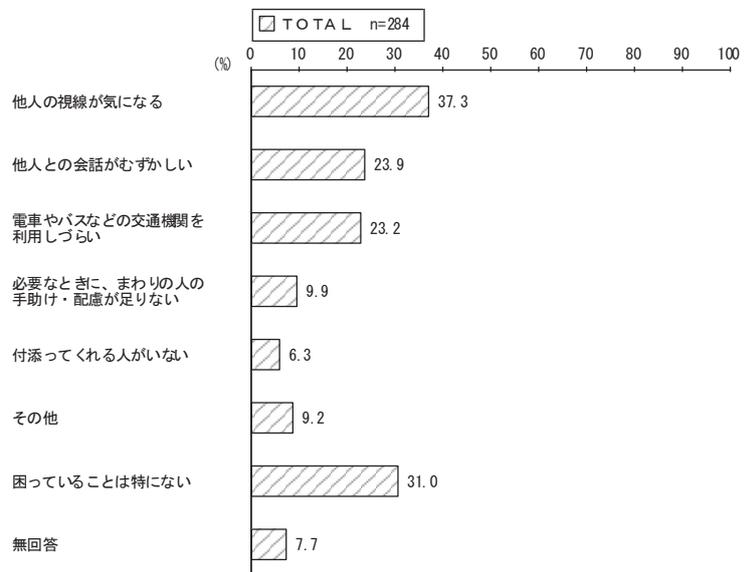
(1) 外出の際に利用する交通手段（複数回答）

外出の際によく利用する交通手段は、「電車」と「徒歩」がそれぞれ44.7%と最も多い。



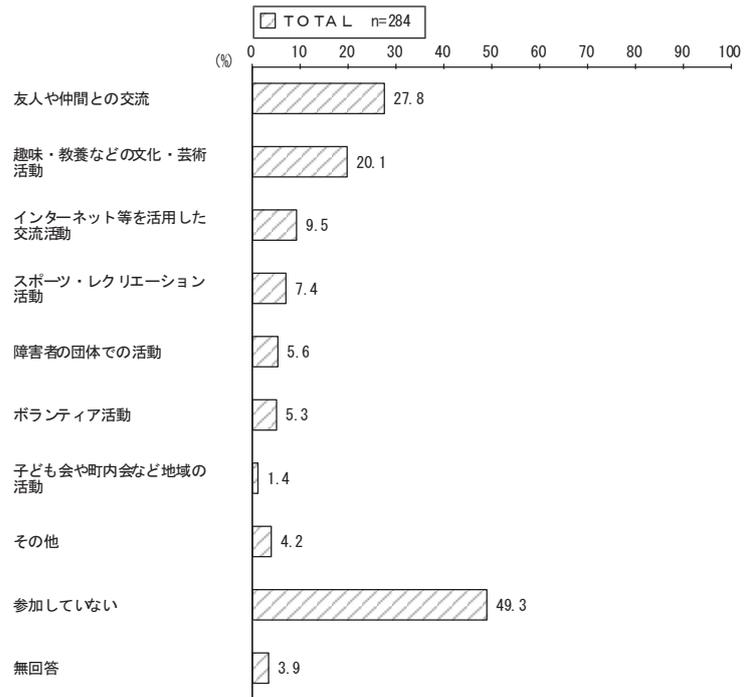
(2) 外出の際に困っていること（複数回答）

外出の際に困っていることとしては、「他人の視線が気になる」をあげる人が37.3%と最も多く、次いで「他人との会話がむずかしい」(23.9%)、「電車やバスなどの交通機関を利用しづらい」(23.2%)と続いている。

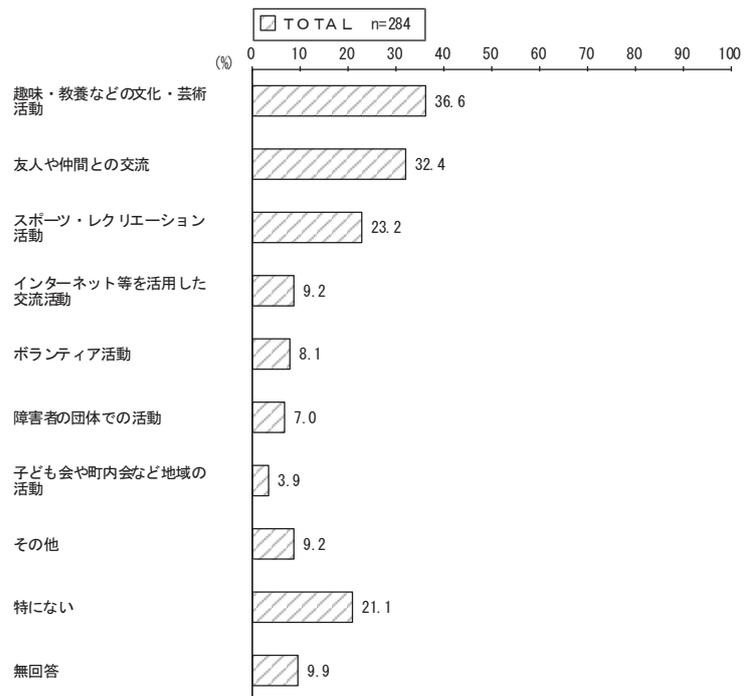


(3) 余暇活動等の状況（複数回答）

「友人や仲間との交流」をしている人は27.8%、「趣味・教養などの文化・芸術活動」をしている人が20.1%いるが、49.3%の人は特に活動に参加していない状況である。

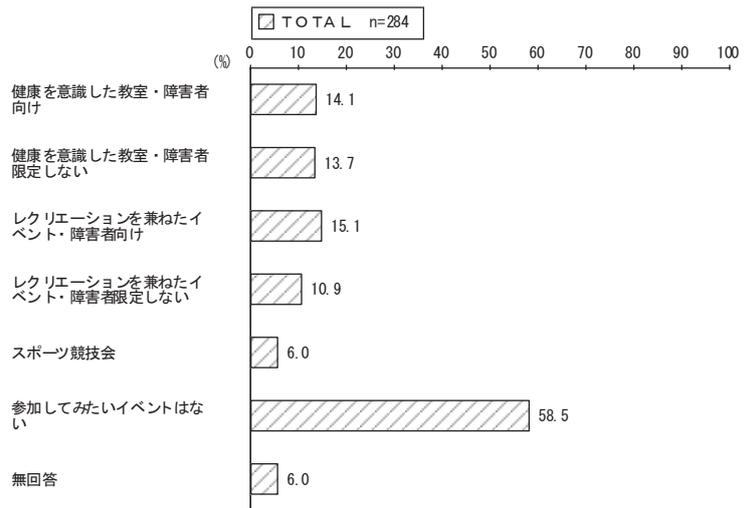
**(4) 今後の生活の中で充実させたいこと（複数回答）**

今後の生活の中でもっと充実させたいことや新たに始めたいこととしては、「趣味・教養などの文化・芸術活動」をあげる人が36.6%と最も多く、次いで「友人や仲間との交流」(32.4%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(23.2%)と続いている。



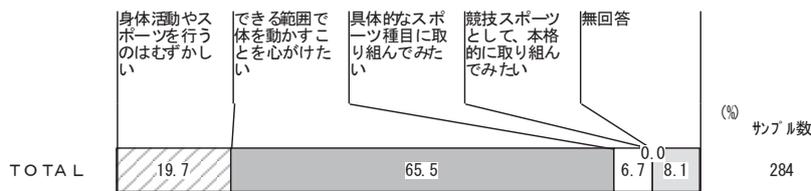
(5) スポーツ等の催しへの参加意向（複数回答）

今後、「歩こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント(障害者向け)」に参加してみたいと思う人は15.1%、「体操教室など健康を意識した教室(障害者向け)」に参加してみたいと思う人は14.1%である。



(6) 身体活動やスポーツに対する意識

今後の身体活動やスポーツについては、65.5%の人が「自分の健康づくりのために、できる範囲で体を動かすことを心がけたい」と考えており、「身体活動やスポーツを行うのはむずかしい」と考えている人は19.7%である。

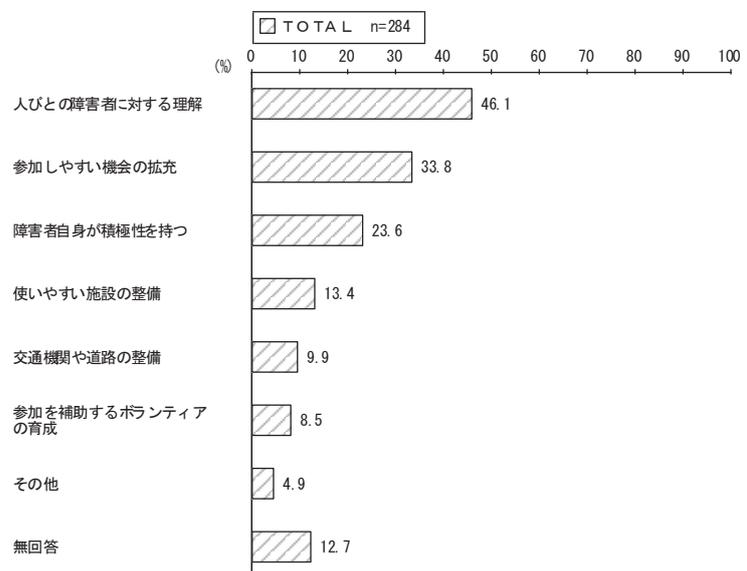


「具体的なスポーツ種目に取り組みたい」と回答した人に対して、具体的に取り組みたいスポーツの内容を尋ねたところ、「水泳」、「野球」、「ヨガ」等の記入があった。

記入件数	記入内容
4件	水泳
3件	野球、ヨガ
2件	乗馬、卓球、バスケットボール、バドミントン、フットサル、武道
1件	格闘技、球技、剣道、サッカー、ジョギング、ストレッチ、ソフトボール、バレーボール、ポーリング

(7) 地域や社会に参加するために必要なこと（〇は2つ以内）

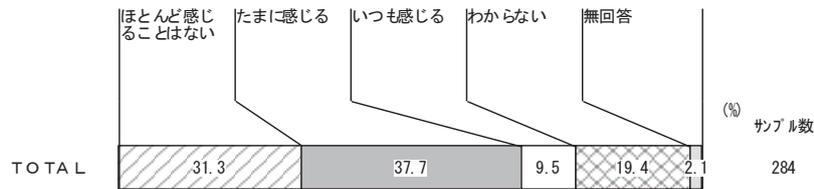
地域や社会に積極的に参加できるようにするために特に大切なこととしては、「人びとの障害者に対する理解」をあげる人が46.1%と最も多く、次いで「参加しやすい機会の拡充」(33.8%)、「障害者自身が積極性を持つ」(23.6%)と続いている。



6 差別や人権侵害の状況

(1) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じること

差別や人権侵害、虐待を受けていると「いつも感じる」人は9.5%、「たまに感じる」人は37.7%である。



(2) 差別や人権侵害、虐待の具体的な内容（自由回答）

差別や人権侵害等を感じる具体的な内容としては、次のような記入があった。

<理解不足>

- ・ 精神科に通っているという、「障害がある」のではなく「甘えている」ととられることがある。(女性・29歳)
- ・ 精神障害者が犯罪をしたとき、すべての精神障害者が犯罪者と思われる。(女性・38歳)
- ・ 日々体調が安定していないことについて、家族も含めて理解されない。(男性・40歳)
- ・ 警察に保護されたとき、犯人のように扱われた。(女性・39歳)

<周囲の人の言動>

- ・ 通りすがりの子どもに、「あー、変な人だ」と叫ばれた。(女性・41歳)
- ・ 緊張や不安で手が震えたり、うまく話せなくなるとジロジロ見られたり笑われたりする。(女性・33歳)
- ・ あいさつをしても知らないふりをされたりする。(男性・41歳)
- ・ お店などで、こちらの気持ちをうまく伝えられないことに対し、冷たい扱いを受けた。(女性・21歳)
- ・ 母親が「障害者」と決めつけて話すこと。(男性・43歳)

<雇用・就労>

- ・ 障害者向けの雇用では賃金が低くなる。(男性・48歳)
- ・ 単純な作業しか与えられず、仕事量も極端に少なかった。(男性・45歳)
- ・ 就職活動の際、精神障害があるとまず働かせてもらえないので、現在、障害があることを隠して仕事をしている。(女性・45歳)
- ・ 仕事の面接で「病院に通っている」というと不採用になる。(男性・48歳)
- ・ 朝、電車に乗れなくて遅れることを電話すると、やる気がないと言われるようになった。(男性・39歳)
- ・ 毎日、障害者枠の契約社員として働いているが、幼児のような扱いをされる。(女性・33歳)

<交通機関の利用>

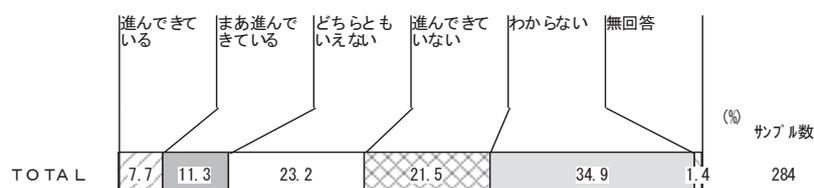
- ・ バスに乗るときに障害者手帳を出すとジロジロ見られている気がする。(男性・55歳)
- ・ バスやタクシーに乗ったときに障害者手帳を運転手に見せると嫌な顔をする。(女性・42歳)

<その他>

- ・ 地域の掃除や役員ができないとき。子どものPTAに参加できないとき。(女性・43歳)

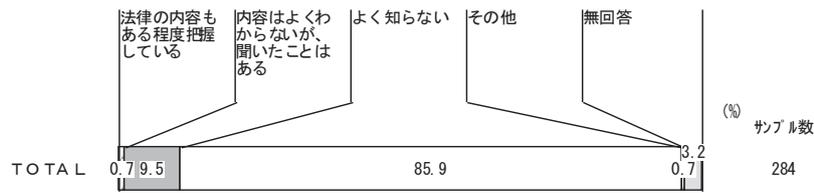
(3) 市民の理解

障害や障害のある人に対する市民の理解が「進んできている」と思う人は7.7%、「まあ進んできている」と思う人は11.3%である。



(4) 「障害者差別解消法」の認知状況

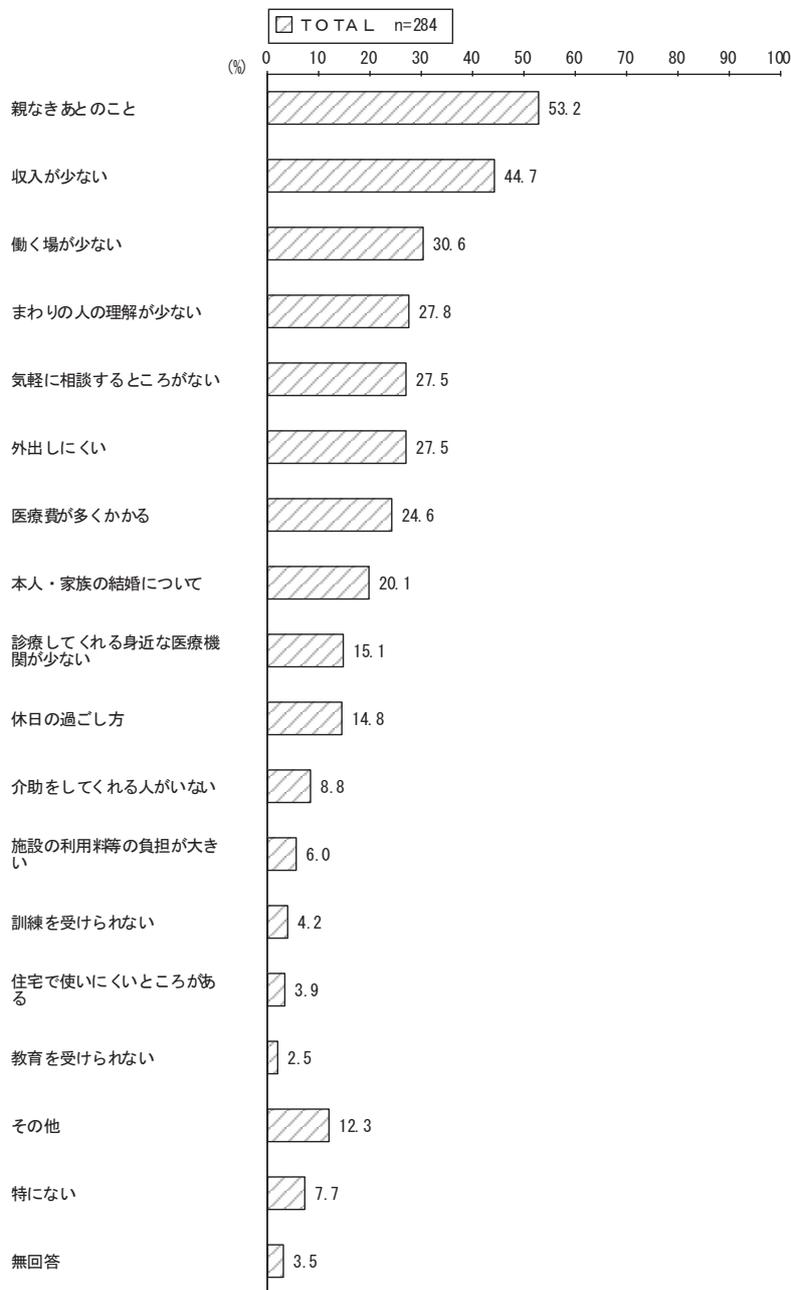
「障害者差別解消法」については、85.9%が「よく知らない」と回答している。



7 生活で困っていること

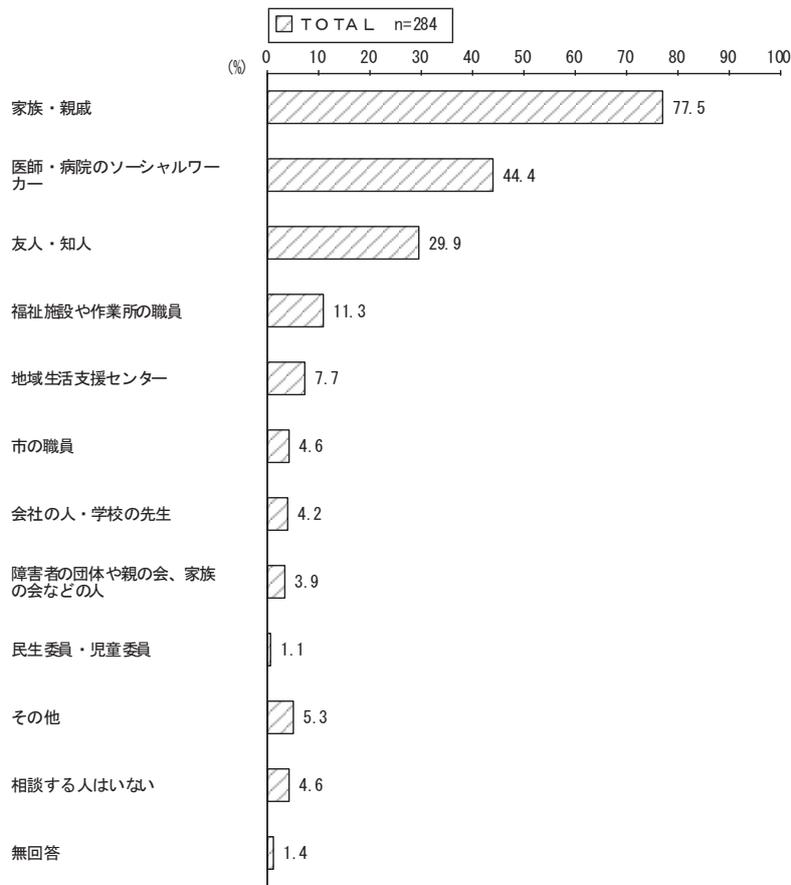
(1) 現在の生活で困っていること、不安を感じていること（複数回答）

現在の生活で困っていることや不安を感じていることとしては、「親なきあとのこと」をあげる人が53.2%と最も多く、次いで「収入が少ない」(44.7%)、「働く場が少ない」(30.6%)と続いている。



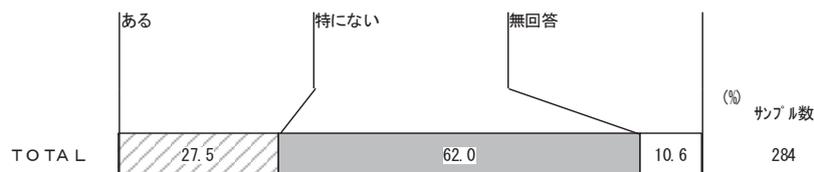
(2) 悩みや困ったことの相談先 (〇は3つ以内)

悩みや困ったことを相談するのは、「家族・親戚」が77.5%と最も多く、次いで「医師・病院のソーシャルワーカー」(44.4%)、「友人・知人」(29.9%)と続いている。



(3) 現在、相談したいことの有無

現在、障害に関することなどで相談したいことが「ある」人は、27.5%である。



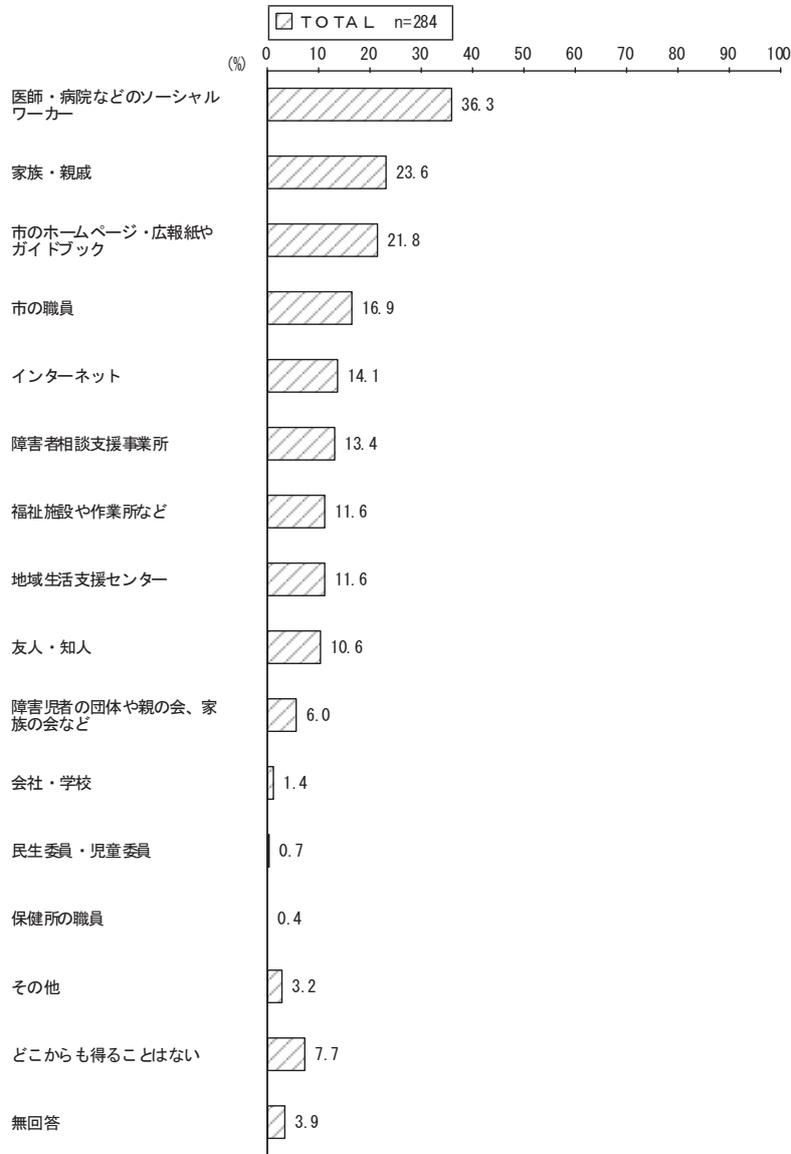
具体的に相談したい内容としては、次のような記入があった。

- ・ 少しでも状態をよくしたいので、セカンドオピニオンを求める場がほしい。(女性・53歳)
- ・ 親が年をとってきているので、いま介助してもらっていることをその後誰に頼むか。(女性・46歳)
- ・ いまは親が洗濯や食事の支度をしてくれるが、親がいなくなったら誰も助けてくれない。(女性・39歳)
- ・ 収入面での将来の不安。(男性・33歳)
- ・ 就労のために訓練を受けたいが、自分の状況に合わせて受けられる場所があるか。(女性・31歳)
- ・ 仕事を継続してやっていくにはどうしたらよいか。(男性・29歳)
- ・ 将来、どのように生活し、社会とかかわっていけるか。(男性・21歳)
- ・ 将来、結婚できるか。(男性・15歳)
- ・ 働いたときに、障害者年金をもらえるかどうか。(女性)
- ・ 掃除ができず部屋が汚れているがどうしたらよいか。(女性・34歳)
- ・ どのような福祉サービスを受けることができるのか。(女性・50歳)

8 福祉に関する情報入手について

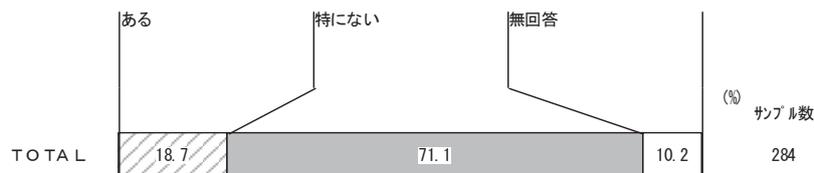
(1) 福祉に関する情報の入手先 (○は3つ以内)

福祉に関する情報は、「医師・病院などのソーシャルワーカー」から得る人が36.3%と最も多く、次いで「家族・親戚」(23.6%)、「市のホームページ・広報紙やガイドブック」(21.8%)と続いている。なお、「どこからも得ることはない」と回答した人が7.7%みられる。



(2) 情報を得られないで困ったことの有無

福祉サービスなど障害者のための情報が得られないで困ったことが「ある」人が約2割(18.7%)みられる。



情報が得られないで困ったことの内容としては、次のような記入があった。

- ・ 手帳を持っていると受けられるサービスを十分に説明されなかった。(女性・41歳)
- ・ 自立支援で医療費が戻ってくることを知らなかった。病院は子ども教えてくれなかった。(女性・59歳)
- ・ 入院時医療費の自己負担上限額のこと。知らずに家族に負担をかけてしまった。(女性・32歳)

- ・ 障害者年金の受給についての細かいことをどこも誰も教えてくれなかった。(女性・41歳)
- ・ 孤独なとき、障害者の集まる団体のことを知っていれば、病院や役所でも教えてほしい。(男性・61歳)
- ・ 自分で調べないとわからないものがある。もっと行政から発信してほしい。(男性・15歳)

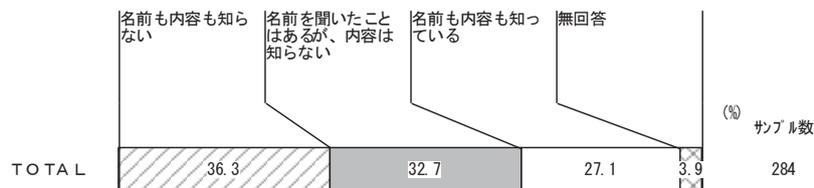
(3) 入手したいと思う情報 (自由回答)

現在または今後ほしいと思う情報としては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 福祉に関する情報。(女性・83歳)
- ・ 手帳で受けられる具体的なサービスの活用方法をパンフレット等を配布して教えてほしい。(女性・45歳)
- ・ 相談窓口の情報。(女性・41歳)
- ・ 親亡きあとの精神障害者の受け入れ先の確保について。(男性・37歳)
- ・ グループホーム等、将来心配なく暮らせる施設に関する情報。(女性・48歳)
- ・ 老後の障害者の生活スタイルに関する情報。(女性・48歳)
- ・ 自分と同じ病気の人の日常生活と、同じ年代の人の一日の過ごし方に関する情報。(女性・31歳)
- ・ 金銭的な援助に関する情報。(男性・39歳)
- ・ 助成金や医療に関するサービスの情報。(女性・29歳)
- ・ 地域にいる信頼できる医師の情報。(女性・53歳)
- ・ どのような年金があるか、お金の賢い使い方。(男性・36歳)
- ・ 障害者が安心して働ける場についての情報。(女性・33歳)
- ・ 障害者の就労に関する情報(ハローワークに行かずにインターネットで情報を得たい)。(男性・32歳)
- ・ 障害があっても通えるスポーツや武道に関する団体の情報。(男性・33歳)
- ・ 障害者向けの手芸やビーズづくりなど、趣味の場に関する情報。(女性・43歳)
- ・ 無料で行われている趣味や教育の活動に関する情報。(女性・20歳)
- ・ パソコンを学ぶ機会。(女性・53歳)
- ・ 支援学級等教育に関すること。(男性・12歳)
- ・ 世間や政治の新しい政策や試みがはじまったら、早めに知りたい。(男性・37歳)
- ・ 「障害者差別解消法」や「成年後見制度」といった法制度の説明会を開催してほしい。(男性・55歳)

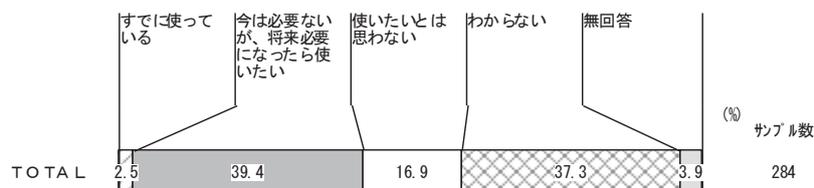
(4) 成年後見制度の認知状況

成年後見制度について、「名前も内容も知っている」人は27.1%であり、36.3%は「名前も内容も知らない」と回答している。



(5) 成年後見制度の利用意向

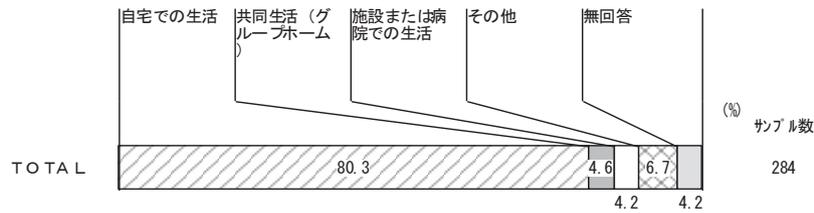
約4割の人が「今は必要ないが、将来必要になったら(成年後見制度)を使いたい」(39.4%)と回答している。



9 今後、希望する暮らし方

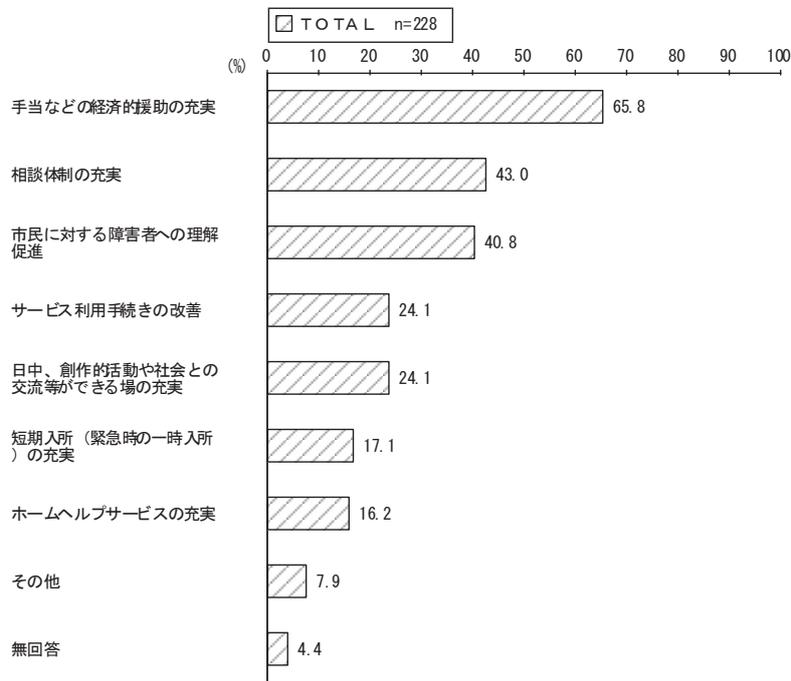
(1) 希望する生活形態

今後の生活形態については、約8割が「自宅での生活」(80.3%)を希望している。



(2) 自宅での生活を続けるために必要な条件 (複数回答)

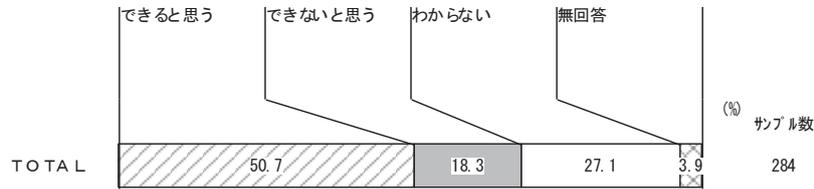
自宅での生活を希望する人に対して、自宅での生活を続けるために必要とする条件を尋ねたところ、「手当などの経済的援助の充実」をあげる人が65.8%と最も多く、次いで「相談体制の充実」(43.0%)、「市民に対する障害者への理解促進」(40.8%)と続いている。



10 災害時の対応

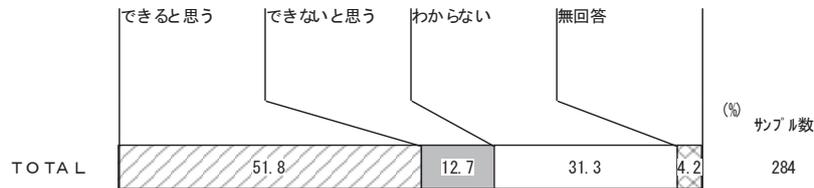
(1) 一人避難の能否

火事や地震等の災害時に、約半数は一人で避難「できると思う」(50.7%)と回答しているが、18.3%は「できないと思う」としている。



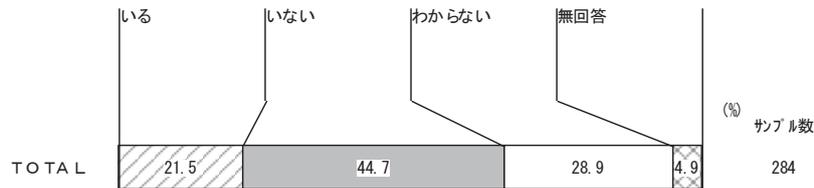
(2) 周囲へ状況を知らせる事の能否

火事等の非常時に、周囲の人に知らせることが「できると思う」人は51.8%で、12.7%は「できないと思う」と回答している。



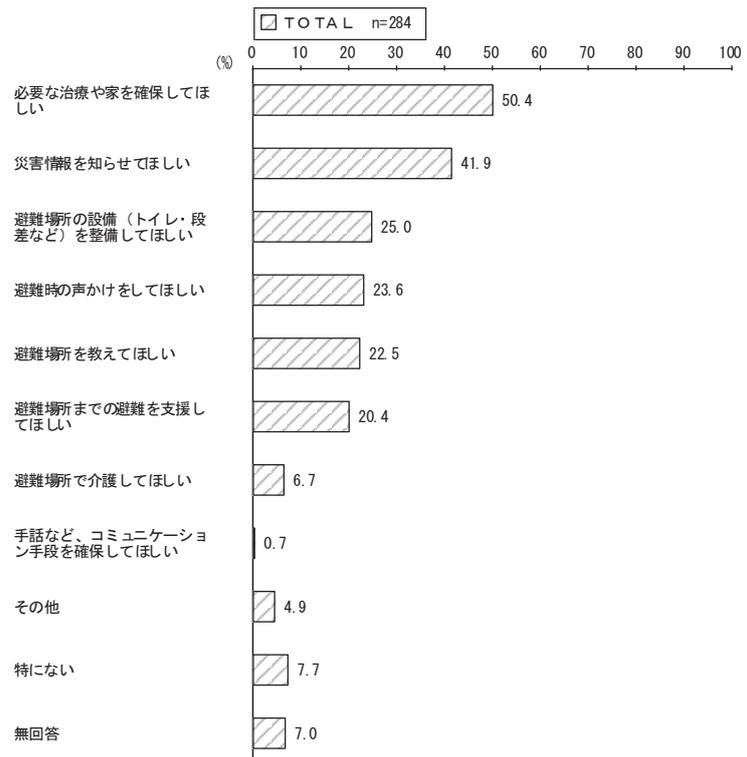
(3) 近所に助けてくれる人の有無

家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人が「いる」と回答した人は21.5%である。



(4) 災害発生時に支援してほしいこと (〇は3つ以内)

災害発生時に支援してほしいこととしては、「必要な治療や家を確保してほしい」が50.4%と最も多く、次いで「災害情報を知らせしてほしい」(41.9%)、「避難場所の設備(トイレ・段差など)を整備してほしい」(25.0%)と続いている。



(5) 災害時に困ること、不安なこと（自由回答）

災害時に困ると思われること、不安なことについては、具体的に次のような記入があった。

記入内容としては、「ふだんから服用している薬・医療の確保」や「環境変化によりパニックを起こしてしまうこと」などに関する不安が多くみられた。また、避難所での生活について、「周囲に多くの人がいる環境」や「周囲の人とのコミュニケーション」に関する不安を多くの人があげている。

<避難時について>

- ・ 一人で屋外に出るのが怖いので、夫が会社から戻らないと避難できないと思う。(女性・53歳)
- ・ 警察などの放送がよく聞き取れない。(女性・28歳)
- ・ そのときに動けるかわからないこと。(女性・43歳)
- ・ 家族と離れた場所にいた場合、適切に行動できるかどうか不安。(女性・21歳)
- ・ ふだんのコミュニケーションに筆記具・紙を用いているので、瞬時に意思疎通できない。(女性・24歳)
- ・ 一人で外出した場所で災害が起きた場合、どう対処してよいかわからない。(女性・33歳)
- ・ てんかんなので発作が起きていないか。(女性・49歳)
- ・ パニックになること。(男性・31歳)
- ・ 貴重品などを持っていけるか心配。(男性)
- ・ 足が悪いので避難が難しい。(女性・80歳)

<避難後について>

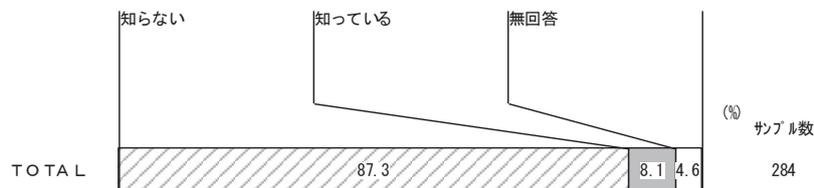
- ・ 薬がなくなったらどうしようと思う。(男性・39歳)
- ・ 毎日、服用している薬が飲めなくなったときは困る。(女性・39歳)
- ・ 病院に行けなくなって薬がもらえないことが心配。(男性・37歳)
- ・ 通院できなくなる可能性があること。(男性・40歳)
- ・ 主治医や家族との接点が途切れてしまうこと。(男性・39歳)
- ・ 家族がバラバラになったときの連絡手段。(男性・32歳)
- ・ 非常食の確保ができていないこと。(男性・48歳)
- ・ 家が壊れてしまうのではないかと不安。(女性・77歳)
- ・ お金がなくなること。(男性・49歳)
- ・ 一から生活空間を作らなければならないことに不安を感じる。(男性・43歳)

<避難所の暮らしについて>

- ・ 大勢の人がいる避難所などにいなければならなくなった場合の精神的な負担。(女性・45歳)
- ・ 多数の人が集まる避難所での生活が困難(音に敏感、こだわりが強い等)。(女性・31歳)
- ・ 避難所では周囲の人とコミュニケーションができないと思うので不安。(男性・21歳)
- ・ 環境の変化に弱いので、パニックを起こさないかと不安。(女性・33歳)
- ・ 人が多いところに行けない。苦しくなる。(男性・32歳)

(6) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知状況

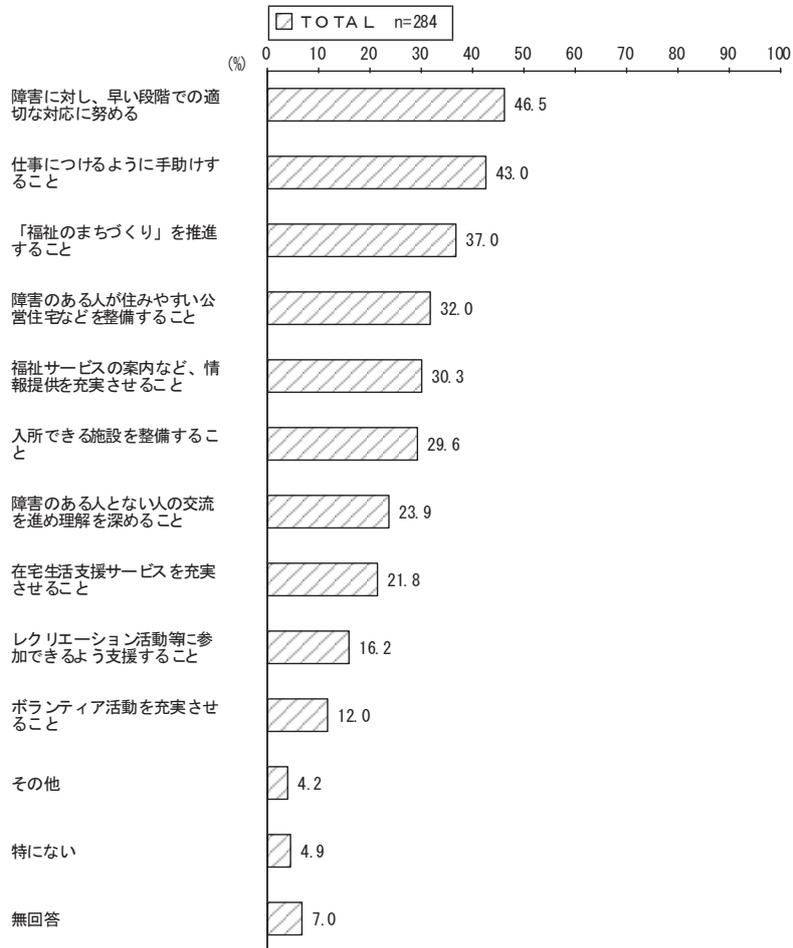
市の「避難行動要支援者避難支援制度」については、87.3%の人が「知らない」状況である。



11 障害者施策を進める上で充実を図ること

(1) 障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこと（複数回答）

今後、障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこととしては、「早期発見・早期治療を考えて、早い段階での適切な対応に努めること」をあげる人が46.5%と最も多く、次いで「仕事につけるように手助けすること」(43.0%)、「福祉のまちづくりを推進すること」(37.0%)と続いている。



(2) 意見・要望（自由回答）

調査票の最後に、意見や要望の自由記入欄を設けたところ、98件の記入があった。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を掲載するよう心がけた。

<相談・情報について>

- ・ 心理カウンセラーを紹介して下さい。(女性・59歳)
- ・ 障害者が活動できる(参加できる)団体行動(活動)の情報を市政だよりや市のホームページへ載せて欲しい。(男性・33歳)
- ・ 具体的にどういったサービスが受けられるとか、相談窓口を特別に設けてほしい。(女性・45歳)
- ・ 広報等でしか知ることができないが、家から出ることが難しいこともあるので、個別にお知らせをいただけるとありがたい。(女性)
- ・ 市に出向むかないと情報がまったくわからない。(女性・80歳)
- ・ 四街道市では、どのような制度や障害者に対して、サービス等があるのか全く、わからないので、教えてもらいたい。(女性・45歳)
- ・ 一目では、健康ですが不安な事が多いです。ささいな事を気軽に相談できる場所が欲しい。(女性・30歳)
- ・ いろいろ相談したいと思っても、個人情報を守られるか、とても心配です。総合的に相談できる窓口もほしいです。(女性・53歳)

<広報・啓発、理解・交流について>

- ・ 精神障害者どうしの交流がある場合は、手紙でこんなのありますよ、と送ってくれたらうれしいです。同じような病気ならお互いわかりあえる様な気がします。(女性・70歳)
- ・ 障害者に対する理解を更に一般に深められる活動(広報を含む)を実施して、全国一充実した市であると言われる様に頑張って下さい。(男性・55歳)
- ・ 障害者に対する偏見や、周りの対応をもっと市全体が理解してほしい。(男性・35歳)
- ・ 若者達の間では、少し落ち込むことを「うつ」という表現をするので、「お前うつじゃん」という軽い言葉をきくと、ドキッとしてしまう。中学生くらいから、そういう本人にはどうすることもできない精神病についても理解を深めて欲しい。(女性・53歳)

<各種福祉サービスについて>

- ・ 精神障害者の利用出来るサービスが他の障害者に対して少な過ぎる。身体、知的障害者と同等にサービスを受けられるようにしてもらいたい。(男性・48歳)
- ・ 障害者が利用できる快適な地域活動センターを市の方で設立して欲しい。(男性・33歳)
- ・ 多職種のチームによるアウトリーチ(訪問支援)を早くやって欲しい。(男性・38歳)
- ・ お買い物の時、スーパーやショッピングセンターの中だけで結構なので、簡単なお手伝いをしてくださる方がいらっしやると大変助かります。(女性・30歳)
- ・ 親(介護者)に急用ができ、どうしても自宅を不在にしなければならない時に、本人(障害者当事者)を預ける先(短期入所)が、あまり無い。(男性・15歳)
- ・ 四街道市は精神障害者の利用出来る施設が少なく、もっと自分をオープンに出来て、元気になる様な場所があれば積極的に参加したいと思います。(女性・33歳)
- ・ 短期入所(認知症)する所が少なく介護者が病気になった時どうしたら良いかと不安です。又、短期入所するにあたり色々な検査を受ける必要がありそれを自費でしなければならないのが家計に負担になります。補助があればと思います。(男性・71歳)

<市役所の対応や手続きについて>

- ・ 障害者支援課のスタッフの方々がいつも丁寧に接して下さり、助かっています。(男性・39歳)
- ・ 病状の重い時、制度利用のための市役所手続きが理解できず困ったことがありました。書面での手続きや、家族の代行ができましたら、助かります。(女性・32歳)
- ・ 自立支援制度、障害者手帳、障害者年金などの更新の手続きに行くのがとても大変なので、もう少し期間を長くするなどしてほしい。(女性・56歳)

<雇用・就労について>

- ・ 作業所に行けないので家でできる仕事がほしい(内職でも良い)。(男性・29歳)
- ・ 現在、市役所ロビーや食堂で作業所の授産製品を売らせてもらっていますが、ほとんど市の職員の方を買って頂いている状態なので、市のホームページなどネットを通じて授産製品PRをする機会を作るなど、外に向けて四街道市の授産製品を広めていく様にできたらと思います。(女性・36歳)
- ・ 障害者が働ける場の紹介などにも配慮して欲しいと思う。(男性・40歳)
- ・ 就労について支援して下さい。(女性・47歳)
- ・ 障害者施設に見学に行ったことがありますが、そこで働く気にはなれませんでした。できれば普通のアルバイトがしたいです。(女性・39歳)
- ・ もっと働ける場所を作ってほしい。内職や自宅で出来る仕事があればもっと働きたい。(女性・43歳)

<施設・住宅について>

- ・ 親なきあとの本人の行く末が心配。精神障害者向けの特養の様な施設を作ってほしい。(男性・29歳)
- ・ 正直老後の事が不安です。年金でも今までと同じ様な生活が出来る施設を期待したいです。(女性・48歳)

<経済的な不安や要望について>

- ・ 運転免許(教習所代)を支援して下さい。(男性・29歳)
- ・ バスの定期券の障害者割引制度を導入して欲しい。(男性・45歳)

<医療環境の整備等について>

- ・ 市内に入院できる精神科専門病院がほしい。(男性・29歳)

<生涯学習活動・余暇活動等について>

- ・ 音楽(バンド)の練習ができる、スタジオを作ってほしいです。(女性・45歳)
- ・ 障害者が気楽に外出して、何か、やりがいを見つけられる様な、そのようにしむける、手助けとなる施策を講じて頂けたらと思います。(男性・61歳)
- ・ 障害者枠での勤務でさんざん嫌な想いをしたことをばねにして、活かして、何か活動がしたいと思う。(女性・33歳)
- ・ もっとコミュニティ活動、レクリエーションやスポーツ大会などを充実させてほしい。インターネット、スマホの活用講座などをしてほしい。(男性・43歳)

<その他>

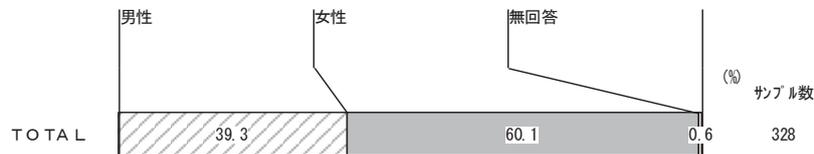
- ・ このようなアンケートを1回で終わることなく「生の声」をどんどん聞いてほしい。(男性・29歳)
- ・ ぐったりしてしまったときにゆっくり座れる場所が欲しい。(女性・33歳)
- ・ 障害者ということにだけ、ライトを照らすのではなく、全ての人々に暮らしやすい市になっていただけることを切に願います。(男性・29歳)
- ・ 四街道市は福祉資源が比較的多く、イベントも色々行っていますが、市民への伝達力に弱さを感じています。何かもったいないです。(男性・30歳)

(4) 難病療養者調査

1 回答者の基本的な属性等

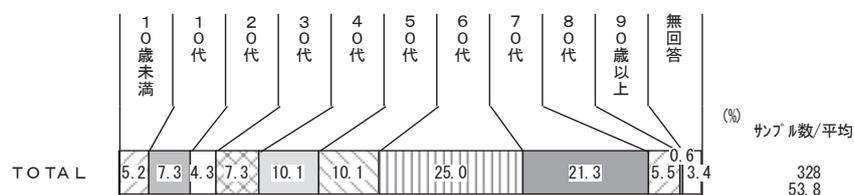
(1) 性別

回答者の性別は、男性が39.3%、女性が60.1%である。



(2) 年齢

年齢は、40代が10.1%、50代が10.1%、60代が25.0%、70代が21.3%を占めており、平均年齢は53.8歳である。



(3) 疾病名

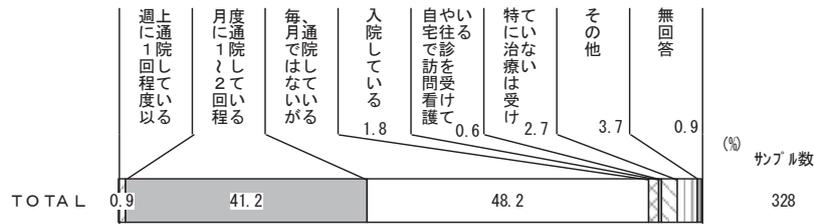
具体的な疾病名の記入をお願いしたところ、251名から264の疾病名の記入があった(11名は複数の疾病名を記入)。内訳は次のとおりである。

件数	疾病名
49件	潰瘍性大腸炎
24件	全身性エリテマトーデス
20件	パーキンソン病
16件	後縦靭帯骨化症
11件	特発性血小板減少性紫斑病
10件	1型糖尿病(2型糖尿病、小児型糖尿病含む)
9件	重症筋無力症
8件	サルコイドーシス、クローン病
7件	ベーチェット病
6件	膠原病
5件	特発性拡張型心筋症、多発性硬化症
4件	強皮症、急性リンパ性白血病
3件	脊髄小脳変性症、再生不良性貧血、高安動脈炎、原発性胆汁性肝硬変、顕微鏡的多発血管炎、下垂体前葉機能低下症、網膜色素変性症

件数	疾病名
2件	皮膚筋炎多発性筋炎、筋萎縮症、悪性リウマチ、もやもや病、ハンチントン病、シェーグレン症、慢性血栓性肺高血圧症、混合性結合組織病、脳梗塞、脊柱管狭窄症(腰部脊柱管狭窄症含む)
1件	軟骨無形成症、天疱瘡、単心室症、大脳皮質基底核変性病、先天性代謝異常、進行性筋ジストロフィーベッカー型、バットキャリ症候群、MDS(不応性貧血(骨髓異形成症候群))、深部静脈血栓症、川崎病、頸椎後縦靭帯骨化症変性性膝関節症腰痛症、慢性呼吸器疾患、封入体筋炎、肺動脈弁狭窄症、脳下垂体機能低下症、内分泌疾患、中枢性尿崩症、大動脈弓離断症、大腿骨骨頭壊死、多発性筋炎、前駆T細胞芽急性リンパ腫、先天性甲状腺機能低下症、腎血管性高血圧、進行性核上性マヒ、心房細動、心室中隔欠損症、上行大動脈瘤、小児急性リンパ性白血病、若年性特発性関節炎、高血圧、股関節、筋炎、急性すい炎、下垂体性成長ホルモン分泌亢進症、メントル、ぜんそく、21トリソミー

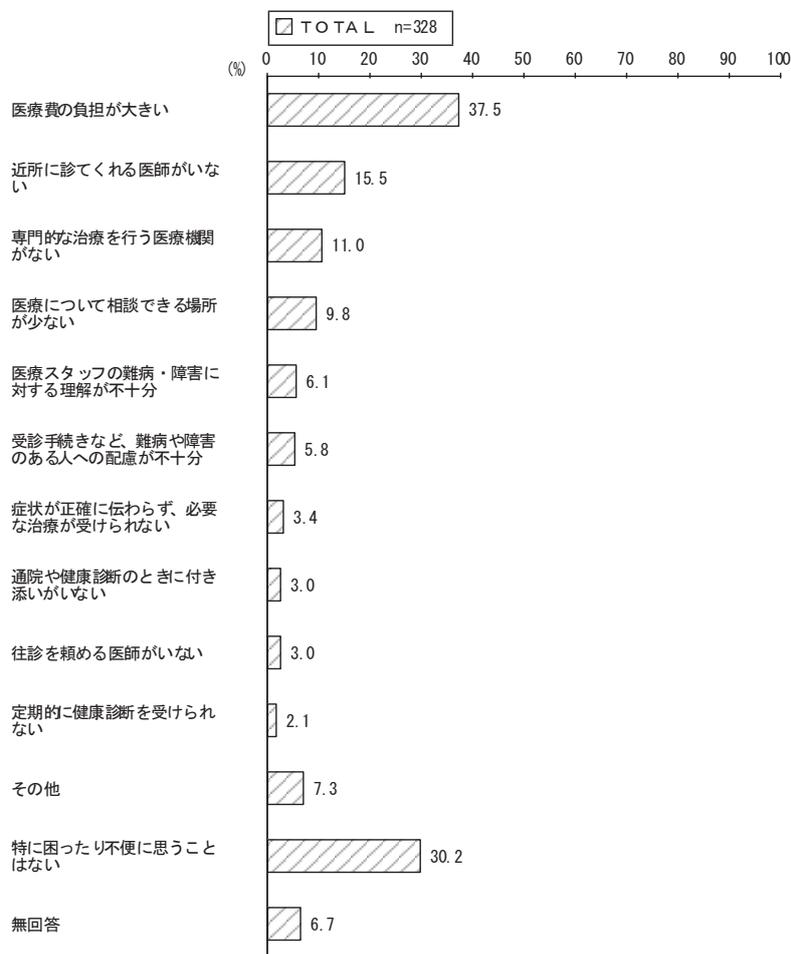
(4) 治療の有無

医師の治療については、「毎月ではないが、通院している」人が48.2%、「月に1～2回程度通院している」人が41.2%である。



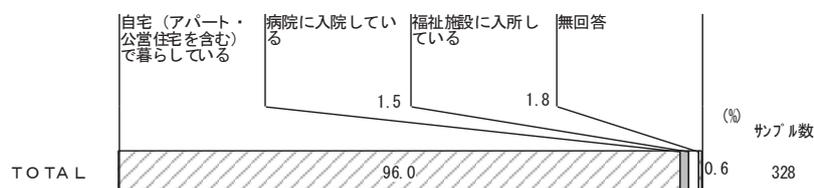
(5) 健康管理や医療について困ったり不便に思うこと（複数回答）

健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、「医療費の負担が大きい」ことをあげる人が37.5%と最も多く、次いで「近所に診てくれる医師がいない」(15.5%)、「専門的な治療を行う医療機関がない」(11.0%)と続いている。



(6) 現在の生活場所

現在、「自宅(アパート・公営住宅を含む)で暮らしている」人が96.0%、「福祉施設に入所している」人が1.8%、「病院に入院している」人が1.5%である。



(7) 同居家族（複数回答）

一緒に暮らしている家族は、「配偶者(夫・妻)」が64.0%と最も多く、次いで「子ども」(36.0%)、「母親」(21.6%)と続いている。なお、「ひとり暮らし」の人は7.0%である。

年齢別にみると、65歳以上では、約1割が「ひとり暮らし」(10.6%)である。

(%)

(n)	ひとり暮らし	父親	母親	配偶者(夫・妻)	子ども	子どもの配偶者(婿・嫁)	配偶者の親(しゅうと・しゅうとめ)	兄弟・姉妹	祖父母	孫	その他	無回答	
TOTAL	328	7.0	17.4	21.6	64.0	36.0	3.7	1.2	12.2	2.1	4.6	0.3	1.5
18歳未満	38	—	86.8	97.4	—	—	—	—	76.3	7.9	—	—	2.6
18~64歳	138	5.8	15.9	21.0	69.6	45.7	1.4	2.2	7.2	2.9	2.2	0.7	0.7
65歳以上	141	10.6	—	1.4	75.2	35.5	7.1	0.7	—	—	8.5	—	1.4
無回答	11	—	18.2	27.3	72.7	45.5	—	—	9.1	—	—	—	9.1

(8) 調査票の記入者

本調査の調査票は、「本人が記入」が75.9%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が9.5%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が12.2%、「無回答」が2.4%である。



I
調査の概要

II
調査結果

(1) 身体障害者調査

II
調査結果

(2) 知的障害者調査

II
調査結果

(3) 精神障害者調査

II
調査結果

(4) 難病療養者調査

III
資料
調査票

2 日常生活における介助の状況

(1) 日常生活における介助の必要性

日常生活の中の「食事をする」「トイレ」「入浴」「衣服の着脱」「家の中の移動」「家事(調理、掃除、洗濯)」「外出」のうち、介助が必要な人(全部または一部)の割合が最も高いのは「外出」で、12.6%の人が何らかの介助を必要としている。

n=328						(%)
	一人で行ける	時間をかければ一人で行ける	一部介助が必要	全部介助が必要	無回答	介助が必要(一部+全部)
食事をする	89.3	2.1	0.9	2.7	4.9	→ 3.6
トイレ	87.2	2.7	1.8	3.4	4.9	→ 5.2
入浴	81.7	4.6	2.7	5.2	5.8	→ 7.9
衣服の着脱	84.8	4.6	2.4	3.4	4.9	→ 5.8
家の中の移動	86.3	3.4	1.8	3.0	5.5	→ 4.8
家事(調理、掃除、洗濯)	75.3	6.1	3.0	7.9	7.6	→ 10.9
外出	75.3	6.4	5.2	7.3	5.8	→ 12.6

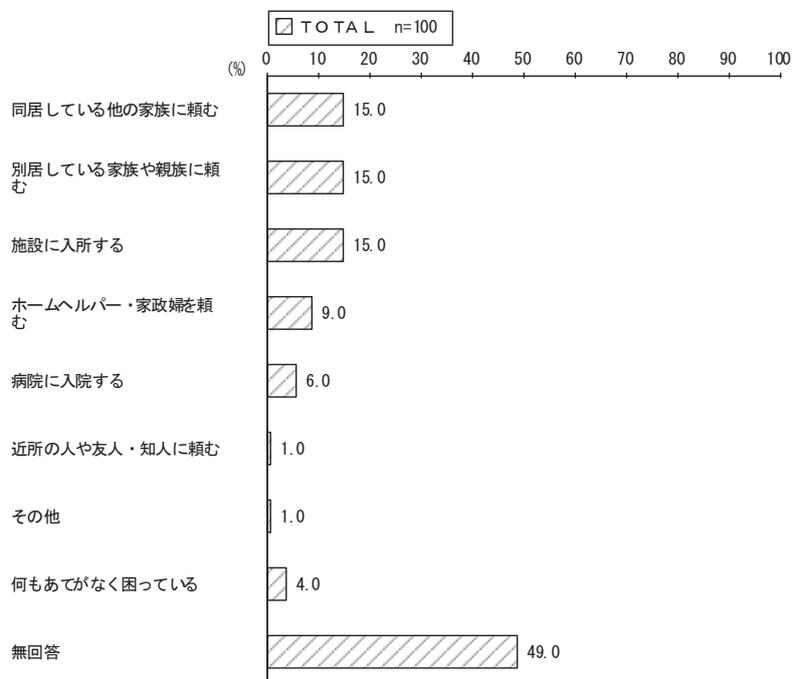
(2) 主な介助者

主な介助者は、「配偶者(夫・妻)」が32.0%と最も多く、次いで「子ども」(10.0%)、「施設や病院の職員」(7.0%)と続いている。

n=100								(%)
	配偶者(夫・妻)	父親	母親	子ども	その他同居している家族	ホームヘルパー・家政婦	施設や病院の職員	無回答
	32.0	1.0	3.0	10.0	1.0	2.0	7.0	44.0

(3) 主な介助者が介助できない場合の対応(主なもの2つまで)

いつも介助している介助者が介助できなくなった場合には、「同居している他の家族に頼む」、「別居している家族や親族に頼む」、「施設に入所する」と回答した人が、それぞれ15.0%となっている。



3 日中の過ごし方

(1) 日中の主な過ごし方

平日の日中の主な過ごし方としては、「自宅にすることが多い」と回答した人が47.3%と最も多く、次いで「働いている」人が28.7%で続いている。

年齢別にみると、18～64歳では、56.5%が「働いている」が、65歳以上では約7割が「自宅にすることが多い」(71.6%)と回答している。

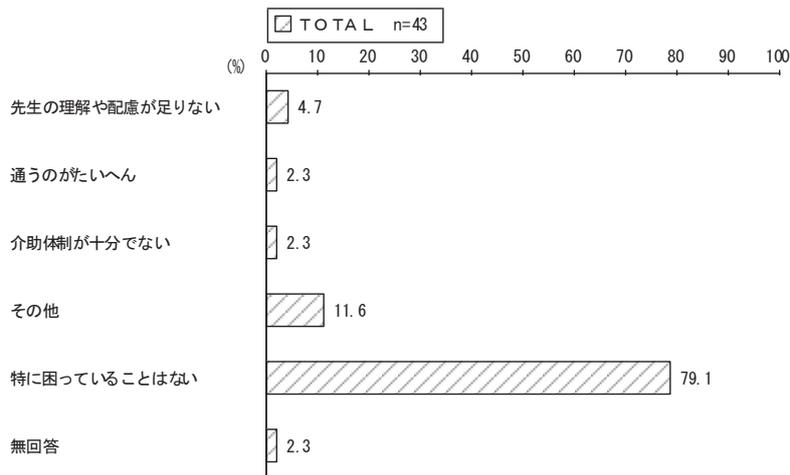
(%)

(n)	幼稚園・保育園・学校に通っている	働いている	入院して療養している	自宅にすることが多い	その他	無回答
TOTAL 328	13.1	28.7	1.8	47.3	5.5	3.7
18歳未満 38	92.1	—	—	7.9	—	—
18～64歳 138	5.8	56.5	1.4	34.8	1.4	—
65歳以上 141	—	6.4	2.1	71.6	11.3	8.5
無回答 11	—	63.6	9.1	27.3	—	—

4 通園・通学の状況

(1) 通園・通学して困っていること（複数回答）

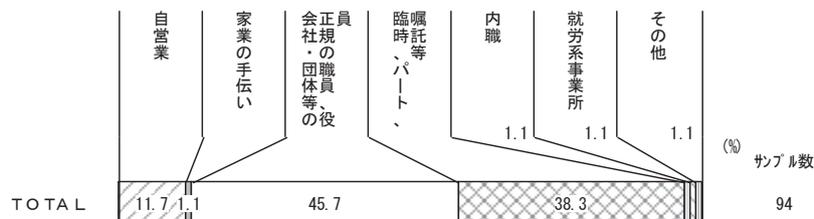
通園・通学して困っていることは、約8割が「特にない」(79.1%)と回答している。



5 就労について

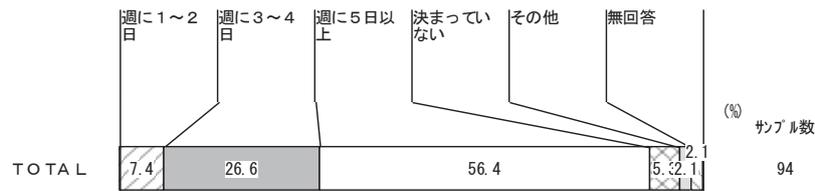
(1) 就労形態

就労の形態は、「会社・団体等の正規の職員、役員」が45.7%と最も多く、次いで「臨時、パート、嘱託等」が38.3%で続いている。



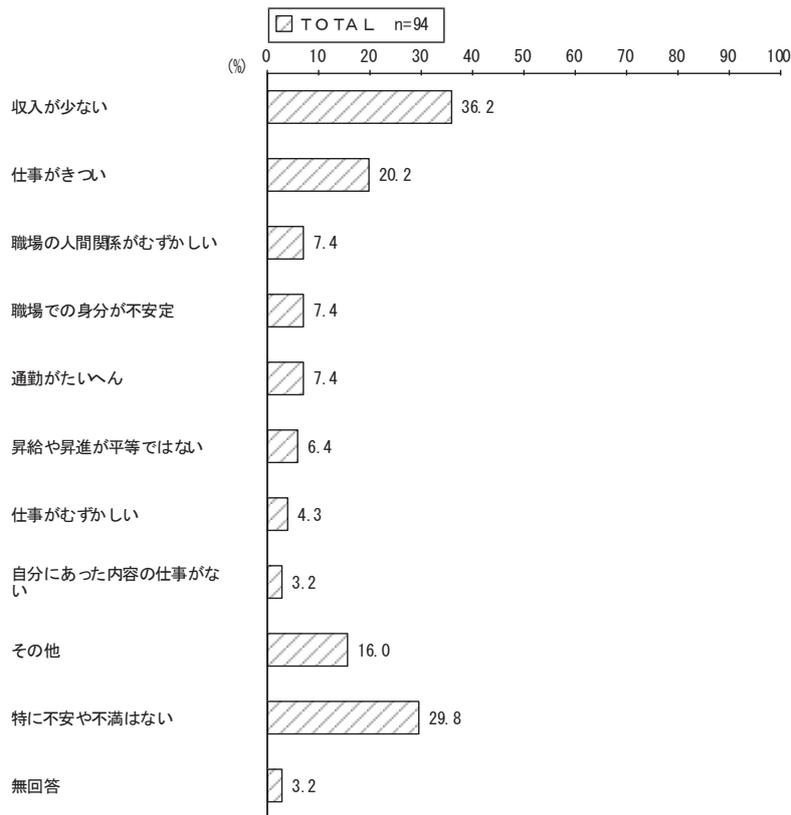
(2) 就労日数

就労日数は、「週に5日以上」が56.4%、「週に3～4日」が26.6%である。



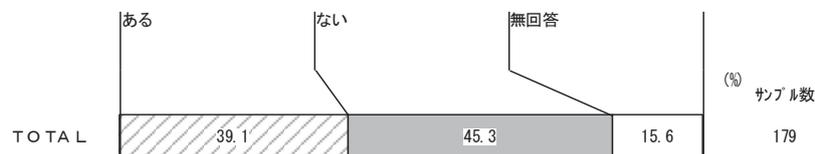
(3) 仕事をする上での不安や不満（複数回答）

仕事をする上での不安や不満としては、「収入が少ない」ことをあげる人が36.2%と最も多く、次いで「仕事がかたい」が20.2%で続いている。



(4) 働くことが無理だといわれた経験

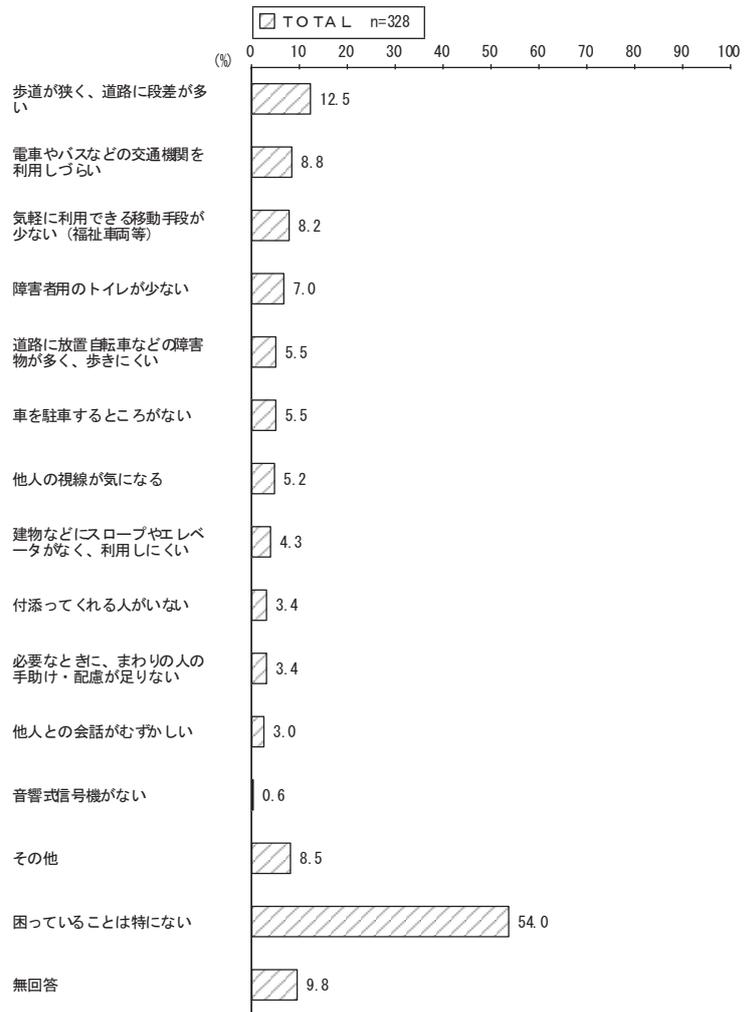
約4割の人は、家族や医師から働くのは無理だといわれたことが「ある」(39.1%)。



6 外出・社会参加の状況

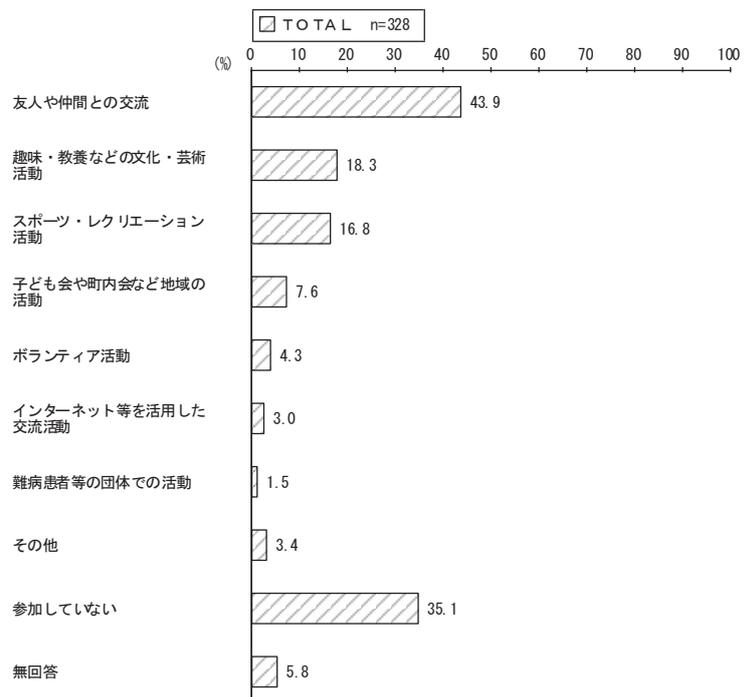
(1) 外出の際に困っていること（複数回答）

外出の際に困っていることとしては、54.0%の人が「困っていることは特にない」と回答しているが、あげられた項目としては、「歩道が狭く、道路に段差が多い」が12.5%と最も多い。



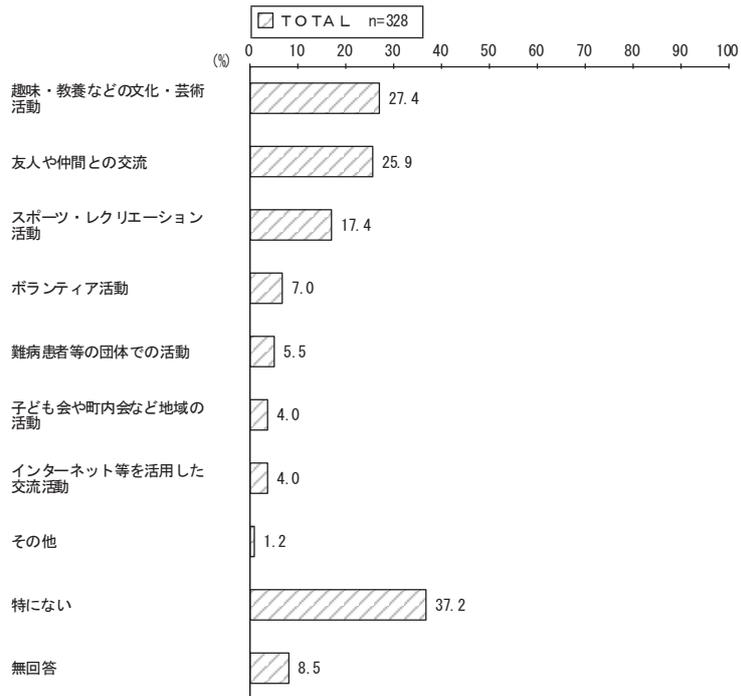
(2) 余暇活動等の状況（複数回答）

「友人や仲間との交流」をしている人は43.9%、「趣味・教養などの文化・芸術活動」をしている人が18.3%いるが、35.1%の人は特に活動に参加していない状況である。



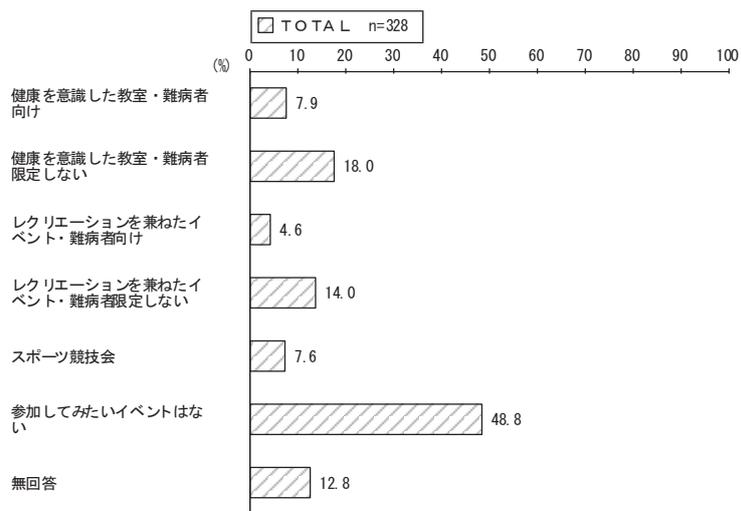
(3) 今後の生活の中で充実させたいこと（複数回答）

今後の生活の中でもっと充実させたいことや新たに始めたいこととしては、「趣味・教養などの文化・芸術活動」をあげる人が27.4%と最も多く、次いで「友人や仲間との交流」(25.9%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(17.4%)と続いている。



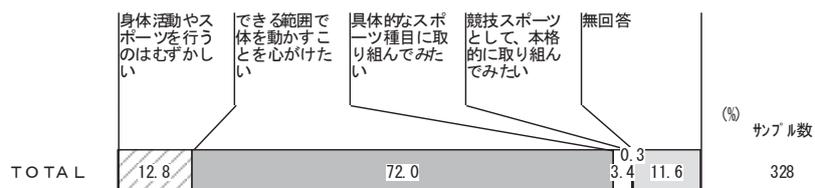
(4) スポーツ等の催しへの参加意向（複数回答）

今後、「体操教室など健康を意識した教室(難病療養者、障害者に限定しない)」に参加してみたいと思う人は18.0%、「「歩こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント(難病療養者、障害者に限定しない)」に参加してみたいと思う人は14.0%である。



(5) 身体活動やスポーツに対する意識

今後の身体活動やスポーツについては、72.0%の人が「自分の健康づくりのために、できる範囲で体を動かすことを心がけたい」と考えており、「身体活動やスポーツを行うのはむずかしい」と考えている人は12.8%である。

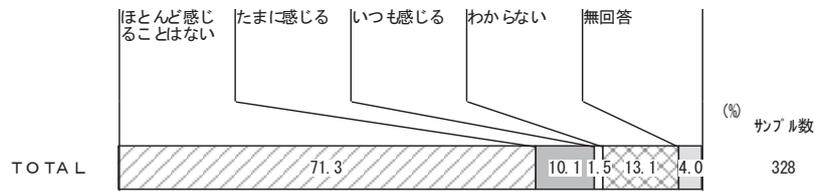


「具体的なスポーツ種目に取り組んでみたい」、「競技スポーツとして、本格的に取り組んでみたい」と回答した人に対して、具体的にに取り組んでみたいスポーツの内容を尋ねたところ、ゴルフ・マラソン・自転車・テニス(それぞれ2件)、グランドゴルフ・柔道指導者・ジョギング・サイクリング・チアダンス・バレーボール・フットサル・卓球(それぞれ1件)の記入があった。

7 差別や人権侵害の状況

(1) 差別や人権侵害、虐待を受けていると感じること

難病があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると「いつも感じる」人は1.5%、「たまに感じる」人は10.1%で、約7割は「ほとんど感じることはない」(71.3%)と回答している。



(2) 差別や人権侵害、虐待の具体的な内容 (自由回答)

差別や人権侵害等を感じる具体的な内容としては、次のような記入があった。

<理解不足>

- ・ 外見上、難病と見えないため、障害者用駐車スペースに駐車をして怒られることが多い。(男性・26歳)
- ・ 障害者用トイレを使用したときににらまれたり、嫌味を言われたことがある。(男性・26歳)
- ・ 疲れやすいことを理解してもらえない。(女性・40歳)
- ・ 見た目には病気とわからないので、自分もしんどくても電車などで席をゆずらないといけない場合がある。(女性・41歳)
- ・ 人と知り合うとき、難病があると伝えるか迷う。(女性・31歳)
- ・ 身体が痛かったり、吐き気(薬の影響)が辛いとき「そんな風に見えない」と言われる。(女性・50歳)

<周囲の人の言動>

- ・ 慢性疾患の申請手続きで、窓口の担当者に必要のないことまでいろいろ聞かれた。(男性・14歳)
- ・ 見た目や態度が普通と違うとき、無視されたり、邪魔扱いされたりする。(女性・65歳)
- ・ 身体に特徴があるため、ジロジロ見られる。(女性・6歳)
- ・ 介護職員に、子どもに言うような話し方をされた。(女性・61歳)
- ・ 周囲に「年寄りでもないのになんで杖をついているんだ」と言われる。(女性・61歳)

<雇用・就労>

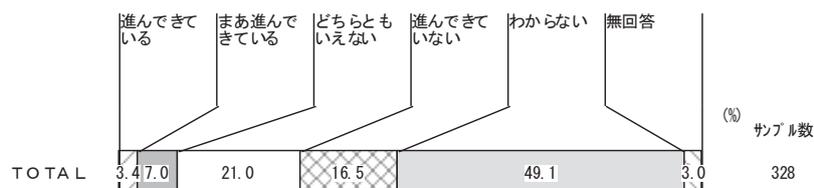
- ・ 以前勤めていたとき(小学校教員)、発病後、退職したほうがよい旨言われた。(女性・62歳)
- ・ 就職試験が通らないとき。(女性・21歳)
- ・ 体調不良で休むと、「やっぱり難病じゃ無理だ」と言われた。(女性・44歳)
- ・ 会社で働いていたころ、月1回の定期診察をよく思われていなかった。(男性・53歳)

<その他>

- ・ 症状が5年以上固定しているのに生命保険に入れない。(男性・35歳)

(3) 市民の理解

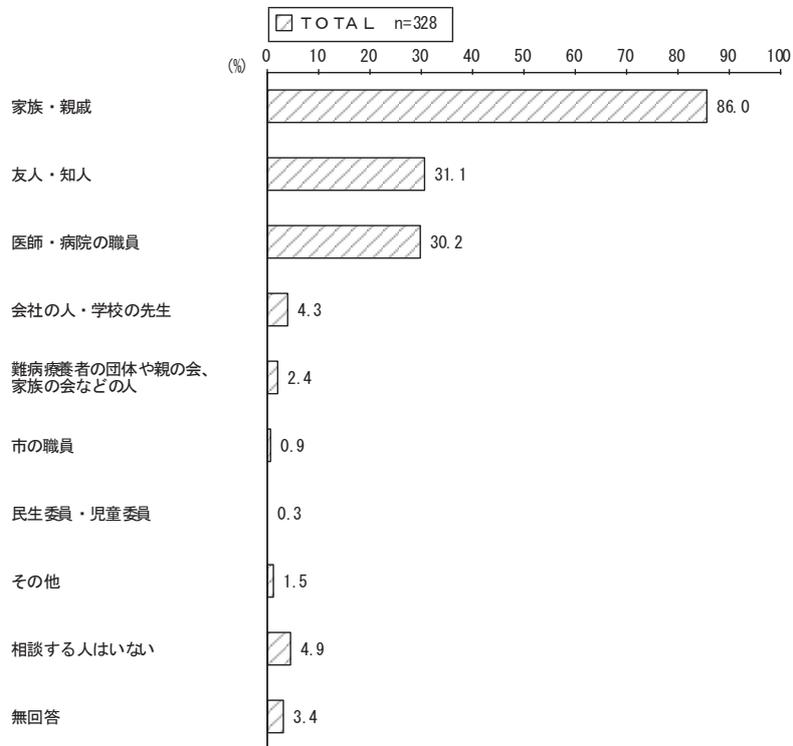
難病や難病のある人に対する市民の理解が「進んできている」と思う人は3.4%、「まあ進んできている」と思う人は7.0%である。



8 生活で困っていること

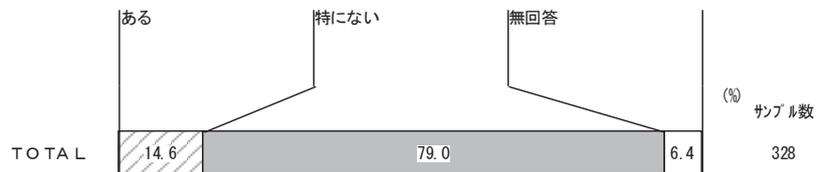
(1) 悩みや困ったことの相談先 (〇は3つ以内)

悩みや困ったことを相談するのは、「家族・親戚」が86.0%と最も多く、次いで「友人・知人」(31.1%)、「医師・病院の職員」(30.2%)と続いている。



(2) 現在、相談したいことの有無

現在、障害に関することなどで相談したいことが「ある」人は、14.6%である。



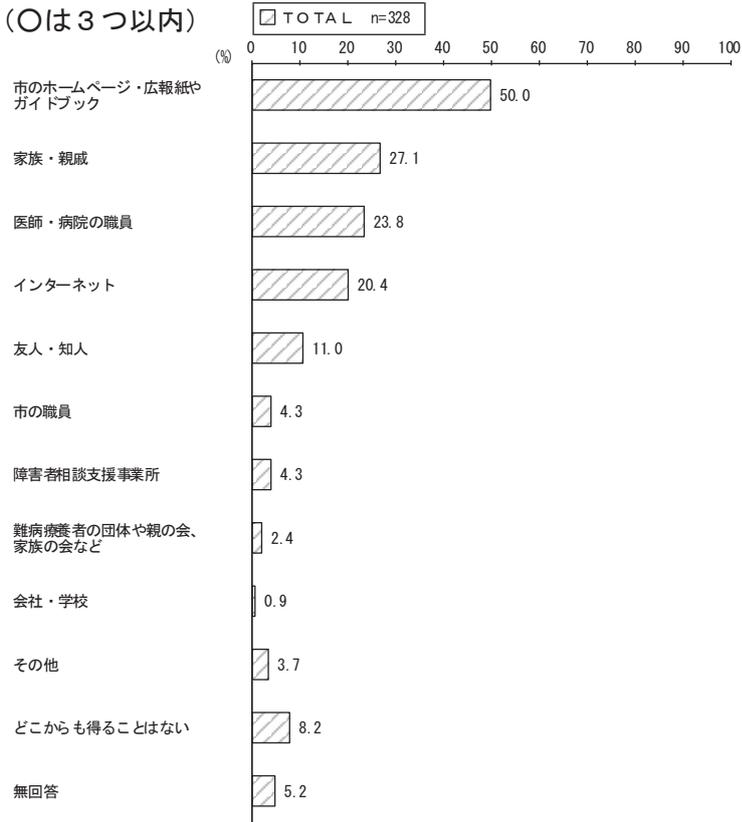
具体的に相談したい内容としては、次のような記入があった。

- 生活のこと、リハビリのこと、病院のことなどすべて。(女性・90歳)
- 最新の治療方法と実績。(男性・71歳)
- いまの病気が今後どのような状態になるか。(女性・76歳)
- 難病のための金銭的援助がだんだん少なくなってきました。(女性・37歳)
- 医療費がかなり上がり、病院に行きたくなかった。薬代も高すぎて払えない。(男性・39歳)
- 働きたくても希望に合う職場がない。難病の人でも働き口を探せるところがあると助かる。(女性・43歳)
- 難病認定を受けている状態で、家のローン組みに制約があるかどうか。(男性・35歳)
- 適当な病院を選ぶのが難しい。情報が少ない。

9 福祉に関する情報入手について

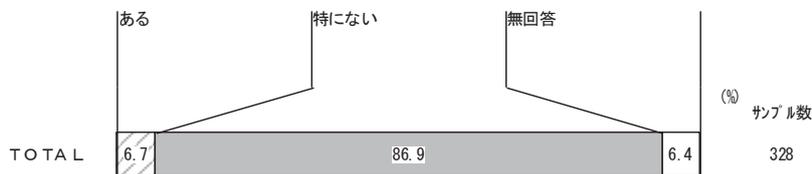
(1) 福祉に関する情報の入手先 (○は3つ以内)

福祉に関する情報は、「市のホームページ・広報紙やガイドブック」から得る人が50.0%と最も多く、次いで「家族・親戚」(27.1%)、「医師・病院の職員」(23.8%)と続いている。なお、「どこからも得ることはない」と回答した人が8.2%みられる。



(2) 情報を得られないで困ったことの有無

難病療養者のための情報が得られないで困ったことが「ある」人は6.7%である。



情報が得られないで困ったことの内容としては、次のような記入があった。

- ・ 制度が変わったり、書類の提出のときに情報が少なく、期限ギリギリになってしまった。(男性・72歳)
- ・ 昨年これ迄の申請方法が大巾に変更されたが説明文の到着時期等に問題があったと思う。(男性・69歳)
- ・ 支援があることがわかりづらい。(男性・39歳)

(3) 入手したいと思う情報 (自由回答)

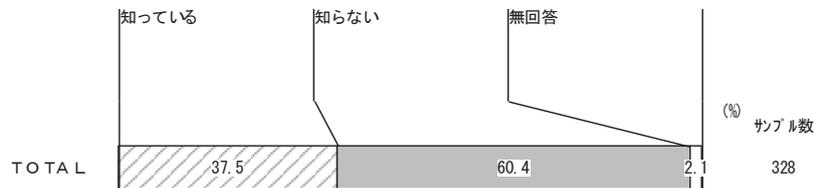
現在または今後ほしいと思う情報としては、具体的に次のような記入があった。

- ・ 体力回復のためのリハビリセンターの情報。(女性・68歳)
- ・ 今治療している方法以外の治療方法。(男性・45歳)
- ・ 近所の病院のことがわかる地図。(女性・56歳)
- ・ 多機能トイレのある建物や店の情報。(女性・61歳)
- ・ 教育面での支援体制。(男性・10歳)
- ・ 特に金銭面での支援に関する情報。(女性・21歳)
- ・ 日常生活の注意と気をつけること、障害がでたらどう対処するか応急方法。(男性・79歳)
- ・ 障害者福祉に関する法律の改正情報。(男性・76歳)
- ・ 趣味の会で自分に合ったものがあつたら。(女性・77歳)
- ・ 市政だよりなどに、スポーツ教室等の情報がほしい。(女性・62歳)
- ・ 難病療養者のファイナンシャルプラン。(男性・35歳)

10 サービスの利用状況・利用意向

(1) 障害者総合支援法の認知状況

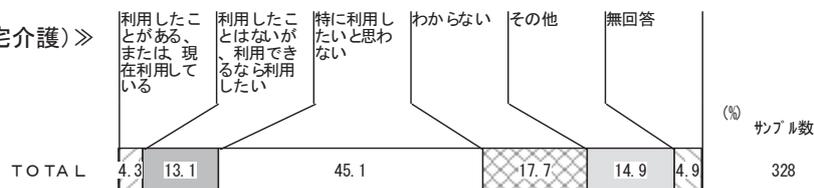
障害者総合支援法により難病患者も障害福祉サービスが利用できるようになったことを「知っている」人は37.5%であり、約6割は「知らない」(60.4%)状況である。



(2) ホームヘルプ(居宅介護)、ショートステイ(短期入所)の利用経験・意向

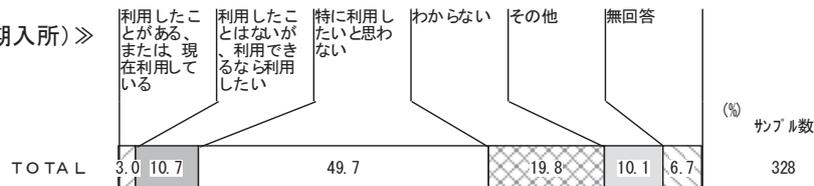
ホームヘルプ(居宅介護)については、13.1%の人が「利用したことはないが、利用できるなら利用したい」と回答している。

《ホームヘルプ(居宅介護)》



ショートステイ(短期入所)については、10.7%の人が「利用したことはないが、利用できるなら利用したい」と回答している。

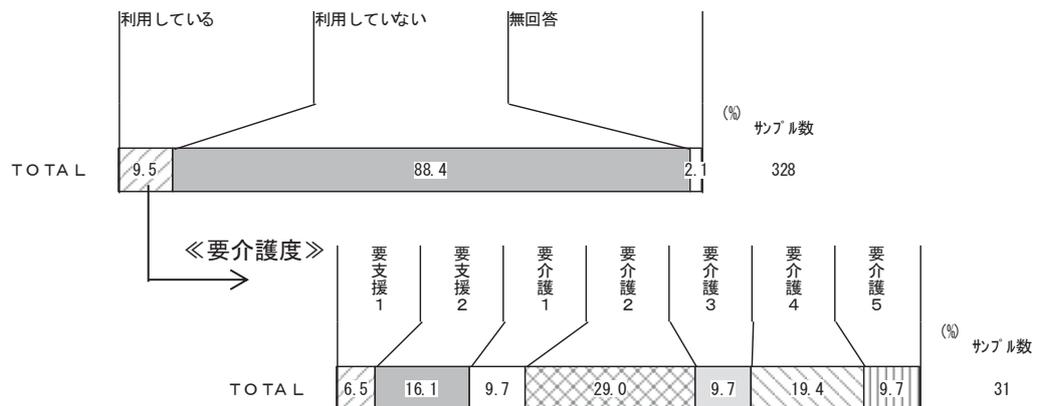
《ショートステイ(短期入所)》



(3) 介護保険によるサービスの利用状況

介護保険によるサービスを「利用している」人は9.5%である。

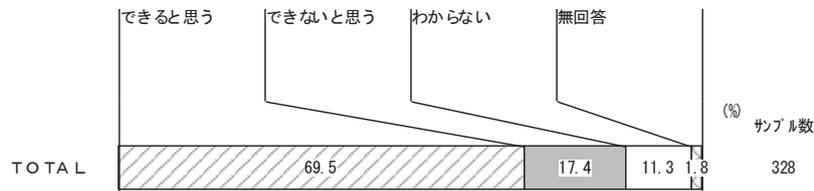
なお、サービス利用者の要介護度内訳をみると、「要介護2」が29.0%と最も多くなっている。



11 災害時の対応

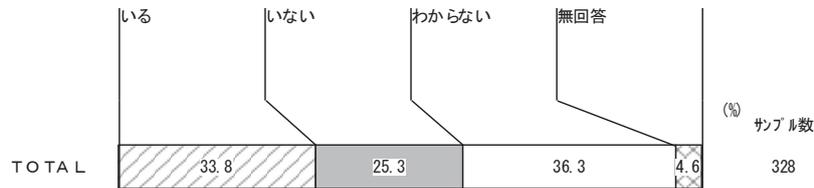
(1) 一人避難の能否

火事や地震等の災害時に、約7割は一人で避難「できると思う」(69.5%)と回答しているが、17.4%は「できないと思う」としている。



(2) 近所に助けてくれる人の有無

家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人が「いる」と回答した人は33.8%である。



(3) 災害時に困ること、不安なこと（自由回答）

災害時に困ると思われること、不安なことについては、具体的に次のような記入があった。

記入内容としては、「避難の際にふだん服用している薬を持ち出せるか」、「避難後に薬を用意できるか」など、定期的に服用している薬の確保に関して不安を感じている人が多い。また、避難所については、「トイレ設備」に関する記入が多くみられた。

<避難時について>

- ・ 夫婦そろって高齢者。災害時に二人で助け合えるかどうか。(女性・73歳)
- ・ 常備薬を安全に持って避難できるか、できなかった場合どこで支給を受けられるか。(女性・52歳)
- ・ 敏速な行動がとれない。(女性・70歳)
- ・ ひとりで避難できない。(男性・54歳)

<避難後について>

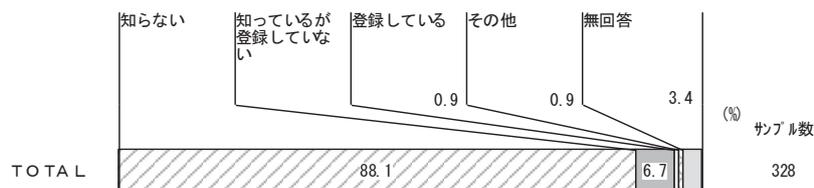
- ・ 自宅の耐震設備が不安。災害時の備蓄が無い。(男性・21歳)
- ・ 通院ができなくなる、適切な治療を受けられなくなる。(男性・38歳)
- ・ 日常的に服用している薬がなくなったら困る。(男性・20歳)
- ・ インスリン注射、器具が足りなくなる。(女性・10歳)

<避難所の暮らしについて>

- ・ 病状が悪化したときの排便が30回を超える。トイレが足りるのか不安。(男性・26歳)

(4) 「避難行動要支援者避難支援制度」の認知状況

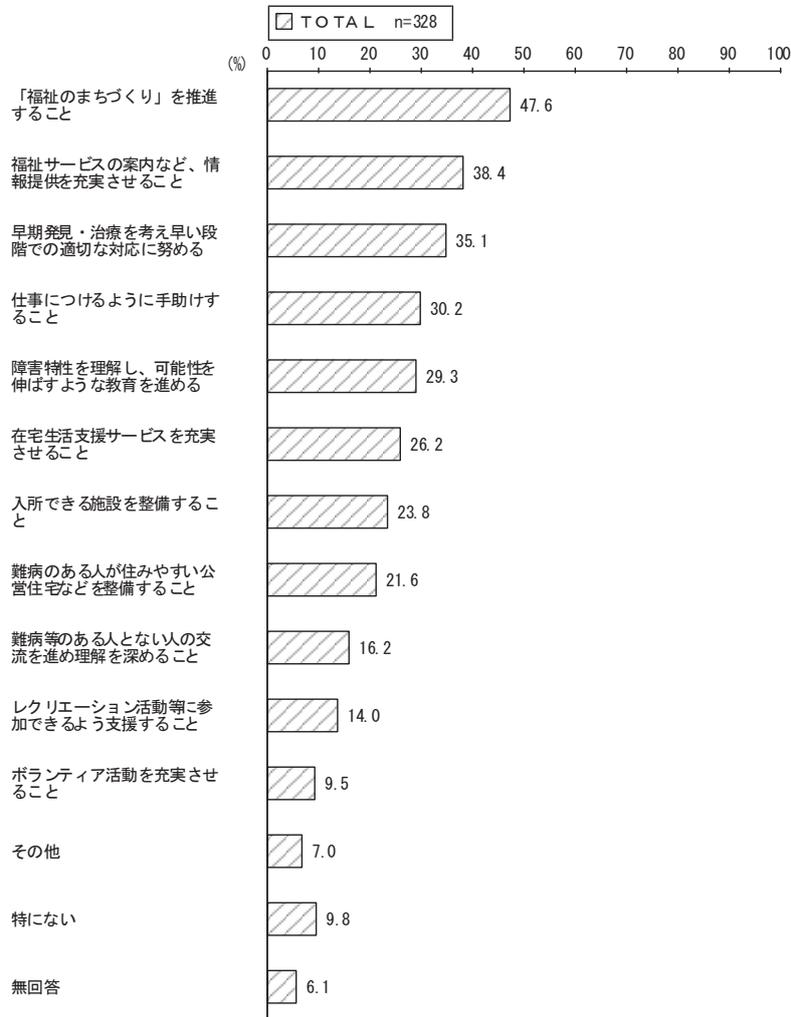
市の「避難行動要支援者避難支援制度」については、約9割が「知らない」(88.1%)状況である。



12 障害者施策を進める上で充実を図ること

(1) 障害者施策を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこと（複数回答）

今後、難病療養者支援・障害者支援を進めていくにあたって、市が特に充実させていくべきこととしては、「難病や障害のある人や高齢者にやさしい「福祉のまちづくり」を推進すること」をあげる人が47.6%と最も多く、次いで「福祉サービスの案内やインターネットによる広報など、情報提供を充実させること」(38.4%)、「早期発見・早期治療を考えて、早い段階での適切な対応に努めること」(35.1%)と続いている。



(2) 意見・要望（自由回答）

調査票の最後に、意見や要望の自由記入欄を設けたところ、25件の記入があった。本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介する。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を掲載するよう心がけた。

<経済的な不安や要望について>

- ・ 薬を飲み続けなければいけないのに、退職後の医療費負担が心配。(女性・56歳)
- ・ 給付金支給を復活させてほしい。(男性・27歳)
- ・ 難病療養者の生活は金がかかります。支援金の給付再開をしてほしい。(女性・63歳)
- ・ 費用面の補助を継続してほしい。見舞い金制度は続けてほしい。(男性・40歳)

<周囲の理解等について>

- ・ 難病者、障害者が学校、仕事など、生活が普通にできるように誤解、差別をなくして。(女性・41歳)
- ・ 難病・障害を不幸にも背負っていても、懸命に頑張っているのだから、何を思い、何を考え、何を伝えたいのかなどを伝えられる紙面欄などがあると、健常な人たちが理解を深める機会になるかも。(男性・10歳)
- ・ 特定ではなく、すべての病人にいろいろやさしくしてほしい。(女性・63歳)

<相談・情報について>

- ・ パソコン等についていけない人もいることを忘れないでほしい。(女性・71歳)
- ・ 難病者、障害者の困り事についての相談を受ける窓口を作る。その支援策を考えて、実行する組織にする。(男性・71歳)

<市役所の対応等について>

- ・ 公的機関(役所等)で知識のある人を増やしてほしい。できれば分かる人に案内してほしい。(女性・65歳)

<各種福祉サービスについて>

- ・ 施設に入る人への支援や、入所条件の緩和をしてほしい。(女性・61歳)
- ・ 難病見舞金やその他のサービスを充実してほしい。(女性・19歳)

<医療環境の整備等について>

- ・ 就業者のために、病院の予約・変更をインターネットでできるようにするなど、利便性の向上を支援してほしい。(男性・35歳)

<雇用・就労について>

- ・ 勤務先が、患者である社員の状況を理解し、適性のひとつとして休暇など配慮するように周知させるべき。(男性・53歳)

<その他>

- ・ 難病は人それぞれ全く異なる。もちろん障害も一緒である。それぞれの病気や障害を個人毎に把握しないと総花的で、個人にマッチしない施策になる。(男性・59歳)
- ・ 四街道市単体、市個々の充実だけでなく国県市がネットワークを充実させてほしい。(女性・18歳)
- ・ 無理な姿勢をしないですむ美容院があるといい。(女性・61歳)

I
調査の概要

II
調査結果

(1) 身体障害者調査

II
調査結果

(2) 知的障害者調査

II
調査結果

(3) 精神障害者調査

II
調査結果

(4) 難病療養者調査

III
資料
調査票

あなたの声をお聞かせください

◆◆◆四街道市の障害者福祉に関する調査へのご協力をお願い◆◆◆

日頃より、市政にご協力いただきありがとうございます。
現在、四街道市では平成28年度を初年度とする次期障害者基本計画の策定を進めています。計画の策定にあたっては、障害のある方々の日常生活の状況をしっかりと把握し、ご意見・ご要望をお聞かせいただくことが重要であると考え、このたびアンケート調査を実施することとしました。

この調査票は、市内にお住まいの身体障害者手帳をお持ちの方々を対象としています。なお、調査は無記名であり、結果については統計的に処理しますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

つきましては、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

平成27年6月

四街道市長 佐 渡 斉

《ご記入にあたって》

- この調査は名前を書く必要はありません。
個人の秘密は守られますから、ふだん思っていることをありのままに答えてください。
答えたくないことは無理に答えずに構いません。
- 原則としてご本人が中心になってご回答ください。ただし、ご本人が「障害のため記入できない」「乳幼児や児童であるため記入できない」などの場合は、ご家族の方、介助者の方等が、ご本人の立場でお答えください。
- 平成27年6月1日現在の状況でお答えください。
- お答えは、あてはまる項目の番号に○をつけてください。
なお、「その他」の場合は（ ）の中にその具体的な内容も記入してください。
- お答えは、「1つだけ」選んでいただくものと、「2つ以内」「3つ以内」「いくつでも」選んでいただくものがあります。
- 質問によっては、ある条件にあてはまる方だけにお答えをお願いするものがありますので、説明に当たってお答えください。

この調査票にご記入いただきましたら、同封の返信用封筒（切手は不要です）で、

6月24日(水)までに返送してください。

なお、お問い合わせは、下記までお願いします。

四街道市役所 福祉サービス部 障害者支援課 担当：角田
電 話：043-421-6122
FAX：043-421-2676

三 障 害 者 調 査 票

＜身体障害者調査票＞

はじめに、あなた自身のことについてうかがいます

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別	1. 男性	2. 女性
年齢	<input type="text"/> 歳 <small>(平成27年6月1日現在)</small>	

問2 「身体障害者手帳」に記載された障害の程度をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 1級 | 4. 4級 |
| 2. 2級 | 5. 5級 |
| 3. 3級 | 6. 6級 |

問3 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。最も重いもの1つに◎をし、その他該当するものすべてに○をつけてください。(◎は1つ、○はいくつでも)

1. 視覚障害	6. その他（ 機能の障害）
2. 聴覚障害	
3. 平衡機能障害	
4. 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	
5. 肢体不自由（上肢、下肢、体幹）	
6. 肢体不自由（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害）	
7. 内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害）	
8. その他（ ）	

問4 あなたが現在の障害の状態になったのはいつ頃ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 出生時（出生前を含む） | 6. 30～39歳頃 |
| 2. 乳幼児期（0～5歳） | 7. 40～49歳頃 |
| 3. 学齢期（小学校入学時～中学校卒業まで） | 8. 50～59歳頃 |
| 4. 中学校卒業～17歳頃 | 9. 60歳以上 |
| 5. 18～29歳頃 | 10. わからない |

問5 あなたの障害の主な原因は何ですか。(○は1つ)

1. 交通事故	6. その他の疾患
2. 労働災害	7. 出生時の損傷
3. その他の事故	8. その他（ ）
4. 脳血管疾患	9. わからない
5. 糖尿病	

問6 あなたは現在、どこで生活していますか。(○は1つ)

1. 自宅（アパート・公営住宅を含む）で暮らしている	3. 福祉施設に入所している
2. 病院に入院している	4. その他（ ）

あなたの声をお聞かせください

- ◆◆四街道市の障害者福祉に関する調査への協力をお願いします◆◆

白ころより、市政にご協力いただきありがとうございます。
 現在、四街道市では平成28年度を初年度とする次期障害者基本計画の策定を進めています。計画の策定にあたっては、障害のある方々の日常生活の状況をしっかりと把握し、ご意見・ご要望などをとお聞かせいただきながら策定を進めていくことが重要であると考え、このたびはアンケート調査を実施することとしました。

この調査票は、市内にお住まいの障害者手帳をお持ちの方々にお願ひしています。なお、調査票は名前を書く必要はなく、結果については統計的に処理しますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

つきましては、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいようお願いいたします。
 平成27年6月
 四街道市長 佐 藤 育 斉

《ご記入にあたって》

- この調査は名前を書く必要はありません。
 個人の秘密は守られますから、ふだん思っていることをありのままに答えてください。
 答えたくないことは無理に答えてもかまいません。
- 原則としてご本人が中心になってご回答ください。ただし、ご本人が「障害のため記入できない」「乳幼児や原童であるため記入できない」などの場合は、ご家族の方、介助者の方などが、ご本人の立場でお答えください。
- 平成27年6月1日現在の状況でお答えください。
- お答えは、あてはまる項目の番号に○をつけてください。
- なお、「その他」の場合は（ ）の中にその具体的な内容も記入してください。
- お答えは、「1つだけ」選んでいただくものと、「2つ以内」「3つ以内」「いくつでも」選んでいただくものがあります。
- 質問によっては、ある条件にあてはまる方だけにお答えをお願いするものがありますので、説明にしたがってお答えください。

この調査票にご記入いただきましたら、同封の返信用封筒（切手はいりません）で、

6月24日(水)までに返送してください。

なお、お問い合わせは、次のところまでお願いします。

四街道市役所 福祉サービス部 障害者支援課 担当：角田
 電話：043-421-6122
 FAX：043-421-2676

＜知的障害者調査票＞

はじめに、あなた自身のことについてうかがいます

問1 あなたの性別と年齢をお教えてください。

(1) あなたは男性ですか、女性ですか。(○は1つ)

性別	1. 男性	2. 女性
----	-------	-------

(2) あなたはおいくつですか。

年齢	歳
----	---

(平成27年6月1日現在)

問2 「療育手帳」に書かれている障害の程度はどれですか。(○は1つ)

1. A 2. Aの1 3. Aの2 4. Bの1 5. Bの2

問3 あなたは身体障害者手帳を持っていますか。持っている場合には、手帳に書かれている等級にも○をつけてください。(○は1つ)

1. 持っていない	2. 持っている →	1級	2級	3級	4級	5級	6級
-----------	------------	----	----	----	----	----	----

問4 あなたは現在、どこで暮らしていますか。(○は1つ)

1. 自宅 (アパート・公営住宅を含む) で暮らしている	2. 病院に入院している	3. 福祉施設に入所している	4. その他 ()
------------------------------	--------------	----------------	------------

問5 いっしょに暮らしている家族はどなたですか。あなたからみた関係であてはまる方すべてに○をつけてください。施設・病院に入っている方は、通所・通院したときのことを考えてお答えください。(○はいくつでも)

1. ひとり暮らし	7. 夫の親・妻の親 (しゅうと・しゅうとめ)
2. おとうさん	8. 兄弟・姉妹
3. おかあさん	9. おじいさん、おばあさん
4. あなたの夫・妻	10. 孫
5. 子ども	11. その他 ()
6. 子どもの夫・妻 (嫁・婿)	

問9-2 通園・通学について困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

1. 通うのがたいへん
2. トイレなどの設備がととのっていない
3. 手助けをする体制が十分でない
4. 先生が自分のことを理解してくれない、気をつかってくれない
5. まわりの生徒のおかあさんやおとうさんが自分のことを理解してくれない
6. まわりの生徒たちが自分のことを理解してくれない
7. 友だちができない
8. 通常のクラスに入れてもらえない
9. 医療的なケア（吸引・経管栄養・導尿など）が受けられない
10. その他（ ）
11. 特に困っていることはない

⇒問11にお進みください

お仕事についてうかがいます

問10 現在、あなたはお金をもらう仕事をしていますか。(〇は1つ)

1. お金をもらう仕事をしている ⇒ 問10-1へお進みください
2. お金をもらう仕事をしていない ⇒ 問10-4へお進みください

働いている方についてうかがいます

問10-1 あなたの仕事は次のうちどれですか。(〇は1つ)

1. 自営業
2. 家族のついで
3. 会社・団体などの正規の職員、役員
4. 臨時、パート、嘱託など
5. 内職
6. 就労事業所
7. 福祉作業所
8. その他（ ）

問10-2 週に何日くらい働いていますか。(〇は1つ)

1. 週に1～2日
2. 週に3～4日
3. 週に5日以上
4. 決まっていない
5. その他（ ）

問10-3 仕事について不安や不満がありますか。あてはまるものに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

1. 収入が少なくない
2. 仕事かむずかしい
3. 仕事がつきい
4. 自分にあつた内容の仕事がない
5. 職場の人間関係がむずかしい
6. 職場での身分が安定していない
7. トイレなど障害者用の設備が十分でない
8. 昇給や昇進が平等ではない
9. 通勤がたいへん
10. その他（ ）
11. 特に不安や不満はない

⇒問11にお進みください

働いていない方についてうかがいます

問10-4 働いていない理由は何か。(〇はいくつでも)

1. 年齢が高いため
2. 障害が重い
3. 病気のため（入院を含む）
4. 希望する仕事につけないため
5. 通勤がむずかしい
6. 職場の人間関係が苦手なため
7. 働く必要がない
8. やめさせられたため
9. その他（ ）
10. 特に理由はない

外出・社会参加の状況についてうかがいます

問11 外に出かけるときによく利用する交通手段は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 家の車（乗せてもらう）
2. 路線バス
3. 送迎バス
4. 電車
5. 自転車・オートバイ
6. 福祉施設などの福祉車両
7. タクシー
8. リフト付タクシー
9. 徒歩
10. 車いす・電動車いす
11. その他（ ）
12. ほとんど出かけない

問12 外に出かけるときに困っていることがありますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

1. いっしょに出かけて手助けしてくれる人がいない
2. まわりの人との会話がむずかしい
3. まわりの人の視線が気になる
4. 必要ときに、まわりの人があまり手助けしてくれない、気をつかってくれない
5. 道がせまく、でこぼこが多い
6. 置きっぱなしの自転車など、道にじゃまなものが多く、歩きにくい
7. 建物などに階段が多く、利用しにくい
8. 車をとめるところがない
9. 気軽に利用できる福祉車両、福祉タクシーなどが少ない
10. 電車やバスなどが利用しづらい
11. 障害者用のトイレが少ない
12. その他（ ）
13. 困っていることは特にない

問23 悩みや困ったことは誰に相談しますか。(○は主なもの3つ以内)

1. 家族・親せき
2. 友だち・知り合い
3. 会社の人・学校の先生
4. お医者さん
5. 福祉施設や作業所の職員
6. 施設が設置する相談センター
7. 県の障害者相談センター
8. 障害者相談支援事業所
9. 市の職員
10. 民生委員・原簿委員
11. 知的障害者相談員、身体障害者相談員
12. 障害者の団体や親の会、家族の会などの人
13. その他 ()
14. 相談する人はいない

問24 現在、障害に関することなどで相談したいことはありませんか。(○は1つ)

1. ある
2. 特にない

問24-1 上の問で「1 ある」を選んだ方にかかっています。それはどのようなことですか。具体的に教えてください。

問25 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

1. 名前も内容も知らない
2. 名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 名前も内容も知っている

問26 あなたは、成年後見制度を使いたいと思いますか。(○は1つ)

1. すでに使っている
2. 今は必要ないが、将来必要になったら使いたい
3. 使いたいとは思わない
4. わからない

福祉情報などの入手状況についてうかがいます

問27 あなたやご家族は、福祉についての情報をどこから得ますか。(○は主なもの3つ以内)

1. 家族・親せき
2. 友だち・知り合い
3. 会社・学校
4. お医者さん
5. 福祉施設や作業所など
6. 施設が設置する相談センター
7. 県の障害者相談センター
8. 障害者相談支援事業所
9. 市の職員
10. 市のホームページ、広報紙やガイドブック
11. 民生委員・原簿委員
12. 知的障害者相談員、身体障害者相談員
13. 障害者の団体や親の会、家族の会など
14. インターネット
15. その他 ()
16. どこからも得ることはない

問28 あなたが生活する上で、福祉サービスなど障害者のための情報が得られないう困ったことがありますか。(○は1つ)

1. ある
2. 特にない

問28-1 上の問で「1 ある」を選んだ方にかかっています。それはどのようなときでしたか。具体的に教えてください。

問29 現在または今後どのような情報がほしいですか。趣味、スポーツ、教育、旅行など具体的に教えてください。

今後、希望する暮らし方についてうかがいます

問30 今後、どのようなところで暮らしたいですか。(○は1つ)

1. 自宅で暮らしたい
2. 共同生活 (グループホーム) をしたい
3. 施設または病院で暮らしたい
4. その他 ()

問30で「1 自宅で暮らしたい」を選んだ方にうかがいます

問30-1 自宅で暮らし続けるための条件は何ですか。(〇はいくつでも)

1. まわりの人たちが障害者のことをもっとよく考えること
2. 手当などの経済的な援助の充実すること
3. サービスを利用しやすくするため、手続きをかんたんにする
4. 短期入所（緊急時の一時入所）を充実すること
5. ホームヘルプサービスを充実すること
6. 相談体制を充実すること
7. 日中、創作的活動や生産活動、社会との交流などができるところを充実すること
8. 外に出かけるためのいろいろな方法が用意されていること
9. その他（ ）

災害時の対応についてうかがいます

問31 火事や地震などの災害時に、あなたはひとり避難できますか。(〇は1つ)

1. できると思う
2. できないと思う
3. わからない

問32 火事などの非常時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。(〇は1つ)

1. できると思う
2. できないと思う
3. わからない

問33 家族が出かけている場合、またはひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいませんか。(〇は1つ)

1. いる
2. いない
3. わからない

問34 あなたが、災害発生時に手伝ってほしいことは何ですか。(〇は3つまで)

1. 災害情報を知らせしてほしい
2. 必要な治療や家を確保してほしい
3. 避難場所を教えてください
4. 避難時の声かけをしてほしい
5. 避難場所までの避難を手伝ってほしい
6. 避難場所まで分譲してほしい
7. 手話など、コミュニケーション手段を確保してほしい
8. 避難場所の設備（トイレ・段差など）を整備してほしい
9. その他（ ）
10. 特になし

問35 災害時に困ると思われること、不安なことをお書きください。

問36 あなたは、市の「避難行動要支援者避難支援制度」を知っていますか。(〇は1つ)

1. 知らない
2. 知っている

※「避難行動要支援者避難支援制度」とは、災害が発生した、または災害が発生するおそれのある時に避難行動要支援者（障害者、難病患者の一部の方が含まれます）を適切に支援するための制度です。

福祉施策などのことについてうかがいます

問37 今後、障害者施策をすすめていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに〇つけてください。(〇はいくつでも)

1. 障害者に対し、早いときから適切な対応をすること
2. 障害者の特性をよく考えて、その子どもの可能性を伸ばすような教育をすすめること
3. 仕事につけるように手助けすること
4. 障害のある人となない人の交流をすすめる、おたがいのことをよく知るようにすること
5. ホームヘルパーの派遣など自宅での暮らしを支援するサービスを充実させること
6. 入所できる施設をととのえること
7. 障害者や高齢者にやさしい「福祉のまちづくり」をすすめること
8. 障害のある人が住みやすい公営住宅などをととのえること
9. 文化、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること
10. ボランティア活動を充実させること
11. 福祉サービスの案内やインターネットによる広報など、情報提供を充実させること
12. その他（ ）
13. 特になし

問38 この調査票はどなたが記入されましたか。(〇は1つ)

1. 本人が記入
2. 本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入
3. 本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入

最後になりますが、この調査の質問だけではうまく答えられなかったことや、四街連布の障害者施策に関するご意見やご要望、ご提案などがございましたら、ご自由にお書きください。

これで質問はおわりです。お忙しいところ調査にご協力いただきありがとうございます。この調査票は6月24日(水)までに返信用封筒に入れ返送してください。よろしくお願いいたします。

あなたの声をお聞かせください

◆◆四街道市の障害者福祉に関する調査へのご協力をお願い◆◆

日頃より、市政にご協力いただきありがとうございます。
 現在、四街道市では平成28年度を初年度とする次期障害者基本計画の策定を進めています。計画の策定にあたっては、障害のある方々の日常生活の状況をしっかりと把握し、ご意見・ご要望などをお聞かせいただくことが重要であると見え、このたびアンケート調査を実施することとしました。
 この調査票は、市内にお住まいの精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方々を対象としています。なお、調査は無記名であり、結果については統計的に処理しますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。
 つきましては、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

平成27年6月

四街道市長 佐 渡 斉

《ご記入にあたって》

- この調査は名前を書く必要はありません。個人の秘密は守られますから、ふだん思っていることをありのままに答えてください。答えたくないことは無理に答えずともかまいません。
- 原則としてご本人が中心になってご回答ください。ただし、ご本人が「心身の状況が働けないため記入できない」などの場合は、ご家族の方、介助者の方等が、ご本人の立場でお答えください。
- 平成27年6月1日現在の状況でお答えください。
- お答えは、あてはまる項目の番号に○をつけていただくものです。
 なお、「その他」の場合は（ ）の中にその具体的な内容も記入してください。
- お答えは、「1つだけ」選んでいただくものと、「2つ以内」「3つ以内」「いくつでも」選んでいただくものがあります。
- 質問によっては、ある条件にあてはまる方だけにお答えをお願いするものがありますので、説明にしたがってお答えください。

この調査票にご記入いただきましたら、同封の返信用封筒（切手は不要です）で、
6月24日（水）までに返送してください。

なお、お問い合わせは、下記までお願いします。
 四街道市役所 福祉サービス部 障害者支援課 担当：角田
 電話：043-421-6122
 FAX：043-421-2676

＜精神障害者調査票＞

はじめに、あなた自身のことについてうかがいます

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別	1. 男性	2. 女性
年齢	<input type="text"/> 歳 <small>(平成27年6月1日現在)</small>	

問2 「精神障害者保健福祉手帳」に記載された障害の程度をお答えください。(○は1つ)

1. 1級	2. 2級	3. 3級
-------	-------	-------

問3 あなたが「精神障害者保健福祉手帳」を初めて所持されたのは何歳くらいのおときですか。(○は1つ)

1. 20歳以前	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代	5. 50歳以上
----------	---------	---------	---------	----------

問4 あなたは現在、どこで生活していますか。(○は1つ)

1. 自宅（アパート・公営住宅を含む）で暮らしている
2. 病院に入院している
3. 福祉施設（グループホーム含む）に入所している
4. その他（ ）

問5 現在一緒に住まいる家族はどなたですか。あなたからみた関係であてはまる方すべてに○をしてください。病院・施設に入院・入所している方は、退院・退所したときのことを想定してお答えください。(○はいくつでも)

1. ひとり暮らし	7. 配偶者の親（しゅうと・しゅうとめ）
2. 父親	8. 兄弟・姉妹
3. 母親	9. 祖父母
4. 配偶者（夫・妻）	10. 孫
5. 子ども	11. その他（ ）
6. 子どもの配偶者（婿・嫁）	

問6 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つ)

1. 利用している	2. 利用していない
-----------	------------

問6-1（介護保険を利用している方に）該当する要介護度はどれですか。(○は1つ)

1. 要支援1	3. 要介護1	5. 要介護3	7. 要介護5
2. 要支援2	4. 要介護2	6. 要介護4	

問7 精神科または神経科の病院への入院についてうかがいます。

(1) 今までに何回くらい入院したことがありますか。(○は1つ)

1. 入院したことはない	3. 2～3回	5. 6～10回	7. わからない
2. 1回	4. 4～5回	6. 11回以上	

外出・社会参加の状況についてうかがいます

問 11 外出の際によく利用する交通手段は何ですか。(○はいくつでも)

1. 自家用車 (自分で運転する)	7. 福祉施設等が所有する福祉車両
2. 自家用車 (乗せてもらう)	8. タクシー
3. 路線バス	9. 徒歩
4. 送迎バス	10. その他 ()
5. 電車	11. ほとんど外出しない
6. 自転車・オートバイ	

問 12 外出の際に困っていることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 付き添ってくれる人がいない	5. 電車やバスなどの交通機関を利用しづらい
2. 他人との会話がむずかしい	6. その他 ()
3. 他人の視線が気になる	7. 困っていることは特になく配慮が足りない

問 13 あなたは、次のような活動をしていますか。(○はいくつでも)

1. 趣味・教養などの文化・芸術活動	6. インターネット等を活用した交流活動
2. スポーツ・レクリエーション活動	7. ボランティア活動
3. 子ども会や町内会など地域の活動	8. その他 ()
4. 障害者の団体での活動	9. 参加していない
5. 友人や仲間との交流	

問 14 今後の生活の中で、どのような面をもっと充実させたいですか。また、新たに始めたいことはありますか。(○はいくつでも)

1. 趣味・教養などの文化・芸術活動	6. インターネット等を活用した交流活動
2. スポーツ・レクリエーション活動	7. ボランティア活動
3. 子ども会や町内会など地域の活動	8. その他 ()
4. 障害者の団体での活動	9. 参加していない
5. 友人や仲間との交流	

問 15 あなたは今後、次のような催しがあった場合、参加してみたいと思いますか。参加してみたいと思うものに○を付けてください。(○はいくつでも)

1. 体操教室など健康を意識した教室 (障害者向け)
2. 体操教室など健康を意識した教室 (障害者に限定しない)
3. 「壮こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント (障害者向け)
4. 「壮こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント (障害者に限定しない)
5. スポーツ競技会
6. 参加してみたいイベントはない

問 16 あなたは今後、身体活動やスポーツについて、どのようにしていきたいですか。あなたの気持ちに近いものを1つ選んでください。(○は1つだけ)

1. 身体活動やスポーツを行うのはむずかしい
2. 自分の健康づくりのために、できる範囲で体を動かすことを心がけたい
3. 具体的なスポーツ種目に取り組んでみたい
4. 競技スポーツとして、本格的に取り組んでみたい

【「3」または「4」と回答した方におたずねします。】
問 16-1 あなたは、どのようなスポーツに、どのように取り組んでみたいですか。具体的にお書きください。

問 17 あなたが、地域や社会に積極的に参加できるようにするため、特に大切なことは何ですか。(○は主なもの2つ以内)

1. 参加しやすい機会の拡充	5. 参加を補助するボランティアの育成
2. 使いやすい施設の整備	6. 障害者自身が積極性を持つ
3. 交通機関や道路の整備	7. その他 ()
4. 人びとの障害者に対する理解	

問 18 障害があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

1. ほとんど感じることはない	3. いつも感じる
2. たまに感じる	4. わからない

問 19 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。(ご自由にお書きください)

問 20 障害や障害のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

1. 進んできている	3. どちらともいえない	5. わからない
2. まあ進んできている	4. 進んできていない	

問 21 あなたは「障害者差別解消法」という法律が施行されることをご存じですか。(○は1つ)

1. 法律の内容もある程度把握している
2. 内容はよくわからないが、聞いたことはある
3. よく知らない
4. その他 ()

ふだんの生活の困りごとなどについてうかがいます

問22 あなたは、現在の生活で困っていること、あるいは不安を感じていることはありませんか。(〇はいくつでも)

1. 介助をしてくれる人がいない
2. 教育を受けられない
3. 気軽に相談するところがない
4. 訓練を受けられない
5. 自宅で使えにくいところがある
6. 働く場が少ない
7. 収入が少ない
8. 本人・家族の結婚について
9. 外出にくい
10. 医療費が多くなる
11. 施設の利用料等の負担が大きい
12. 診療してくれる身近な医療機関が少ない
13. まわりの人の理解が少ない
14. 休日の過ごし方
15. 親なきあとのこと
16. その他 ()
17. 特になし

問23 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(〇は主なものを3つ以内)

1. 家族・親戚
2. 友人・知人
3. 会社の人・学校の先生
4. 医師・病院のソーシャルワーカー
5. 福祉施設や作業所の職員
6. 地域生活支援センター
7. 市の職員
8. 保健所の職員
9. 民生委員・児童委員
10. 障害者の団体や親の会、家族の会などの人
11. その他 ()
12. 相談する人はいない

問24 現在、障害に関することなどで相談したいことはありませんか。(〇は1つ)

1. ある
2. 特になし

問24-1 上記で「1 ある」を選んだ方にうかがいます。それほどのようなことですか。具体的に書きください。

.....

.....

.....

問25 成年後見制度とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(〇は1つ)

1. 名前も内容も知らない
2. 名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 名前も内容も知っている

問26 あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか。(〇は1つ)

1. すでに活用している
2. 今は必要ないが、将来必要になったら活用したい
3. 活用したいとは思わない
4. わからない

資料 調査票	調査結果 II (4) 難病療養者調査	調査結果 II (3) 精神障害者調査	調査結果 II (2) 知的障害者調査	調査結果 II (1) 身体障害者調査	調査の概要 I
-----------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------

〈難病療養者調査票〉

はじめに、あなた自身のことについてうかがいます

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別	1. 男性	2. 女性
年齢	<input type="text"/> 歳 <small>(平成27年6月1日現在)</small>	

問2 差し支えなければ疾病名をお書きください。

問3 あなたは現在、医師の治療を受けていますか。(○は1つ)

1. 週に1回程度以上通院している	5. 自宅で訪問看護や往診を受けている
2. 月に1～2回程度通院している	6. 特に治療を受けていない
3. 毎月ではないが、通院している	7. その他 ()
4. 入院している	

問4 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありませんか。(○はいくつでも)

1. 近所に診てくれる医師がいない	5. 定期的に健康診断を受けられない
2. 専門的な治療を行う医療機関がない	6. 症状が正確に伝わらず、必要な治療を受けられない
3. 通院や健康診断のときに付き添いがいない	7. 受診手続きなどについて、難病や障害のある人への配慮が不十分
4. 往診を頼める医師がいない	8. 医療スタッフ(医師、看護師等)の難病・障害に対する理解が不十分
9. 定期的な健康診断を受けられない	9. 医療費の負担が大きい
10. 症状が正確に伝わらず、必要な治療を受けられない	10. 医療について相談できる場所が少ない
11. その他 ()	11. その他 ()
12. 特に困ったり不便に思うことはない	12. 特に困ったり不便に思うことはない

問5 あなたは現在、どこで生活していますか。(○は1つ)

1. 自宅(アパート・公営住宅を含む)	3. 福祉施設に入所している
2. 病院に入院している	4. その他 ()

問6 現在一緒に住まない家族はどなたですか。あなたからみた関係であてはまる方すべてに○をつけてください。施設・病院に入所・入院している方は、退所・退院したときのことを想定してお答えください。(○はいくつでも)

1. ひとり暮らし	5. 子ども	9. 祖父母
2. 父親	6. 子どもの配偶者(婿・嫁)	10. 孫
3. 母親	7. 配偶者の親(しゅうと・しゅうとめ)	11. その他 ()
4. 配偶者(夫・妻)	8. 兄弟・姉妹	

あなたの声をお聞かせください

◆◆◆四街道市の障害者福祉に関する調査へのご協力をお願い◆◆◆

日頃より、市政にご協力いただきありがとうございます。
 現在、四街道市では平成28年度を初年度とする次期障害者基本計画の策定を進めております。平成25年度に施行された法律である「障害者総合支援法」では障害者の範囲の中に一部の難病患者も含まれるようになりました。つきましては、計画の策定にあたって、難病患者の方々と障害のある方々の日常生活の状況をしっかりと把握し、ご意見・ご要望などをおうかがいしながら策定を進めていくことが重要であると考え、このたびアンケート調査を実施することとしました。

この調査票は、市内にお住まいで、難病療養者の方々のうち約500人を抽出し、お送りしています。なお、調査は無記名であり、結果については統計的に処理しますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

つきましては、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

平成27年6月

四街道市長 佐 渡 斉

《ご記入にあたって》

- この調査は名前を書く必要はありません。
 個人の秘密は守られますから、ふだん思っていることをありのままに答えてください。答えたくないことは無理に答えずともかまいません。
- 原則としてご本人が中心になってご回答ください。ただし、ご本人が「病气や障害のため記入できない」「乳幼児や児童であるため記入できない」などの場合は、ご家族の方、介助者の方等が、ご本人の立場でお答えください。
- 平成27年6月1日現在の状況でお答えください。
- お答えは、あてはまる項目の番号に○をつけていただくものです。
 なお、「その他」の場合は () の中にその具体的な内容も記入してください。
- お答えは、「1つだけ」を選んでいただくものと、「2つ以内」「3つ以内」「いくつでも」を選んでいただくものがあります。
- 質問によっては、ある条件にあてはまる方だけにお答えをお願いするものがありますので、説明にしたがってお答えください。

この調査票にご記入いただきましたら、同封の返信用封筒(切手は不要です)で、**6月24日(水)まで**に返送してください。

なお、お問い合わせは、下記までお願いします。

四街道市役所 福祉サービス部 障害者支援課 担当：角田
 電話：043-421-6122
 FAX：043-421-2676

サービスの利用状況や利用意向についてうかがいます

問7 「障害者総合支援法」という法律では一部の難病患者も障害者に含まれるようになり、障害福祉サービスを利用できるようになりました。あなたはこのことをご存じですか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 知らない

問8 障害福祉サービスの1つに「ホームヘルプ（居宅介護）」があります。

■「ホームヘルプ（居宅介護）」について
居宅において、入浴・排せつ・食事などの介護（身体介護）や調理・洗濯・掃除などの家事（家事援助）、相談その他の援助を行います。

あなたはこのサービスを利用したことがありますか。また、利用してみたいと思いますか。(○は1つ)

1. 利用したことがある、または、現在利用している
2. 利用したことはないが、利用できるなら利用したい
3. 特に利用したいと思わない
4. わからない
5. その他（ ）

問9 障害福祉サービスの1つに「ショートステイ（短期入所）」があります。

■「ショートステイ（短期入所）」について
自宅で介護する人が病氣などの場合に、短期間、病院や施設で入浴・排せつ・食事などの介護を行います。

あなたはこのサービスを利用したことがありますか。また、利用してみたいと思いますか。(○は1つ)

1. 利用したことがある、または、現在利用している
2. 利用したことはないが、利用できるなら利用したい
3. 特に利用したいと思わない
4. わからない
5. その他（ ）

問10 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つ)

1. 利用している
2. 利用していない
- 問10-1 (介護保険を利用している方に) 該当する要介護度はどれですか。(○は1つ)
1. 要支援1
2. 要支援2
3. 要介護1
4. 要介護2
5. 要介護3
6. 要介護4
7. 要介護5

介助のことについてうかがいます

問11 日常の生活状況についてお聞きします。次の(1)～(7)のそれぞれの状況について、1～4のいずれか1つに○をつけてください。(障害を補うための器具や機器を使用している方は、これらを使用した状態のことをお答えください)

(○は(1)～(7)にそれぞれ1つずつ)

	一人でできる	時間をかければ一人でできる	一部介助が必要	全部介助が必要
(1) 食事をする	1	2	3	4
(2) トイレ	1	2	3	4
(3) 入浴	1	2	3	4
(4) 衣服の着脱	1	2	3	4
(5) 家の中の移動	1	2	3	4
(6) 家事（調理、掃除、洗濯）	1	2	3	4
(7) 外出	1	2	3	4

現在、介助を受けている方にうかがいます

問11-1 主な介助者はどなたですか。(○は1つ)

1. 配偶者（夫・妻）
2. 父親
3. 母親
4. 子ども
5. 子どもの配偶者
6. その他同居している家族
7. 別居している家族や親族
8. 近所の人
9. 友人・知人
10. ホームヘルパー・家政婦
11. ボランティア
12. 施設や病院の職員
13. その他（ ）

問11-2 いつも介助している方が介助できなくなったりするとき、どうされますか。(○は主なもの2つ以内)

1. 同居している他の家族に頼む
2. 別居している家族や親族に頼む
3. 近所の人や友人・知人に頼む
4. ホームヘルパーや家政婦を頼む
5. 施設に入所する
6. 病院に入院する
7. その他（ ）
8. 何もあてがなく困っている

問 16 あなたは今後、次のような権利があった場合、参加してみたいと思いますか。参加してみたいと思うものに○を付けてください。(○はいくつでも)

1. 体操教室など健康を意図した教室 (難病療養者、障害者向け)
2. 体操教室など健康を意図した教室 (難病療養者、障害者に限定しない)
3. 「歩こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント (難病療養者、障害者向け)
4. 「歩こう会」などレクリエーションを兼ねたイベント (難病療養者、障害者に限定しない)
5. スポーツ競技会
6. 参加してみたいイベントはない

問 17 あなたは今後、身体活動やスポーツについて、どのようにしていきたいですか。あなたの気持ちに近いものを1つ選んでください。(○は1つだけ)

1. 身体活動やスポーツを行うのはむずかしい
2. 自分の健康づくりのために、できる範囲で体を動かすことを心がけたい
3. 具体的なスポーツ種目に取り組みでみたい
4. 競技スポーツとして、本格的に取り組みでみたい

【「3」または「4」と回答した方におたずねします。】

問 17-1 あなたは、どのようなスポーツに、どのように取り組んでみたいですか。具体的に書きください。

問 18 難病があることで、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

1. ほとんど感じることはない
2. たまに感じる
3. いつも感じる
4. わからない

問 19 具体的には、どのようなときに、差別や人権侵害、虐待を受けていると感じますか。(自由にお書きください)

問 20 難病、または難病のある人に対する市民の理解は進んできていると思いますか。(○は1つ)

1. 進んできている
2. まあ進んできている
3. どちらともいえない
4. 進んできていない
5. わからない

ふだんの生活の困りごとなどについてうかがいます

問 21 悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。(○は主なものを3つ以内)

1. 家族・親戚
2. 友人・知人
3. 会社の人・学校の先生
4. 医師・病院の職員
5. 市の職員
6. 民生委員・児童委員
7. 難病療養者の団体や親の会、家族の会などの人
8. その他 ()
9. 相談する人はいない

問 22 現在、難病に関することなどで相談したいことはありますか。(○は1つ)

1. ある
2. 特にない

問 22-1 上記で「1. ある」を選んだ方にかがいます。それはどのようなことですか。具体的に書きください。

福祉情報などの入手状況についてうかがいます

問 23 あなたやご家族は、福祉に関する情報をどこから得ますか。(○は主なものを3つ以内)

1. 家族・親戚
2. 友人・知人
3. 会社・学校
4. 医師・病院の職員
5. 市の職員
6. 民生委員・児童委員
7. 障害者相談支援事業所
8. 市のホームページ・広報紙やガイドブック
9. 難病患者の団体や親の会、家族の会などの人
10. インターネット
11. その他 ()
12. どこからも得ることはない

問 24 あなたが生活する上で、難病療養者のための情報が得られないで困ったことがありますか。(○は1つ)

1. ある
2. 特にない

問 24-1 上記で「1. ある」を選んだ方にかがいます。それはどのようなときでしたか。具体的に書きください。

問 25 現在または今後どのような情報がほしいですか。趣味、スポーツ、教育、旅行など具体的に書きください。

**四街道市障害者基本計画策定のためのアンケート調査
結果報告書**

発行：四街道市 福祉サービス部 障害者支援課
〒284-5555
千葉県四街道市鹿渡無番地
電話 043-421-6122
FAX 043-421-2676

発行年月：平成28年3月
